

を受けし日より自ら誓て決意するの旨趣あり御心得まてに之を申進す可し初め拙者命を受くるの日自ら思へらく余日本に行き何事をか之れ為さんや本国の爲めに公使の本職に勤勉するは固より言を待たずと雖とも其際日本の爲めに謀る事有るも必ず其害と爲る事の如きは一切之を為さざる可しと如斯にして貴国に渡来したりしか森君初て拙者を横濱の旅館に訪はれし時既に此趣意を述へ置けり爾來拙者の心未だ嘗て少しも変せざる事は今日迄行爲の実跡を以て証と爲す可し今後拙者貴国在任中は益々斯の趣意を上進せしむ可くして苟も之を變する事は無かる可きなり

昨年鉅輸入の事ありしとき拙者之を聞くや直ちに其書類を搜獲して之を本国政府に逕送し且つ此の事件に付拙者の意見をも別段申遣したり右は英独兩國の政府より貴国政府に迫て右様の事を爲すは甚た其意を得ざる事にして我国は必ず貴国をして固有の国権を復し貿易の權利を十分に得せしむ可しとの主意なり其書簡の写は公使館の記録中に留め置けり若し閣下御來遊の節あらは具さに貴覽に供す可し其他右に類する事多し御所望の時には何事たりとも皆御内話申進す可し

第二節 井上外務大臣關係

三五 明治五年五月三日

参事院議官井上毅ヨリ
山県参事院議長宛

井上外務卿ノ裁判權條約草案ニ關スル件

外務卿ノ提出案一見致候処実ニ杞憂ノ至リニ堪ヘス方寸如割覺エ候此ノ案若シ已ニ各公使ニ向テ發言ノ後ニ候ハ、皇國ノ大事去 若シ又未タ發言相成ラサル前ニ候ヘハ縱令如何ナル内部ノ分離ヲ生シ候共挽回相成度奉存候
提出案ノ大意ハ四五年間準備ノ後大ニ内國ヲ開クベク其ノ爲ニ

第一 外國人ハ直ニ控訴裁判所ニ向テ始審裁判ヲ求ムルヲ得

第二 外國人關係ノ裁判ハ外國人ヲ雇フタル判事ヲシテ半数又ハ多数クラレメ之ヲ判決スヘシ(此ノ爲ニ廿人ノ外國判事ヲ置ク)

第三 地方裁判ノ外國人判事ヲシテ派出セシメ判事申意見合ハザル時ハ外國派出判事ヲシテ裁決ノ權ヲ執
追捕 井上外務大臣關係 三五

岩公云

段々の御懇話を承り実に銘肝深謝に堪へす必ず近日参堂右書類の一覽を請ひ尙ほ諸事充分の御懇話を伺ふ可し

米公使云

必ず御來訪を期望す何事も聊か伏藏なく吐露す可し最も今日盛衰に列り且つ斯く迄内話を申進たる証として次の郵便には書を我国大統領に送り我国は是非貴國を輔翼し貴國獨立の權利回復の爲め尽力可致旨申立つ可し貴國政府は何様の税則を立らるゝも我國に於て更に異議なかるへし但し我國より輸入の物品の爲め課する所ろの税額他國より輸入の物品に課する所ろより重からざるを要するなり

岩公云

御懇話の趣感謝の至りなり尙ほ近日参堂の節相伺ふ可し云

(岩倉具視關係文書)

ラシム

第四 死刑ヲ以テ外國ニ付シ裁判セシム

第五 外國人ノ望ニ任セ禁錮懲役人ハ領事庁ノ獄舎ニ繋クコトヲ許ス

以上五件ノ特權ヲ与ヘテ我カ内地全國ヲ開カントナラバ外國公使ハ望外ノ満足ヲ顯ハスコト必然ナリ。然ルニ我國ニ於テハ將來不可言ノ大患ヲナシ從テ此ノ事表露スルノ日ニ至ラバ世論囂々遂ニ是レニ因テ二十三年ノ期限ヲ端縮スルニ至ルヘシ

今簡單ニ之ヲ弁駁センニ

第一 凡ソ刑事ハ死刑ト入牢トヲ除ク外ハ只罰金アルノミ今死刑ハ彼ノ手ニ付シ裁判セシメ入牢ハ彼ノ領事庁ノ牢屋ニ於テ実決セシメントナラバ其ノ實ハ刑事ハ仍ホ彼ノ手ニアルト異ナルコトナシ

第二 死刑ニ恩赦ヲ与フルハ天皇主權中ノ重大ナル者ナリ今我ガ法律ヲ犯セル罪人ヲ以テ彼レノ手ニ交付

シ彼レノ国主ヲシテ恩赦ノ權ヲ行フコトヲ約セシメ我カ国体ニ於テ傷害アル如何ゾヤ

第三

外国ニ於テハ現今死刑ノ実行スル者甚ク稀ニ大抵恩赦ヲ以テ放免スルヲ例トス學國ノ如キ數年來一人ヲ刑セズト云フ我國ニ於テハ未タ此ノ如キ寛法ヲ行フノ度ニ至ラズ。然ルニ内外國人ノ間例ヘバ同一ノ罪犯アランニ或ハ又主従ノ罪犯アランニ内人ハ死ニ処シ外人ハ恩免セラレンニ於テハ内國人ハ甘心シテ我法律ニ服従スルノ義務ヲ守ルベキヤ

第四

外国裁判官ヲ使用スル事ハ云フベクシテ行フベカラザルコトナリ外国人如何ニ法学ニ明ナリトテ我國ノ種々ノ法律ト慣習トヲ了知シテ適當ノ裁判ヲナスコト能フベキヤ。又外国人ト日本官吏ト列座シテ殊ニ外国人ノ首長ノ地位ニ置キ裁判ヲ行フコト能フヘキ哉又我政府ハ能ク外国判事ヲ使用シテ彼レノ頭ヲ押フル事能フヘキ歟

第五

既ニ内國全部ヲ開キ外国人ヲシテ内國人同様ノ自由ヲ得サシメタル上ハ外国人ニ限り控訴裁判所ニ訴フルノ特權アラシムルトハ決シテ内國人民ノ承認セサル処ナルヘシ例如ヘハ土佐ノ人民ハ通常ノ

ノ事件ヲ姑ク御抛却有之兩三日專一ニ此一大事件ノミ御考究有之度奉存候生ハ何時ニテモ拝趨猶委細可奉口陳候ヘトモ先ツ以書上奉縷述候心事耽々寐食如忘伏禱諒察頓首

五月三日

毅

山 県 殿

△(附箋)

「此ノ一段ハ死刑ノ「エキゼクシオン」ノミ彼レニ付スル事カト存シ此論駁候処猶委布約スルニ「ジュリジクシオン」迄モ彼レニ付スル筈ナリ」

(伊藤家文書纂)

三六

明治五年六月九日

参事院議官井上毅ヨリ
伊藤参議宛

裁判權條約草案ニ関スル件

御平安奉謹賀候内地何も異狀無之各地府県会も段々閉會に至リ先づ甚敷亂暴にも至るなし彼の府県長官竝に郡區長公撰の建議は一般の流行物と相見候処其の原因は全く大隈河野よりの内密印刷を以て府県会員へ郵投し地方自治は地方官吏公撰より始むるとの説を伝へ候より起り候由に有之候

追補 井上外務大臣關係 三六

訴訟ナラハ高知裁判所ニテ裁判ヲ受クヘキ筈ナルニ外国人相手ナルカ為ニ大阪控訴裁判所マテ出張シテ始メテ裁判ヲ受クベシトナラバ土佐ノ人民ハ必ズ法律ト道理ニ拠リ不服ヲ唱フベシ。此時政府ハ何等ノ答弁ヲナスベキ歟

猶此外ニ居留地ニ不動産ヲ有スル外国人人民ヲシテ地方庁ノ議ニ參預セシムベシトノ一議ハ即チ外国人ニ向テ政權ノ一部ヲ与フルモノニシテ各國ニテモ國法ノ許サル所ナルヘシ独リ独乙ニテハ地方議會ハ其ノ土地所有者ノ代人ナルニヨリ或ハ此ノ例アルナルヘシ

其他四五年準備間ノ約束ハ緊要ナラザルヲ以テ茲ニ略ス右ノ次第ナルニ依リ若シ此ノ提出議実行相成候ヘハ誠ニ國ヲ辱ムルノ新條約ニシテ而モ永久ニ保統スヘキモノナレハ國內ノ物論ハ一時ニ蜂起シ政府ノ失体ヲ責メ人心激動シテ忍ヲ國會ヲ起スノ論柄トナルハ鑑ニ掛ケテ見ルカ如シ思ツテ至此實ニ痛心大息ニ堪ヘズ候

畢竟此ノ提出案ハ「ロエスレル」氏ノ參謀ヨリ起レルモノニシテ其砌り生ハ外務卿ヘ呈書シテ外国人ノ不深切ナル考案ハ採用不相成事ヲ希望致シ候然ルニ今日ニ至リ事已ニ此ニ迫レリ仰キ冀ハ閣下他ノ瑣末

府県会に付小生の考は

- 第一 事業を議するの權を与ふ
- 第二 会期を厳にし伸長を許さず期に至りて閉會せしむ
- 第三 建議の制限を明示し大政に及ぶ事を許さず
- 第四 各府県会互に通議することを許さず
- 第五 必要費目を定め県会の不認可權を限り必要費目に止む

等のこと早きに及て判定せされば来年の会期は如何と掛念奉存候

又自由党は頻りに人民を煽動して百般の苦情を以て請願となし太政官内に逃れるの内謀と相見ヘシベテシオンの事は迄一定の規則無之と存候又一昨年例により官府を愚弄する様のこと無之様山県殿苦心有之近日請願規則制定發布の筈に有之候

扱此に一つの難事出来致し候は彼條約改正の一事に有之候香港まで差出候ロエスレル問答は充分穩當の説も有之と相見候処豈図其皮見彼此の縫合せを心配いたし候歟

我 全国ヲ開ク

彼 死刑禁獄を除く外刑法ヲ回付ス

外国裁判官ノ雇ヒ多數に居ラシム(外国裁判官に付)

等の僻説を以て外務卿へ勸誘し居候様子に付小生は先頃外務卿殿へ呈書をいたし外国人の不親切なる考案御採用不相成様申上置候処其後小生は一向に關係の便を得ず何等の涉取に至り候敷不存知候内近日に至り別冊通りの閣議相決し

(実ハ閣議前已ニ公使へ話シ等有之候由)

議決後に至り山県殿より小生へも(一説)の機会を被与候に付一見いたし候処実に驚き入り候次第に有之候大事一去殆挽回の道無しと奉存候因て早々山県殿へ書面を以て意見申立候へども(此の書面は外務卿も一見被致候)閣中に於て兩三日御評議の末右會議筆記に一二修正を加へ

「例之ハ死刑ヲ外国人ニ交付スルニ定期間ノ」一句ヲ加フルノ類調印被取換候て事相済諸公の考小生如意掛念異議は無之候

然るに小生は此の事に就ては苦心如狂畢竟條約改正とは其の目的は双方最全の区域に進むことに有之候に彼れの爲に我か全国を開き而して我か法権を全く回復せず七分にして止せは辱国の條約にして当局の各大臣は皆売国の人たるを免れざるべし明治政府は今日迄外国に於て交際宜しきを得何も甚布失休無之縱令 運の幸を失ひ政府の更迭に至るとも以て天下後世に恥る事無かるべきに今度の一挙にて變

寸志被下度奉存懇願候

頓首再拜

六月九日認

井 上 毅

伊藤參議殿

再啓

別冊會議筆記ハ外務ヨリ郵送有之事トハ奉存候ヘドモ爲念奉録上候尤モ此ノ内會議後内閣ニテ異議有之候ニ付「死刑ノ処ニ定期ヲ加ヘ」「禁獄ノ処ニ日本獄則ニ從テ云々ヲ加ヘ」「裁判官ノ処ニ若シ日本政府ニテ不用ナリト考フルトキニハ之ヲ廢止ス」云々等ヲ加ヘラレタル由ニテ其レニ「バアクス」ハ大ニ激怒シタレトモ字国初メ各公使ハ皆異議無之バアクスノ罵言ニ對シ字、意而公使ハ大不平ニテ有之候由此先バアレスクヨリ猶内容ノ議ニ渉ルヘシト要求致シ候由ニ付若シ談判破レ候テ(一字不明)心條約ノ儘ト相成候ハ、無此上幸ト奉存候或ハ一応公使タケハ承諾シテ申遣候ハ、英政府ヨリ拒絶シテ是亦天幸ト奉存候尊台ニ在テ御地ニテ何歟方便ハ有之間布哉彼政府ヨリハ必ず在留我公使へ多少質問等可有之奉存候又明台ニ於テ若シ此事一大難事ト被思召候ハ御附屬員ノ中一人至急帰朝御申付有之廟議回復ノ御

追捕 井上外務大臣關係 三六

して有罪の政府と相成永久百年の禍を遺し候事遺憾千萬痛息に堪へず奉存候此一大事は如何にもして如何なる方法を用ひても回復いたし度候処と云へども非常の英断無之候ては小情實に拘り候様の事候ては遂に善後の策は無之只々此上頼む所は明台の御賢慮に有之と奉存候のみ若し幸にして各公使又は各国政府中異議を唱ふるものありて此の會議筆記反故に相成候様の事有之候は、無此上天慶と奉存候へどもバアクス不承知の色あるの外幸国公使等は太に満足の由に有之候へは消滅は六ヶ敷事歟と奉存候

小生所深怪にて今日廟堂諸公は明治三四年以来専ら條約改正を目的とし内政百般の事も右の目的によりて急進の改正も有之候は畢竟全部の回復にこそ有之候に今日一日の會議に於て是を失敗に付し漫然漠視するものは何ぞ聊か「定期ヲ以テ」の一句ありと云へども已に我が全国雜居を許し候上にて法権回復の定期は無之縱令條約に定期の字明載有之候とも遂に無効に歸し候は必然奉存候此の事若し表発成候は、内国民人民決して政府の処置に承認いたすまじく全局の破兆に在此且つ彼の李鴻章如きに嘲笑されても実に口惜き次第に奉存候爾後小生は頭痛を病み出頭の氣力無之候若し萬一何と歟明台の良計も有之候へは御附屬員に被命内々御

注意有之テハ如何

全体外国人ヲ任用シテ内国人裁判官トナス事立憲國ニテハ決シテ有ル間布事ニテ各國ノ憲法ニハ

「凡ソ国民ハ公権ヲ有ス」又ハ政權ヲ有ス又ハ均一ニ官吏タルノ權ヲ有ス等ノ明文有之政權公権ヲ有スルハ所謂国民權ニテ決テ外国人ニ及ブ筈無之故ニ又立憲國ノ人民ハ決テ外国人ノ支配並ニ裁判ヲ受クルノ道理無之候ハ明白ノ事ニテ三尺ノ童モ能知ル事ニ可有之候然ルニ歸化セサル外国人ヲ以テ或ハ傍審トシ或ハ裁判官トシ殊ニ大審院ノ判事檢察長トナスニ至リテハ我レハ是レヲ任用ト称スルモ彼ハ即チエデプトノミクストノ積リニ可有之候又居留地ノ邑會ニ會議ノ權ヲ与フルモ是モ即チ政權ノ一部ヲ与フルモノニシテ憲法ニ妨ナリト存候

法律家ノ説ニ倚ルニ町村會選舉被撰權ハ即チ政權ノ一部ナリ 又我カ全國ヲ開イテ而シテ外人ニ左ノ特別保護ヲ与フルハ是ヲ辱國ノ條約ト云ハズシテ何ゾヤ

- 一、死刑ノ裁判ノ事
- 一、牢獄ノ事
- 一、外国人傍審ノ事
- 一、外国人ノ本屬官吏トシテ辨護人ヲ撰ブノ權利アラシ

ムルノ事

一、違警罪モ高等裁判所ニテ裁判スル事

一、外国裁判官裁判ノ事

右等ハ仏前ノ説法ニテ更ニ喋々煩サズ然ルニ司法卿ヲ始メ諸公甚布異議ナキハ畢竟考案ノ出所ハ外国法学士ニアルト竝事過去ニ屬シ如何トモスル事無之トノ事ニ可有之候小生ハ此事或ハ學公使トロエスレル、シーボルト等内論熟計ニ出候ニテハ無之哉ト切齒ニ堪ズ候御答示次第小生ハ病痼保養ノ為メ退休奉願度心得ニ付ソレ迄ハ何歟好機會ト意外ノ天幸モ可有之歟ト奉存可ヘハドウナリカウナリ致シ推送居可申候 再啓頓首

(伊藤家文書纂)

三七 明治五年七月三日

参事院議官井上毅ヨリ
伊藤参議宛

裁判権條約草案ニ対シ決断ヲ促ス件

清候益々御清適奉拝賀候 東洋異狀無之御放念被遊度奉存候

扱條約改正の一條に就き指屈て御回教奉待候苦神罷在候其

放穆奉祈候條約改正ノ事其ノ後山県殿ヨリ外人特別保護年期短縮ノ建議ニ付外務卿ハ素ヨリ其宿論ノ由ニテ各年期十二年トシテ談判有之英仏公使頗忿怒ニテ已ニ事成ラサルノ景況ニ至候処独乙公使竝其他ノ勅ニテ一応本国へ申遣スヘシトノ事ニ迄決候由右ノ都合ニ候ヘハ英仏本国ハ十二八九ハ異論ニ相違有之間布敷若居合付兼候テ断然旧條約ニ依ルノ外無之トノ廟議ニ相決候誠ニ小生等ハ為邦家大慶不過之奉存候竝ニ不開港所沿海運輸ノ件モ年期ノ話ニ至リ議不叶モノニ相見候右ハ詳細外務卿竝ニ山県殿ヨリ御申遣有之候事ト奉存候ヘトモ一応略奉録上候郵船期モ迫リ勿々拝啓不悉

頓首再拝

七月二十九日

伊藤参議殿

(伊藤家文書纂)

三九 明治五年五月

勝海舟建白書

所謂鹿鳴館姪蕩時代ニ於ケル甘藷條建白書

一 論鋒不合彼れ我れ見を殊にすと中心不快にて萬不折合

追捕 井上外務大臣関係 三九

後再次山県殿へ差出書面写奉供貴覽候猶新外務大輔も外務卿同意の由に承及候へは百事已矣と奉存候畢竟寡人政府の惡結果至是而著しと存候大厦非一木所支咄々

近日福沢副島等頻々官民調和論の主張の向有之候へ共外交上如是不始末にては行先何等の政略も無覺束奉存候憲法並外交上の目的合一せすして一時の調和は却て後日破裂の基歟と度憂慮奉存候

前條に約し既成案を破るにはとても尋常一樣のことにては六ヶ敷若高明に於てか小情実にて依て彌縫手段を被用候位のことにては大事挽回難成奉存候 頓首再拝

七月十三日

伊藤参議殿

此一書御一覽後直に御火中奉願候

(伊藤家文書纂)

三八 明治五年七月二十九日

参事院議官井上毅ヨリ
伊藤参議宛

山県参議ノ外人特別保護年期短縮建議ニ関スル件

益々御清祥奉敬賀候東方無異狀諸公安安全野生輩碌々瓦全御

と島渡見候得は其の異なる点同様には見得候へ共結果大に異なれば邦家或は一家と雖も各心中不快を懷き不折合に候得は富豪の家は貧家と交し邦家に於ては貧国に移り可申經濟の要一國不快ならざる事最も第一の注意すべき緊要の点に御座候事

一 旧政府天保の末年には儉素の力にて国産近世に無之充實致候得共一家不折合を生し候時より忽ち金庫空缺一生し何かに耗損候哉と存候様相成り誠に實際に臨み尤確と致し候後鑑と存候事

一 戊辰已來は百萬石の持高纔に七拾萬石と相成候得共一家の不折合を生ずる計りにてかつ今日まで生活相立ち候是又經濟の要和不和に止まり候能き實驗と存候事一年々下民貧困に陥入り候様に及べば是より遡昇り府政の缺乏を生じ候事久しからず是を實際に顯るゝ様なる形勢と可相成痛心の儀に御座候是等の処最も厚く御注意の事

一 邦家の政權近來にては旧薩長両藩人にあらされは掌握難きか如く衆人相心得他は絶念の恨に候何人にては宜敷候得共右様之人情にては両藩人自から政權を争ひ候形勢に陥入可申候間各少しも御隔意御心中に無之様益々御協

和破被度候事

一 両藩人は他藩人よりも一層も二層も御さしはまり御心思を苦しめ可相成丈け偏頗に不相成様御心掛專一と存候事

一 是迄当藩人互に御協和勉て御一致の姿下より見候得ば顯然に候得共猶厚く御注意有之度藩士敗北被為候共邦家転覆は致間敷候得共他に両藩人の如く心思伸び精力強きは無之候間自重有之度候事

一 近來高官の方がさしたる事も無之に宴集夜会等にて太平無事奢侈の風に御流れ候哉に相見へ候何とか御工風穩便の御宴会に被為度候事

一 舞踏会盛んに被行附いては淫風の媒介となる如き風評も下にては紛々窃に相伝候左様の儀萬々有之間敷候へ共今少し御控へ所謂ゆる程能く被成候方宜敷候事

一 此二箇條はどうにても宜敷儀ながら下民困窮の余り喋々訛伝に至り終に偽をして真と成し又真を偽となし候情有之外国人共思誤無之とも申難く左様にては大に萬事相響を生じ候様相成可申と存候事

一 御東幸以來近年に及び候得は唯た下民厚税に困み候のみにて荷恩の感覺愛国の精神減耗候哉に存候下民と雖も

一 米作を廢し田畝を變革候事は中々出来難き儀に候間先づ其儘にて宜しき事は御手を附られざる方可然と存候事

一 田租は低く相成候得共国内は旧より賦課大に相増り下民困窮相極め候牧民の事厚く御注意有之度候事

一 幕法兎角御好み不被為無益の御改正御座候得共幕法とて徳川家にて元來新法相立候儀には無之総て旧慣に依り其弊を改めし迄の事に候処久しくして再び弊を生じ良法掩はれ候儀にて候能く御調へ相成候は詳悉御了解相成候事

一 慶長以來邦内の金野總数多からず候処維新以來其半ばを消費せしのみにて別段富国の基相立ち候や分り不申候是等は多年取調べ置候書物有之明了にて候自今以後支那の交易を盛にし後年富国の基礎相成候様御計画有之度候事

一 支那は隣国誠に我國の制度文物悉く彼の物より伝來せし国柄故今更仇敵の様御覽なされず信義を以て厚く御交際片寄り不申愛憎偏頗に不陷様被成度候既に旧政府の轍も有之能く御鑑みの事

右等の事共は數年來林下に罷在り志士論客の内話を窃に聴取候所あらましにて全く私の意匠に出候儀にては無之

心掛け宜しく士大夫に恥ざるものも可有之是等時々御取調家税御免とか或は恩賜等にて特別に御賞被成氣象御引立有之度候事

一 近來洋學大に進旧洋學者輩の陳腐に属する者草莽に多く相成候 是等は時として其上等なるものは公然拜謁被仰付中以下と雖も時々御取調べ御褒詞或は學資被下旧時の功勞湮滅せざる様御優待有之度候事

一 邦内長里数の鉄道は人民の便利のみに無之軍備の必要其多きに居り候事故に陸軍省にて多人數徵兵を被召候事を被止鉄道築造に費用御差出相成度候事

一 近衛兵は可成丈士族の子弟御撰抜御用相成度候事

一 総ての御改良甚だ恐懼ながら御規模遠大ならず目前の成效を急ぎ被成候故小事に汲汲としてまた成就せる前既に財用の缺乏し半途にして止候事而已多く財宝は海外に出不返年々窮乏を告げ終に何事も好結果を見ざる様成行可申と存候事

一 數百年の慣習は一朝に改り候事には無之候御維新以來御改の應二十年を経て元に復し居候事甚だ多く従前の御改革は無用徒勞に屬し是れが為めに財用莫大空しく消費候事

御優渥の天恩感佩の余り不避忌嫌無腹藏申述候儀に御座候総て世上の事は寛濶正大の中に移換候儀は自ら公平にと行候訳にて既に幕府の末路瑣事に汲々として人物も育ち中間敷形勢の処(中略)横井、佐久間、西郷、大久保、木戸数氏の如き人物委死致し候後後世具眼の者必ず定論も可有之是事も現今に及び候ては一睡の夢と相成り申候も今日事行末今ま二十年も経候はゞ成程同一大樞泉下に相逢て相哭可致は不可免の數の候間後年今日に立勝り候様の人物輩出候様に御工夫專一に候方今の高官何れも御一世に余さず洩さず可被成遂とて御性急は勞して其功無き事顯然の儀に候既に目今の英士を培養せしは寧ろ誰れなる乎御閉目御一考被成候はゞ既座に御了解相成る可きことゝ存じ存件々陳腐に屬し候得共無詔の直言讞片の微衷宜しく聴納奉希候也

明治二十年五月

(勝海舟全集)

四〇 明治三〇年七月

井上外務大臣弁議

農商務大臣谷子意見書ニ対スル弁議

外務大臣伯爵 井 上 馨

農商務大臣谷子近々欧米視察ノ命ヲ了シテ帰朝シ意見書一篇¹ヲ作り之ヲ内閣ニ提出セリ而シテ其意嚮現内閣ノ政略ニ一致セズ殊ニ條約改正ノ事ニ関シ痛ク其意見ヲ述ベテ曰ク今ヤ干城我國百事ノ中ニ就キテ之ヲ考フルニ論ズ可キモノ実ニ多シ而シテ最重ク且ツ最急ナルノミナラズ興廢存亡ニ関スルモノアルヲ見ル何ゾヤ條約改正其一ナリト云ヒ縷々數百言專ラ本大臣ガ明治十三年以來從事タル條約改正ノ方略其當ヲ得ザルヲ論ジタリ谷子ガ内閣同僚ノ一人トシテ之ヲ為スヤ本大臣ニ於テハ固ヨリ其意忠誠ニ出ルコトヲ疑ハズ然レドモ反覆之ヲ諦觀スルニ通篇全篇實ニ本大臣ガ平素憑拠スルノ主義ニ異ナルノミナラズ實ニ明治十五年以來内閣一定ノ議ニ反對シ且ツ往々事實ニ反セリ今ヤ谷子内閣ノ一員タルノ地位ニ立チナガラ決シテ言ヲ得ザルノ事項少ナカラズ本大臣ハ各大臣ノ之ヲ一読シテ必ラズ此觀察ヲ同ジクセラルルコトヲ信ズルナリ但ダ本大臣ハ現ニ職ヲ外務ニ奉ジ條約改正ノ事ニ任ズルヲ以テ谷子ノ異見ニ對シ黙々看過スルコトヲ得ズ依テ逐一之ヲ弁駁シ以テ谷子ノ厚意ニ

メ閣議ヲ乞ヒタル所ナリ左レバ本大臣ガ今日勅ヲ奉ジテ從事スル処ノ條約改正ノ主義大則ハ皆ナ豫ジメ閣議ヲ經テ上奏 勅裁ヲ仰ギタルモノニシテ本大臣ハ各大臣ガ必ラズ善ク之ヲ記セラルルコトヲ信ズルナリ是故ニ今日日本大臣ガ條約改正會議ニ於テ執ル処ノ主義大則ハ即チ一定ノ閣議ニシテ其各大臣ノ持論ト毫モ相異ナルコトナキヤ明々ナリ條約改正ノ主義大則ニシテ既ニ内閣一定ノ議ニ出ルモノトスレバ之ニ對スル責任モ亦決シテ本大臣独リ敢テ担承スベキニアラズ然レドモ本大臣ハ初メ此條約改正全權委員ノ命ヲ奉ズルニ當リ心竊ニ自誓テ本大臣ガ生命名譽マダテ之レガ犠牲ニ供スベシト決心シタリ左レバ他日此主義大則ニシテ或ハ我國家人民ニ害アルノ結果ヲ見ルニ至ラバ本大臣ハ固リ独リ其責ニ任ズルコトヲ辞セザルベシ且ツ條約改正ノ主義大則既ニ一定セル上ハ其條款節目ノ末ニ至ルマデモ一々内閣ノ議ヲ乞フハ實ニ做シ得ザルノ事ノミナラズ苟モ全權委員ノ任ニ當リタル者ハ実ニ做スヲ要セザル事ナリ凡百ノ集合會議ニ於ケルモ其例皆ナ然ラザルハナシ況ヤ此條約改正委員會ノ如ク各國全權委員ノ集會ニ於テヤ會議ノ際機ニ臨ミ変ニ応ジテ其宜ヲ制セザル可カラザルハ固ヨリ論ナシ是レ亦豫ジメ各大臣ノ議ヲ乞フテ本大

追補 井上外務大臣関係 四〇

酬ヒ併テ各大臣ノ一覽ヲ乞ハント欲ス是實ニ本大臣ガ本職ニ於テ避ケ得ザルノ職務ナリ

夫レ政府ガ現在ノ條約ヲ改正セザル可カラズトノ議ヲ決シタルヤ已ニ久シ明治十五年始メテ條約改正會議ヲ開キ本大臣ハ實ニ内閣ノ決議ヲ經テ

皇帝陛下ノ聖旨ヲ奉ジ、外國人民ニシテ自今日日本國裁判ニ服從シ以テ從來我帝國ノ進歩ニ恰好セズ及ビ我國民ノ銳意熱シテ改革ニ從事スル精神ニ反對ナル彼ノ異常ノ情況ヲ改正スルトキハ我

皇帝陛下ノ政府ハ其自由ノ權理ニ於テ断然各國人民ヘ住居貿易及ビ不動産ノ所有權ヲ讓与ス可シ¹ト當時ノ各國委員ニ對シテ宣言シタリ當時不幸ニシテ此會議ハ僅カニ一二回ニシテ閉會シタリト雖モ其後幾多ノ計畫ヲ尽シ困難ノ論議ヲ經過シ終ヒニ明治十七年五月間英國公使ヨリ始メテ覺書²ヲ送ルニ至リ更ニ之ヲ參酌取捨シテ改正ノ成案トナシタリ於是テ

皇帝陛下ハ本大臣及ビ外務次官青木周藏ヲ以テ全權委員トナサレタリ依テ昨年即チ明治十九年五月各國全權委員ヲ會同シ會議ヲ開キタルニ英公使ハ連署シテ更ニ覺書³ヲ提出シ遂ニ今日ノ次ニ達セリ此始末ハ當時毎ニ詳ニ上奏シテ豫

臣ガ領收セル權限ナリ此ノ權限ヲ与フルハ歐洲諸國ガ此等ノ場合ニ於テ常ニ實行スル処ニシテ決シテ我國今日ノ條約改正ニ當リ安リニ新興特別ノ例ヲ聞キタルニアラザルナリ然ルニ谷子ハ條約改正内地雜居等ノ大体ニ付欧米碩學卓偉ノ士ニ諮問シタルニ我國ノ如ク秘密ヲ主トシ之ヲ外務ニ放任スルモノ有ルヲ見聞セズト云々セリ本大臣ハ谷子ノ所謂碩學卓偉ノ士トハ其果シテ誰タルカヲ詰ルコトヲ要セズ斯ル事實ヲ誣ヒタルノ問ニ向ツテハ欧米碩學卓偉ノ士モ殆ンド其答ニ窮シタルコトヲ信ズルナリ何ントナレバ前段陳述スル如ク條約改正ノ主義大則ハ悉ク内閣一定ノ議ニ由リ及ビ其條款節目ヲ議定スルノ權限ヲ以テ全權委員ニ与ヘタルモ亦タ内閣一体ノ同意ニ出タル者ニシテ決シテ之ヲ外務ニ放任シタルモノニアラサレバナリ且ツ各國ニ於テモ凡ソ條約改正ノ如ク外國ニ關スル事項ヲ議定スルノ委員ハ大抵本職ヲ外務省ニ奉ズル者ヲ勅選シテ之ニ任ズルヲ以テ例トスレドモ其國君主ノ意ニ隨ヒ何人ヲ以テ之ニ任ズルモ固ヨリ妨ゲナキモノトス故ニ本大臣ガ條約改正ニ從事スルモ亦

我 皇帝陛下ガ以テ全權委員トナサレタルノ資格ニ因ルモノニシテ決シテ外務大臣ノ職ニ在ルガ為メニアラザルナリ想フ

ニ斯ル明着ナルノ理ハ谷子モ亦タ固ヨリ之ヲ知ル処ナラン
然ルニ何故ニ外務ニ放任シ或ハ外務ニ移ス等ノ言ヲ用キテ
敢テ事實ヲ誣ヒタルヤ本大臣ハ甚ダ之ヲ解セサルナリ
谷子又曰ク蓋シ歐米諸國孰レノ邦國タルヲ論ズ斯クノ如
ク國家重大ノ事ヲ決スルニ当リテハ先各省ノ長官ヲ集メ広
ク意見ヲ諮ヒ詳カニ利病得失ヲ論究決定シ而シテ之ヲ外務
ニ移スモノニシテ外務ハ唯ダ之ヲ轉達スルニ過ギザルナリ
然ルニ各省長官ヲ集メ云々等ノ事ハ前段已ニ之ヲ論述スル
ヲ以テ敢テ再ビ之ヲ論弁スルヲ要セズト雖モ其外務大臣ノ
職ヲ目シテ各省大臣ノ決議ヲ傳達スルニ止マルト云フニ至
ツテハ本大臣此ニ一言セザル可カラズ抑外務大臣ノ職タル
其邦ノ外交政略ヲ計画スルニ方ツテハ時或ハ内閣同僚ノ意
見ヲ俟テ之ヲ直チニ上奏シ已ニ勅裁ヲ得ルトキハ亦内閣同
僚ノ協議ヲ俟タズシテ之ヲ決行スルノ權利アルモノトス且
之ヲ以テ歐洲數大國中首相ニシテ外務大臣ヲ兼任スルモノ
アルハ全ク前述ノ意ニ外ナラザルナリ

我國ノ法律ヲ改正シ專ラ歐洲文明國ノ主義ヲ取用ルハ維新
以來我政府及人民ノ其企望ヲ同クシテ俱ニ趨ク所ニシテ條
約改正ノ事アルニ至テ我國ノ法律ヲ改正セザル可カラザル
ノ議始メテ起リタルニアラズ即チ刑法治罪法ノ如キ七年前

我國家人民ノ必需スルノ要件ノ何物タルヲ知ラザル者ト云
フベシ

谷子曰ク我が法律規則ニシテ不幸ナルモノアラバ之ヲ改正
スルコト最希望スル所ナリ唯建國歴史ニ暗ク習慣風俗ヲ殊
ニセル者ニ協議シ、習慣風俗ヲ殊ニセル者ニ諮問シ習慣風
俗ヲ殊ニセル者ノ意ニ滿ソルノ法律規則ヲ改制シ以テ其欲
心ヲ需メント欲スルアラバ是則獨立ノ大權ナル立法ノ範圍
ニ他人ノ干渉ヲ許スモノニシテ、國家ノ衰廢楷梯ヲ作ルモ
ノト斷言セザルヲ得ズ」ト然ラバ則チ谷子ハ現今我政府ニ
於テ歐洲文明ノ主義ニ依リ法律ヲ改制スル為メニ數名ノ外
國法律學者ヲ雇使スルヲ以テ亦タ獨立ノ大權タル立法ノ範
圍ニ他人ノ干渉ヲ許スモノトスルカ是モ亦謬見ノ甚キ者ニ
アラズヤ想フニ谷子ハ主權ノ義ニ於テ會テ其思ヲ致サザリ
シナラン本大臣ハ殆ンド之レガ弁ヲ費スコトヲ要セザルナ
リ

本大臣ハ特ニ谷子ニ告ゲン現今ノ條約コソ実ニ我國ノ主權
ヲ害スル者ナリ現條約ノ外國人ニ与ヘタル特典コソ実ニ我
國ノ主權ヲ傷ル者ナリ然ルニ谷子ハ我邦現今ノ如ク主權ヲ
損傷セラルルノ有様ヲ目シテ実利上ノ害ハ名譽ノ上ノ惡キ
ガ如ク甚シカラズトスルハ本大臣甚其解釈ニ苦シムナリ已

既ニ改正布告セラレ民法訴訟法等ノ如キモ數年前ヨリ編纂
ニ着手セリ但シ法律改正ノ事ハ條約改正原則ノ一ニ居ルモ
ノナレバ條約改正ノ進捗ニ從ツテ愈々之ヲ忽カセニス可カ
ラザルハ勿論ナリ然ルニ此法律改正ノ事ヲ以テ全ク外人ノ
欲心ヲ買フガ為メニスル者ナリト謂フハ其事実ヲ誣スル
モ亦太甚シト云ハザル可カラズ抑モ今日我國ノ法律ヲ改正
セザル可カラザルハ決シテ獨リ外國人ヲ支配スルニ必要ナ
ルガ為メノミニアラズ外國人ヲ支配スルノ上ニ於テ更ニ一
層必要ナル者アルニ因ルナリ何トナレバ今日我國ノ如ク百
般ノ人事物件則チ歐米文明國ニ取ルノ秋ニ方リテハ其事其
物ヲ支配スルノ法律モ亦同ジク之ヲ採用スルニアラザレバ
事々物々支離滅裂シテ復タ收拾スベカラザルニ至ルハ必
然ノ勢ナレバナリ即チ人權何ニ由テ立チ物權何ニ依テ確カ
ナルコトヲ得ベキ乎故ニ本大臣ハ縱令ヒ不幸ニシテ條約改
正ノ功ヲ奏スルコトヲ得ザルトスルモ尙ホ我國ノ法律ハ可
成的歐洲文明ノ主義ニ遵ヒ之ヲ改正セザル可カラザルノ急
アリトスルナリ是モ亦タ各大臣其感ヲ同ジクセラルル処ナ
ラン是ニ由テ之ヲ纏レバ谷子ガ今外人ノ為ニ此法律規則ヲ
更革セントスルハ獨立ノ精神ナキニアラズシテ何ゾヤト云
フハ獨リ條約改正ノ主義大則ヲ度外視スルノミナラズ實ニ

ニ名譽ナク又主權ナシトスルトキハ國實ニ其國ニ非ラザル
ナリ是我邦政府今日攷々汲々トシテ所執ノ主義ニ非ラズヤ
夫レ我主權ヲ傷ル所以ノ者ヲ除カント欲スレバ宜シク外國
人ニ与ヘタル特典ヲ取還サザルベカラズ然レドモ此特典ハ
外國人ニ在テハ所謂永久ク返リテ返スコトヲ欲セザル者ナ
レバ今之ニ代ルニ相當ノ利益ヲ以テセズシテ獨リ之ヲ取還
サント欲スルハ縱令ヒ此ノ特典ハ我ニ於テハ主權ヲ傷クル
ニモセヨ原ト條約ヨリ之ヲ与ヘタル者ナレバ單ニ此一事ニ
就キ之ヲ言ヘバ我獨リ利益アリテ彼獨リ損失アルノ結果ト
ナルベシ是レ吾人匹敵ノ間ニ於テモ猶且ツ能ク行ヒ得ベ
キ事ニアラズ況ンヤ兩國相交ハルノ際ニ於テヤ故ニ苟モ
我ニ得ル所アラント欲セバ亦タ彼ニ讓ル所ナキコトヲ得ズ
即チ昨年條約改正ノ會議ニ於テモ最初ハ讓与スルコトヲ期
セザリシモ彼ニ与フル特典ヲ取還サンガ為メ、遂ニ讓与シ
タルノ事項モ亦タ之ナキニアラズ然レドモ其ノ我ガ主權ヲ
傷ル者ニ至ラハ本大臣ハ力ノ及ブ限り之ヲ恢復スルコトヲ
勉メタリ想フニ各大臣ハ本大臣ガ嘗テ内閣ニ提出シタル會
議錄ニ就テ既ニ之ヲ熟察セラレシナラン本大臣ハ特ニ谷子
ノ更ニ之ヲ一読センコトヲ乞フナリ
且夫レ事ノ大小ヲ問ハズ現ニ之レガ責任ヲ有スル者ガ其正

当ノ権限内ニ在ル事ヲ行フ場合ニ当リ若シ側ヲヨリ其是非得失ヲ議セント欲スル者アラバ徒ラニ其既往ノ成跡ニ就キ之ヲ非難スルノミヲ以テ足レリトナスベカラズ必ラズヤ身ヲ該責任者ノ地位ニ置キ之ニ代リテ行フ可キ心算方法ヲ明言セザル可カラズ然ニ今ヤ谷子ハ本大臣ガ從事シタル條約改正方略ノ失当ヲ論ジナガラ會テ其自己ノ將ニ執ラントスル方略ヲ示サズ、特ニ其意見書ノ終ニ臨ミ條約改正ハ固ヨリ断行セザル可カラズ然レドモ之ヲ今日ニ行フハ策ノ得タル者ニアラズ云々又タ明治二十三年現政府ノ組織ヲ一變シ立憲公議ノ新政ヲ施行セル後ニ至リテ始メテ断行スベキナリ云々彼ノ最憚ル所ハ公議輿論ニ若クモノナシ云々依頼主義ハ彼レ大ニ卑ム所却テ輕侮ヲ招ク可ク云々其改正案ノ如キモ凡テ天下ノ人民ニ謀リ公議輿論ヲ俛リ以テ是非ヲ世界ノ公論ニ訟ヘ侃々諤々誓テ断行スルヲ期ス可キノミ云々今夫レ立憲政体設立ノ後ニ至リ外交官ハ 天皇陛下ノ聖意ヲ奉戴シ立法官ノ決議ニ基キ更ニ天下人民ノ輿論ニ拠リ條約改正ノ談判ヲ開キ(中略)彼猶我ガ言ヲ聽カズ不正不理ノ舉動ヲナサバ断然身命ヲ国家ノ犠牲ニ供シ成否ヲ兵馬ノ間ニ決スルノ志操ヲ示セバ、彼豈ニ我ガ説ヲ容レザラシヤ云々等漠然タル言辭ヲ連掲スルニ止メタリ是豈ニ本大

ノ弛張ニ関スルモノナレバ本大臣ハ各大臣ノ最モ留意密察セラレンコトヲ望ムナリ

又タ谷子ガ依頼主義ハ彼ノ大ニ卑ム所却テ輕侮ヲ招クベシト云フハ谷子ハ豈ニ本大臣ガ閣議ヲ經テ從事スルノ條約改正ノ方略ヲ以テ徒ニ外国ニ依頼スルノ主義ヲ執スモノトスルカ是モ亦タ謬言ノ甚シキ者ナリ本大臣ハ谷子ニ向ヒ本大臣ガ何等ノ場合何等ノ事件ニ於テ彼ノ卑ム所トナリ彼ノ輕侮ヲ招ク可キ所謂依頼主義ヲ執リタルカノ實證ヲ挙ゲテ、一々之ヲ明示センコトヲ乞ハザル可カラズ

谷子ハ又タ條約改正ノ事ニ付締盟條約國中ニ一二提議ヲ唱ヘテ不服ナル者アルモ其他必ラズ我ガ救援ヲナスモノアルベシトシ歐米諸邦ノ勢我ニ敵スルモノアラバ亦必我ニ同盟スル者アリト断言セリ然レドモ我國ニ於テハ旧幕以來常ニ締盟外國ノ連帶政略ニ苦メラレ我常ニ孤立ノ困難ヲ受ケタルハ各大臣モ亦善ク之ヲ記セラルル所ナラン幸ニ本大臣カ乏ヲ外務ニ承ケシヨリ以來百方苦心漸ク此ノ困難ノ幾分ヲ免ルルニ至レリト雖モ尙ホ未ダ全ク彼等ガ連帶政略ヲ破リ得タリト確言スルコトヲ得ズ況ンヤ列國互ニ相敵対シ若クハ同盟スルハ其然ル所以ヲ原由ナクシテ之ヲ偶然ノ結果ニ望ムベカラザルヤ本大臣ハ谷子ノ問ニ如何ナル原由カ果

臣ガ内閣同僚ノ一人タル谷子ニ望ム所ナラン哉且右谷子ノ漠然タル言辭ノ中ニ於テ明治二十三年現政府ノ組織ヲ一變シ立憲公議ノ新政ヲ施行セル後云々ノ一節ニ至リテハ谷子ハ頗ル立憲政体ノ大則ヲ誤解スルニ似タリ蓋シ谷子ハ何故ニ條約改正ノ事ヲ明治二十三年ノ後我國ニ立憲政体ヲ施行セラルルノ後迄延引スルカ尋ヌルニ谷子ノ意ニテハ其之ヲ改正スルコトヲ我國ノ人民ニ謀ルノ必要アリトシ其之ヲ人民ニ謀ルハ国内ノ輿論ヲ俛リ是非ヲ世界ノ公議ニ訟ヘント欲スルモノノ如シ嗚呼何ノ国力斯ノ如キ奇怪ナル外交ノ道ニヨル者アラン何トナレバ帝國王国ノ外交事務ハ政体ノ如何ニ拘ハラズ通ジテ之ヲ皇權ニ屬スルモノトシ宣戰講和ノ大事ト雖モ未ダ曾テ其國人代議士ノ意見ヲ問フコトヲ要スル者アラザレバナリ況ンヤ締盟兩國ノ間ニ在テ其條約上ニ多少ノ改正ヲ加フル如キ場合ニ於テヤ然レバ我國ニ於テ明治二十三年立憲政体ノ新政ヲ施サルノ後ニ至ルモ、此種ノ皇權ニ於テハ毫モ今日ニ異ナルコト無ル可キ筈ナルニ谷子ハ是レ我 天皇陛下ノ真意ナリ立法官ノ決議ナリト云々スルハ豈ニ此種ノ皇權マデモ之ヲ 皇室ヨリ殺イテ立法官ニ移サント欲スル者ニアラズヤ誠ニ然ラバ是レ其言タルヤ独リ條約改正ノ問題ノミナラズ大ニ將來 皇權

シテ某國ヲシテ我國ニ同盟セシムルノ結果ヲ生ズル者タルヲ説明センコトヲ乞フナリ谷子ハ又タ我求ムル所正我説ク所公云々彼猶我言ヲ聽カズ不正不理ノ舉動ヲナサバト云々セリ本大臣ハ谷子ガ所謂求ムル所トハ何事ゾヤ説ク所トハ何事ゾ其我言ヲ聽カズトハ何事タルカヲ知ラズト雖モ其語勢ニ就テ之ヲ察スルニ蓋シ其意現今ノ條約ヲ改正スルトキ我ニ於テ当然ノ正理ニシテ彼レ之ヲ拒ムハ是不正不理ノ罪彼ニ在ルモノナリト云フニ似タリ果シテ然ラバ是モ亦タ甚タ外交ノ事理ニ昧キノ言ナリ何トナレバ現今ノ條約ハ縱令ヒ我ニ於テ害アルニモセヨ彼我政府ノ全權委員ガ商弁訂立シタルモノナレバ今ヤ之ヲ改正スルモ亦タ必ズ適當ノ順序ニ因ラザルヲ得ズ苟モ具順序ニ困レバ之ヲ改正セント云フモ將ク之ヲ改正セズト云フモ彼我俱ニ其權理アリテ其拒否ハ直ニ以テ不正不理トナスコトヲ得ザレバナリ之ヲ切言スレバ其改正ヲ欲スルト否トハ一ニ其國ノ利害便否ニ在ルノミノコトニシテ此國ニ利アル改正モ彼國ニ害アレバ之ヲ拒止スルノ權アルコト論ヲ俟タズ條約改正ノ問題ハ專ラ利害ノ上ヨリ觀察ス可ク之ヲ正邪ノ判断ニ訴フルコトヲ得ザルモノナリ

谷子ハ又タ我國ノ會議ヲ論及ビ内外ノ新聞演説ノ応援ヲ假

リ以テ條約改正ヲ行フノ利器トセントセリ本大臣モ亦固ヨリ此応援ヲ俟ルノ必要ナシトハ云ハズ苟モ之ヲ使用スルノ時機アレバ決シテ等閑ニ附セシコトナク又附セサルベシ然レドモ我國今日内外ノ關係情況ハ決シテ斯ル單純ナル一手段ニノミ頼リテ輒チ條約改正ヲ成シ得ルモノニアラズ夫レ歐米文明ノ邦國ニ在テハ其國ノ公議ヲ論フ代表スル新聞演說多少直接ニ其勢力ヲ政治上ニ及ボシ其國政治家常ニ之ガ為メニ勳カサルコトアレドモ是レ一國內ノ新聞演說ト其政治家トノ關係ニ止ルモノニシテ甲國ノ會議ヲ論或ハ新聞演說ガ乙國乃至丙國ニ及ボスノ勢力ニ至テハ全ク其性質ヲ異ニスルモノトス何ントスレバ乙國若シクハ丙國ガ何故ニ甲國ノ會議ヲ論新聞演說ノ勢力ニヨリテ勳カサルカト問ハシニ其勢力ガ直接ニ甲國ノ政府ヲ勳カシ遂ニ之ヲシテ乙國乃至丙國ニ對スルノ政略ヲ變更セシムルコトヲ恐ルレバナリ即チ此場合ニ於テ甲國新聞演說ノ乙國ニ於ケル勢力ハ間接ニ其勳ヲナスモノトス左レバ甲國若シ強國ナレバ會議ヲ論新聞演說ノ勢力ノ乙國乃至丙國ニ及ブ度モ亦タ大ナルベク之ニ反シテ甲國若シ弱國ナレバ其會議ヲ論新聞演說ノ勢力ノ乙國ニ及ブ度モ亦タ小ナルベシ故ニ此國公議ヲ論新聞演說ノ彼國ニ及ボス勢力ノ大小ハ單ニ此國ノ強弱如何ニ

スルモ苟之ヲ聞カント欲スレバ何事ニシテカ聞クコトヲ得ザラン然ルニ是ヲ之レナサズ近々伝フル者アリ云々若シクハ聞ク所ニ因レバ云々及ビ干城ハ固ヨリ局外ニ立ツ者云々等ノ言ヲ用キタルハ果シテ何ノ意ゾヤ自ラハ内閣大臣ナリ事ハ則チ閣議ヲ經 勅裁ヲ仰ギタル者ナリ而シテ之ヲ論ズルニ當リテ自ラ以テ局外ノ人トナス是實ニ事實ヲ誣スルノミナラズ併セテ亦自ラ欺クモノニ非ラズヤ思ハザリキ谷子ノ言此ニ至ラントハ本大臣ハ谷子ガ能ク翻然トシテ其非ヲ悟リ、我内閣ノ政略ニ一致センコトヲ冀望ス然レドモ若シ各大臣ヲシテ谷子ノ說ヲ以テ是トナシ其政略ヲ以テ從前ノ政略ニ優レリトナサバ本大臣ハ復何ヲカ言ハシ請フ各大臣能ク之ヲ図ラレンコトヲ

註 123 夫々二卷一五六文書附屬書三、一一〇文書附屬書、一四七文書附屬書五參照

四一 明治三年七月三日 (飯) 伊藤總理大臣弁駁

註 谷子ノ意見書ハ七月三日ノ提出ナレバ仮リニ同月日付トス

谷子爵意見書ニ對スル伊藤總理ノ弁駁
追補 井上外務大臣關係 四一

在ルノミ是ヲ以テ露帝独相ノ一顰一笑ノ勢力ハ白耳義希臘會議ヲ論新聞演說ノ勢力トハ決シテ同日ノ談ニアラズ新聞ト云ヒ演說ト云フ豈ニ名ノミ云ハシ哉本大臣ハ谷子ハ果シテ今日我國ノ力能ク我新聞演說ヲシテ英獨露仏ノ政府ヲ勳カスニ足ルノ勢力ヲ有セシムルモノト為スカ否ヲ知ラザルナリ

若シ谷子ガ内閣大臣トシテ之ヲ提出シタルニアラザラシメバ本大臣ハ殆ンド初メヨリ弁ヲ費スコトヲ要セザリシナリ唯其内閣大臣トシテ之ヲ提出シタルノ故ヲ以テ言遂ニ此ニ及ベリ嘗是レノミナラズ以下諸節ノ如キハ谷子ハ内閣大臣ノ一人トシテ其職掌上果シテ應ニ言ヒ得ベカラザルノ言ナラザル乎曰ク近者伝フル者アリ多年國人ノ心ヲ苦シメ思焦シテ熱望シタル條約改正云々曰ク又タ聞ク所ニ依レバ我從來ノ法律規則ハ外國人ニ不適當ナルモノ多クレバ云々曰ク干城ハ固リ局外ニ立ツ者ナレバ其真ニ果シテ何点ニ論及シ何ノ利害ヲ關議シ何事ヲ決セザルヤ其機密ニ至リテハ之ヲ明知スルコト能ハザレドモ云々夫レ谷子ハ現ニ農商務大臣トシテ内閣ニ列スルノ一人ニアラズヤ即チ凡ソ閣議ヲ經由スル者ハ職掌上決シテ之ヲ知ラズト為スコトヲ得ズ若シ其ノ海外ニ在リタル等ノ故ヲ以テ真ニ之ヲ知ラザル者アリト

我從來ノ法律ハ外國人ニ不適當ナルモノ多クレバ外人ノ服從セサルハ固ヨリ其所ナリ我從來ノ法律ハ何等ノ法律ヲ指スカ我國ニテハ從來歐洲ノ所謂法律ト對照スルモノアルコトナシ又曰『故ニ務メテ外人ニ適當ナル法律規則ヲ作り以テ外人ノ欲心ヲ買ハント欲ス』我國維新以來新法ヲ創施スル多クハ歐米文明諸國ノ法律ヲ取り之ヲ取捨折衷シテ我ニ適スルモノト為ス是レ必竟我從來ノ法律ニシテ完美彼ノ如キモノナク我政治ヲ改良シテ國家ノ進歩ヲ企図セントスルニハ我國臣民ノ為メニ模範ヲ彼ニ取ラザルヲ得ザルヲ以テ數十年間攷々務メテ倦マズ今尙其改正中ニアリ然ルニ我法律ヲ改正スルハ外人ノ欲心ヲ買ハント欲スルノ致ス所ナリトハ攘夷家モ未ダ云ハザル所ナリ

『建國歴史ニ暗ク習慣風俗ヲ異ニスルモノニ協議シ習慣風俗ヲ異ニセル者ニ諮詢シ習慣風俗ヲ異ニスル者ノ意ニ滿ツルノ法律規則ヲ改制シ以テ其欲心ヲ需メント欲ス』此一項ハ外國人ノ法律顧問官ヲ僱使スルノ不同意ナルコト、察スルノ外ナシ然ルニ條約改正ニ基因シテ外國法律家ヲ僱入タルニアラザルハ衆ノ知ル所ニシテ明治四五年以來新政府ノ法律ヲ制定スルニ付範ヲ英仏ニ取ルヨリ胚胎シ來ルハ今更喋々ヲ要セザルベシ今俄ニ風俗習慣ヲ異ニスルモノニ法章

起案ヲ協議スルノ不都合ヲ訴ウルハ死児ノ年ヲ数フルガ如シ

『條約改正ハ建国以來未曾有ノ大事ニシテ一タビ之ヲ行ヘバ容易ニ復變更スルコト能ハズ』條約改正ハ建国以來ノ未曾有ノ大事トハ彼ノ庸医ノ病源ヲ知ラズシテ纔ニ外形ニ表露スル傷部而已ニ手術ヲ施スガ如シ抑モ建国以來ノ大事ハ條約改正ニアラスシテ欧米諸國ガ東洋ニ向ツテ交通ヲ求メ權ヲ爭ヒ利ヲ競フ之ヲ果スニ智ヲ尽シ力ヲ尽シテ倦ムコトナク我國從來堅牢不可拔ノ國是ナリトシタル鎖國モ鋒刃ニ膏ラセズシテ宛モ白雪ノ太陽熱光ノ為メニ解消スルガ如ク僅々數年ヲ出スシテ終ニ開國ノ止ム可カラザルヲ悟ルニ至リタルニアラズヤ是レ即チ千古未曾有ノ大事ト云フベシ此一大事ニ起因シ條約締結ノコトモ改正ノコトモ法律新設ノコトモ軍備改良ノコトモ物産増殖ノコトモ學校建設ノコトモ百事百物旧態ヲ一新シテ歐洲ニ則リ殆ンド新世界ヲ現出シタル形勢ハ悉皆此開國ニ決定シタルヨリ起ルニアラザルカ能ク能ク鑑考スベシ條約改正一タビ之ヲ行ツテ變更スベカラズトハ論者恐ラクハ條約改正案件ヲ一モ知ラサルヨリ起ルナルベシ有限條約ハ滿期ニ至レバ其効ヲ失フベシ喋々細論ヲ要セズ又曰『幕府ノ條約ヲ見ズヤ當時ノ起草者ハリ

セシモノニアラズ然ルニ同人ノ起草シタル法律ニ聊カ變更ヲ加ヘテ發布シタルモノナリ論者此法モ我習慣ヲ知ラザル者ノ作為スル所ナルヲ以テ之ヲ廢セントスルカ之ヲ廢スルハ可ナリ之ニ代ルニ何等ノ良法我ニ適スルモノアルカ敬ンデ教ヲ乞ハシ規則一定云々ハ論ズルニモ足ラザルベシ今日ヲ以テ全力ヲ條約改正ニ尽スベキノ好時機トセバ何故ニ之ニ不同意ヲ唱フルカ徒ニ道路ノ言ヲ聞キ自己ノ責任ヲ排撃スルヨリ寧ロ條約改正ノ顛末ヲ研究シ彼我ノ論旨ヲ明了ニシ而シテ己ノ是トスル所ヲ示シ自ラ其責任ニ當リ其ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤヲ熟慮シ確乎タル定見アルニ於テハ正々堂々飽ク迄之ヲ論窮シテ可ナリ君子責己ヤ周責任ヤ寬ト迄ニ至ラズトモ周寬自カラ其宜シキニ達スルヲ得ベシ

『夫レ区々タル法律ヲ歐風ニ改良シ外人ヲシテ多少立法ノ權ニ参与セシムル如キハ更ニ惜シムニ足ラザルナリト』我政府ニ於テ法律ヲ歐風ニ改良スルハ維新以來我政府ノ廟謨タルハ更ニ論ズルヲ要セ(ズ)外人ヲシテ立法權ニ参与セシムルトハ未ダ曾テ聞カザル所ナリ立法ニ参与スルヲ得ルハ公權ヲ有スルモノニ限り我國未ダ外人ノ歸化法スラ殆布セズ歸化セザル人民ニ政權ノアル理ナシ憲法学ニ從事セバ自カラ明了ナラン然ルニ顧問トシテ外人ヲ用ユルハ立法

ス氏ガ我國ノ為メニ好意ヲ以テ之ヲ結ビタルニモ閑ラズ論者ハリスノ好意トハ何等ノ事ヲ指スカハリスハ好意ヲ以テ治外法權ノ約ヲシテ締結セラレタルモノナリ若シ論者ノ説ヲ幫助シテ好意トセバ僅々關稅ノ割合少々高カリシニ過ギズ稅率ノ高下ハ以テ國權ヲ輕重スルノ好意トハ云難シ

『今ヤ國開ケ民進ミ法律ヲ改良シ規則ヲ一定シ復昔日ノ日本ニアラズ故ニ昔日ノ條約ハ互ニ相適セザルコト明ナリトス実ニ今日ハ全力ヲ條約改正ニ尽スヘキノ好時機ナランカ』

今ヤ昔日ノ鎖國時代ニ比スレバ國モ開ケタルニ相違ナシ人民モ封建諸侯武斷政治ノ下ニ屈從シタルニ比スレバ進ミタルニ相違ナシ是我政府ノ明治初年来希望スル所ニシテ致々著々誘導シタル所ナリ然レドモ百里ノ行程ヲ僅カニ二三里踏出シタ位ナラン欧米文明ノ基礎アル諸國ト比肩セントスルハ前途尙遠シ法律ヲ改良シ規則ヲ一定シタルトハ抑何等ノ法律ヲ指スカ法律ノ人民ニ適切必要ナルハ民法商法訴訟等ヲ以テ第一トス然ルニ未ダ一モ之ヲ実行セサル而已ナラズ其草案モ尙全成ニ到ラズ僅ニ刑法治罪法ヲ四五年間實施シタル而已此法モ仏國ノ那勃列翁法ニ則トリ仏人ボアソナード日本ノ風俗習慣及ビ建國ノ歴史ヲ讀ンデ然ル後ニ起草

權ニ参与セシムルトハ大イニ異ナルモノアリ是又論ヲ要セザルベシ今若外人ヲ顧問或ハ教師等ニモ採用セズトセバ百般ノ事我進歩改良ハ中止スルニ至ルベシ論者之ヲ望ムヤ否ヤ

『嗚呼天下ノ大勢ニ當ルモノ名ヲ取ランカ將実ヲ取ランカ一時ノ名譽ヲ貪リ百年ノ大害ヲ顧ミズ後世ノ志士ヲシテ誰カ中原ヲ陞沈セシムルノ嘆ヲ發セシムルハ豈内閣諸公ノ苟モ為ス可キ所ナランヤ』

我内閣中一時ノ名譽ノ為メニ百年ノ大害ヲ顧ミザル者アルカ若アリトセバ論者モ其内ニアリ豈其實ヲ免ルルヲ得ンヤ此論宋明末死士ノ余韻ヲ帶ブ論者ノ氣象想見ルベシ

『平城ハ固ヨリ局外ニ立ツ者ナレバ其真ニ果シテ何ノ點ニ論及シ何ノ利害ヲ圖論シ何事ヲ決シ何事ヲ決セザルヤ其ノ機密ニ至リテハ之ヲ明知スルコト能ハサレドモ歐米各國ヲ周遊シ幾多ノ碩學卓偉ノ士ヲ敲キ條約改正内地雜居等ノ大體ニ就キ諮詢スル所少カラズ然レドモ現今我邦ノ如ク秘密ヲ主トシ之ヲ外務ニ放任スルモノ有ルヲ聞カズ』

身已ニ大臣ノ高キニ居リ職万機獻替ノ重キヲ荷ヒ入ツテ閣議ニ參シ出テハ一省ノ行政ヲ司掌シ而シテ尙ホ局外ニ立ツトセバ誰ヲ指シテ局ニ當ルモノトスルカ内閣ハ何等ノ事件

ヲ評議スル所ナリトスルカ此一語ハ狂者ノ暴言タルニ過ギズ已自カラ其ノ議ニ与リ其ノ是非ヲ判別スルノ地位(ニ)アリナガラ之ヲ明知スル能ハザルト云ハ論者自カラ國家ノ機務ヲ放擲シタル又之ヲ知ルノ腦力ヲ有セサルガ為メ之ヲ研窮スルコト能ハザルカ

(伊藤家文書彙)

四二 明治三十年七月二日 井上毅意見書

呈外務大臣意見書

井 上 毅

敬テ外務大臣閣下ニ左ノ意見ヲ呈ス

旧幕以来積年養成セル交際上ノ事情ハ遂ニ我國ヲ厭テ現在不幸ナル危険ヲ冒侵スルノ已ムヲ得ザラシムルニ迫リタリ今日ノ事暫ク年期ヲ定メテ屈辱ヲ甘受シ以テ永久ニ完全ノ地位ニ回復スルノ方便ヲ取ルハ此レ亦國權ヲ愛重スル為ノ政略ノ一道ナルガ如シ此ノ問題ハ当局者ニ於テ得失ヲ講究スル為ニ反覆再思ノ煩勞ヲ厭ハザルナルベキハ小官モ亦竊ニ信シテ疑ハザル所ナリ況ヤ小官ハ十六年ニ於テ既ニ同一ノ問題ニ付閣下ニ對シ反對ノ建議ヲ呈出シ言辭疎暴ニ涉

万国公法ノ前ニ平等タリ一國ノ主權ハ他國ノ命令ニ於ケル情誼上ノ順從ト及他國ノ勅告ニ由テ馴致スル所ノ常習ノ勢力カトニ依テ毀損セララルコトナシ唯弱國ノ主權ニシテ強大國ノ交際ノ為ニ毀損ヲ受ルハ其從順ヲ求メ其勢力ヲ行フコトノ權利ヲ以テ條約ニ明文ヲ掲ゲ之ヲ承認サレタルノ場合ニ在リト

司法ハ主權ノ要素タル其一ナリ司法立法ノ公權アル官職ニ外國人ヲ用ヒザルハ獨立各國ノ憲法ニ直接或ハ間接ニ明言スル所ナリ獨逸ニ於テハ外國人ヲ官吏トスルコトノ便宜ヲ利用スル為ニ其任命狀ヲ以テ同時ニ歸化證狀ノ効力ヲ有セシメ獨逸國民タルノ權利ト竝ニ義務ヲ有セシム(獨逸國民憲法第九條)即チ兵役及其他ノ義務ニ服從セシム故ニ獨逸ニ於テ使用スル外國人ハ既ニ外國人ニ非スシテ獨逸人ナリ其他各國ニ於テ(大抵陸海軍ニハ自由ニ外國人ヲ使用シ及和蘭ニ於テ千八百五十八年ノ法律ヲ以テ領事訊官教育技術ノ官吏ニ外國人ヲ使用スルヲ得ル十項ノ種類ヲ定メタルノ類ヲ除ク外)凡ソ公權アル官職ハ皆本國人ノ專有スル位地トナシ憲法中國民權利ノ要素成文トシテ之ヲ解釈セザルハナシ

今各國ノ憲法ニ於テ外國人ノ官用ニ係ル正文アルノ一二

追補 井上外務大臣關係 四二

リタルモ猶閣下ノ大度ノ容納スル所トナリタルハ小官ガ深ク心肝ニ感銘シテ今ニ至テ忘レザル所ナリ今日ニ在テ小官苟モ憂思スル所アラニ先ヅ閣下ニ對シテ誠懇ヲ吐露セザルハ小官ノ尤良心ニ愧ル所ナリ

外國ニ對シ權利ノ毀損ハ利益ノ毀損ヨリモ其國ノ命運ニ關係スルコト尤重大ナリ權利ノ毀損ハ内治干涉ヨリ甚シキハナク而シテ内治干涉ニシテ偶然ノ變ニ生ズルハ仍一時ノ事タルベキモ内治干涉ニシテ條約ニ根拠シ條約ノ明文ニ於テ間接之ハ直接ニ承認スルニ至テハ其國ノ主權ハ外國ノ為ニ制限サル、者トナリ即チ半獨立ノ邦タル位地ニ墜落シタル者ト謂ハザルコトヲ得ズ此レ固ヨリ閣下ノ洞然照察セラル、所ナリト雖今試ニ公法家ノ說ヲ引證センニ

「ウキトンス」氏ハ「ワテル」氏ノ凡ソ自治ノ邦ハ皆主權ヲ有スルノ邦ナリトノ說ヲ排斥シテ此ノ解釈ハ未ダ精確ナラザルコトヲ論ジ且曰主權完全ニシテ獨立ナル邦ハ一ノ政府ノ外ニ他ノ權勢ヲ受ケザルナリ他ニ又各種ノ方法ニ由テ主權ヲ制限シ及削小スルノ邦アリ凡ソ主權ノ完全ナル要素タル所ノ諸權ノ施行ニ於テ他國ニ管屬スル所ノ各國ヲ半主國ト名クト

「ウキトンス」氏又曰凡ソ主權國ハ其強弱如何ニ拘ラズ

ヲ拳グレバ左ノ如シ

西班牙 二條第二項 歸化セザル所ノ外國人ハ西班牙國

ニ於テ政權及裁判權ニ干涉スル所ノ職務ヲ行フコトヲ

得ズ

丁抹 十七條 國民權ヲ有スル者ニ非レバ官ニ任ズルコ

トヲ得ズ

巴威爾 四條 本國人又ハ憲法ノ明文ニ循ヒ歸化シタル

外國人ニ非ザレバ、王室ノ高等官吏及政府ノ文武官及

僧官ノ爵祿ヲ享有スルコトヲ得ズ

奧國 民權憲法三條 凡ソ國民ハ均シク官吏タルコトヲ

得外國人官吏タルノ許可ハ專屬國民ノ權理ノ得有ニ

屬ス

右ハ消極ノ文法ヲ用ヒテ直接ニ外國人ノ國民公權ニ預カラザルコトヲ明言シタル者ノミヲ列挙シタリ其他積極ノ文法ヲ用ヒテ公權ノ國民專有權タルコトヲ掲ゲ、間接ニ外國人ニ同様に公權ナキコトヲ示シタルハ各國ノ憲法皆然ラザルハナシ

埃及國ノ立合裁判ニシテ已ムヲ得ザルノ必要ニ出ト假定センニ若果シテ獨逸ノ外國人官用法ニ拠ラシメバ其裁判官ハ即チ埃及人ニシテ外國人ニ非ズ其裁判ハ即チ埃及ノ裁判

ニシテ立合裁判ニ非ザルベシ（独逸ニテハ行政部ニ外国人ヲ使用スルモ司法官ニハ使用セザルニモセヨ）然ルニ埃及ニ於テ任命ノ權ハ其政府ニ在ルニ拘ラズ其任命ヲ受ケタル裁判官ハ埃及ニ帰化シタルニモ非ズ亦埃及ノ帰化人民ニ均シキ資格ニ入り國民ノ服従スベキ義務ヲ有スルニ非ズ即埃及國王ノ臣民ニ非ズシテ依然トシテ英又ハ仏又ハ普又ハ埃ノ臣民ナリ此レ其裁判官ハ埃及政府ノ任命ヲ受ケナガラ其身ハ外国人トシ其名称ハ外国裁判官トシ其裁判ハ立合裁判タルコトヲ免レザル所以ナリ

故ニ立合裁判タルト立合裁判ニ非ザルトノ疑問ヲ判断セントナラバ左ノ一語ヲ以テ簡單ニ之ヲ決スルコトヲ得ベシ曰

此ノ裁判官ハ帰化又ハ帰化ニ均シキ国法上ノ効力ニ依テ日本臣民タルノ資格ヲ得日本ノ兵役ニ服シ及其他一切ノ服従義務ヲ有スル乎

若此問ニ向テ否ト答フベキナラバ縱令其任命ハ政府ノ權ニ在ルモ（埃及ノ如ク）又其任命ノ為ニ外国政府ノ承認ヲ要セザルニモセヨ（埃及ヨリ一層ノ制限ヲ少クス）確乎トシテ其人ハ外国人即外国人ナル裁判官ニシテ其裁判ハ立合裁判ナルニ相違ナシ此ノ解釈ハ何等ノ答弁ト雖決シテ破解

字ヲ一国内部ノ政治法律ノ上ニ用ヒタランニハ国法学ニ於ケル歴史及原則ニ乖戾シ一ノ意義ヲモ成ササル文字ナルベシ若又之ヲ條約ニ明記スルトキハ條約ノ目的ハ双方ノ間ニ權利義務ヲ定ムルニ在ルガ故ニ此ノ一條ハ則チ我ニ在テハ義務ヲ生ジ彼ニ在テハ權利ヲ生ズル者ニシテ縱令實際ニ於テ十ノ七八ハ泰西ノ主義ニ模倣シテ進歩ノ標準トナスコトヲ妨ゲザルモ若シ其一二ニシテ国法学ノ原則ニ基キ一國ノ歴史慣習ニ從ヒ、又社会学ノ定則ニ準ジ自然進化ノ順序ヲ逐ヒ政治及法律ノ上ニ必要ナル斟酌ヲ加フルコトアリト仮定センニ此レ其一二ハ乃チ條約ノ正文ニ違背スル者ニシテ權利者ノ為ニ責問ノ辭柄ヲ与フル者ナリ若又泰西ノ主義トハ広漠ナル文字ニシテ此ノ如キ制裁ヲ生ズルノ結果ナカルベシト謂ハン歟即チ此ノ広漠ナル文字ハ我が解釈ニ利益アルダケ又同ジク彼レノ解釈ニ利益アリ而シテ畢竟將來ニ向テ彼此ノ間ニ爭議ノ余地ヲ遺ス者ナリ蓋條約上ニ爭議ノ余地ヲ存スルハ通常強大国ノ勢力ニ向テ資料ヲ与フル者ニシテ小國ノ為ニハ意外ノ不利ヲ生ズルナルベシ

此ノ一條スラ既ニ間接ニ外国政府ヲシテ我が内政法律ニ干渉スルノ結果ヲ生ズルノ性質ヲ帶有スル者ナルコト明白ナルニ加フルニ我ガ法律ヲ外国政府ニ通知スベシトノ一條

スルコト能ハザル所ナルベシ

若シ立合裁判ノ制ニシテ條約上ニ採用サルナラバ其國ハ即チ司法上外国ノ内治干渉ヲ承認シタル者ニシテ公法家ノ所謂條約ニ依リ主權ヲ毀損サレタル種類ニ屬スルニ非ズ乎

次ニ立法ノ事ハ主權中ノ最重大ナル者ナリ若立法ニシテ直接又ハ間接ニ外国ノ承認ヲ要スル事アルニ至テハ其國ノ主權ハ全ク地ニ墜ナタル者ナリ

「ヘフテル」氏公法ニ云邦國ノ根本權利ハ完全ナル獨立ヲ以テ其職務ヲ行フノ權利是ナリ故ニ各國ハ隨意ニ其政体及内治外交ニ向テノ法律制度ヲ規定スルノ自由ヲ有ス但シ内治干渉ノ權利及卑屈ナル政府ヨリ他國ニ捧呈スル尊敬ニ由テ之ヲ制限スル場合ハ例外ナリト

三十一章

公法家ノ常言ニ万国公法ヲ稱ヘテ歐羅巴社会又ハ歐羅巴親屬ノ交際法ト謂フ而シテ「ブロンナユリー」氏ハ其編纂セル公法成典ニ於テ近來東洋ノ極端ナル日本モ亦此ノ公法ヲ容受シタルコトヲ注明シタリ故ニ公法ニ於テハ泰西ノ主義ヲ採用スルコト東洋諸國ノ名譽タルベシ

但泰西ノ主義ヲ採用シテ歐羅巴ノ親屬社会ノ列ニ入ルコトハ列國公法上ノ言語文字ニ限ル者ニシテ若一転シテ此文

ヲ添ヘタランニハ此二條ハ前後相照應スルノ意義ヲ生ジ即チ乙條ニ依リ通知ヲ受ケタル者ヨリ甲條ニ從ヒ其泰西ノ主義ニ適合スル乎否ヲ審査スルハ條約上適當ノ解釈ニ從ヘル權利ナルコト疑アルベカラズ此ノ如キ正文ノ上ニ於テ普通ノ感覺ニ訴ヘテ明確ナル意義ヲ顯ストキハ縱令他ニ何等ノ附屬ノ文書證據アルトモ決シテ反對ノ効力ヲ有スルコトナカルベク他日万一ニモ此條約ニ付紛議ヲ生ズルコトアランニハ縱令我レニ何等ノ道理及良心アルトモ條約ノ正文ニ對シ公法上敗訟ノ曲者タランコト疑ナシ

然ラバ則偶然ニ万国公法上ノ文字ヲ内治国法ノ上ニ転用シ又情誼ニ於テ友邦ノ間相往復通知スルノ意義ニ於ケル單純ナル一條ヲ添加シタルガ為ニ意外ニモ其結果ハ間接ニ立法上外国ノ干渉ヲ招キ騷々乎トシテ半主國ノ位地ニ向テ進路ヲ取ラシムル者トナリタリ若シ後日内外不意ノ事變アリ又ハ抗拒スベカラザル狀況ノ為ニ外国政府ノ異議ヲ招キ或ハ憤怒ヲ起スコトアランニハ必ズ一転シテ更ニ直接ノ干渉ヲ致シ泰西主義ヲ主張スル為ニ遂ニ我ガ法律ノ存廢ヲ左右シ少クトモ拒否ノ權ヲ掌握スルコトヲ試ミルニ至リ、再転シテ更ニ一步ヲ進メ勢力ノ干渉トナリ彼ノ土耳其亞弗利加ノ内治ニ干渉シテ耶蘇宗ノ教友ニ應援スルハ公法ノ許

ス所ナルノ例ニ依リ泰西主義ノ法律ヲ援助スル為ニ併セテ泰西主義ノ法律ヲ主張スルノ政党ヲ援助シ此ニ反對スル政党ヲ排除スルノ手段ヲ取ルニ至ルハ必然予言スベキノ結果ナルベク此レ皆此ノ條約ノ媒介馴致スル所ニシテ實ニ回復スベカラザルノ毒害ヲ流スニ至ルモ亦此ノ不注意ナル一二ノ正文ノ醸生スル所ニ非ザルハ莫ルベシ何トナレバ此レ乃未來ノ臆測ニ非ズシテ此ノ正文ノ中ニ既ニ立法上内治干涉ノ性質ヲ胎有シ而シテ此ノ性質ハ逐時ノ境遇ト容易ニ相投合スベケレバナリ

上ニ論シタル司法及立法ノ上ニ直接又ハ間接ニ外國干涉ノ性質ヲ含有ストノ思想ニシテ若シ無稽不根ノ臆説ナラシメバ實ニ國家ノ幸福ニシテ小官ノ妄言ハ狂瀾ノ謠語ニ過ギザルベク若シ又万非中ノ一是ナリト假定セバ此事實ニ國家及國民ノ為ニ命運ノ窮極ナルベシト小官ハ窃ニ信ズ、閣下ノ高明ナル必平心ニ觀察スル所アランコトヲ

第二 左ニ又試ニ他ノ異見ヲ列叙シ反覆問難シテ以テ道理帰一焦點ヲ求ムルコトヲ務メン

前ニ陳ズル所ハ專我ガ國ノ自護ノ精神ヲ以テ論究セシ者ナリ然ルニ他ノ一方ヨリ觀ルトキハ各外國公使ハ我國ニ向テ不良ノ意思ヲ抱ク者ニ非ズ我國ヲ善導シテ其良友タル位

ヲ求メタリ然ルニ不幸ニシテ其讓与ノ求望ト予望ノ注意トハ他ニ適當ナル方法ヲ得ルコト能ハズシテ司法及立法ノ干涉ニ出タリ歐羅巴親屬ノ内ニ參列セシムル為ノ代償トシテ我國ヲシテ歐羅巴親屬中ノ半主國ノ位置ヲ取ラシメント試ミタリ司法ニ於テハ直接ニ半主國ノ例ニ依リ立法ニ於テハ半主國ノ位置ニ下ラシムルニ支障ナキ為ニ予メ一条ノ道路ヲ設ケタリ即チ恐ルベキ干涉主義ヲ含有シタル交際法ヲ以テ我國ニ適用セントシタリ蓋決シテ不廉ナル物品ヲ買ハザルハ彼ノ交際家ノ要訣ナリ

第二ニ左ノ問題ヲ設ケン曰ク權利上ノ制限ハ國ノ屈辱タルハ普通ノ人ノ知ル所ナリ但シ年期ヲ定メテ其屈辱ヲ甘受シ一タビ歐羅巴社會ノ仲間ニ入ルコトヲ得バ年期ノ後ニ永久ノ改正ヲ行ヒ始メテ旧幕以來ノ積弊ヲ挽回スルコトヲ得ン此レ常則ニ拘泥スル理論者ノ為ス所ニアラズト

此ノ説ハ現在我國不得止ノ情勢ヲ画キ出セル一種ノ真像ナルガ如シ然ルニ未來ノ理数及情勢ニ映照シテ此ノ問題ヲ解剖スルトキハ恐ラクハ一ノ幻影タルニ過ギザルベシ

十五年ハ一世ノ半數ナリ今ヨリ十五年ヲ経過セバ現在ノ政事家ハ其半以上ヲ墳墓ニ吊問スルナルベシ今度ノ改正ニ關係シタル好意アル各國外使モ總テ更代スルナルベシ即チ

置ヲ取ラシメントスル者ナリ凡ソ交際上惡意ヲ以テ之ヲ迎フルトキハ舐ル、所總テ好事ナラザルハナカルベシ故ニ條約ヲ解釈スルニ惡意ヲ以テセバ遂ニ何ノ限極カアラン此レ小官ガ反省シテ自ラ問題ヲ設ケタル第一ナリ

不幸ニシテ此ノ思想ハ反對ノ推測ノ為ニ破解セザルコトヲ得ズ何トナレバ各政府及公使ハ我國ノ好意ナリ良友ナルコト疑ナシト雖各政府及公使ニ於テモ亦困難ノ事情アルコトヲ推知セザルベカラザレハナリ公法家ノ從來ノ説明ニ拠レバ交際公法ハ歐羅巴親屬ト稱フル歐米二洲ニ限レル社會ノ上ニ行ハル、者ニシテ其他ノ邦ニ於テハ公法ノ区域ノ内ニ在ラズ而シテ其交際ハ單ニ政略及道德ノ需要ニ從テ成立スル者ナリト云「フテ爾然ルヲ今ハ東洋ノ極端ナル日本ニ對シ治外法權ノ旧約ヲ撤去シ其人民ヲシテ日本ヲ紹介シテ公法ノ区域ナル歐羅巴親屬ノ内ニ位列ヲ与フル者ニシテ西洋各國ニ在テハ非常ナル善意又非常ナル果斷ト謂ハザルコトヲ得ズ此ノ如キ善意ヲ施スニ當テハ又此ニ對償スル十分ノ讓与ヲ求望シ此ノ如キ果斷ヲ決行スルニ臨テハ又十分匪密ナル防禦線ヲ敷置シテ以テ不意ノ變ニ応ズルノ予備ヲ為スハ彼レニ在テハ殆ド當然ノ事ト謂ハザルベカラズ實ニ各國外使ハ讓与ヲ望ミ及予備ノ事項ヲ掲載スルコト

條約締結ノ時ノ實際ノ意味ヲ解釋シ及條約ノ外ニ親密ナル情誼ヲ存スルノ人物ハ現在スルコトナク而シテ條約ハ殊別ナル交際官ノ手中ニ落ルガ故ニ專ラ正文ニ依テ嚴刻ニ解釈スルナルベシ加フルニ内外ノ間十年ノ無事ヲ保チ難キハ過去ノ經驗スル所ナレバ或ハ歐洲各國ノ勢更ニ一步ノ侵害政策ヲ進ムルモ料リ難ク或ハ又内國ニ於テ予見スベキ宗旨ノ鬭爭ヲ生ジ或ハ訴訟ノ争ニ由リ又ハ政黨ノ激變ニ由リ外國人又ハ外國裁判官ニ暴行ヲ加フル者アルモ知ルベカラズ若シ此ノ中ノ一ツモアリテ外國人ニ向テ辭柄ト時機トヲ与フルナラバ外國人ハ十五年ノ約期ヲ以テ満足シ十五年ノ後ハ純然タル平等ノ條約ヲ訂定スルコトヲ甘ンズベキ乎此ノ意外ノ事アルニ至ラバ年期ノ條約ハ遂ニ一転シテ永久ノ條約トナルベク而シテ理数ト情勢トヲ以テ之ヲ推ストキハ此ノ事實ニ意外ノ事ニハアラザルベシ況ヤ歐人ノ説ニ既ニ得タル權利ハ戰勝ノ賠償ト同ジク故ナク拋棄スベキ者ニ非ズトハ公法ノ正理ヲ以テ自ラ誇ル所ノ歐洲親屬ノ社會ニハ反テ普通ノ主義トシテ行ハル、ニ非ズ乎故ニ此ノ十五年間ノ模型ハ即チ永久ノ軌道ヲ為ス者トシテ之ヲ假定スルコトヲ得ベシ若此條約ニシテ不幸ナル結果アラシメバ其罪ハ十五年ノ後ニ改正シ得ザルノ人ニ在ルニアラズシテ却テ十五

年ノ前ニ初テ訂結シタルノ人ニアルト明カナリ

是ニ於テカ比較ニ於テ旧条約ト何レガ優劣アル乎寧ロ旧ニ依テ現行条約ヲ継続スベキ乎ノ問題ヲ生ズ情誼上ニ於テ歐羅巴親屬ノ中ニ位列スルハ旧条約ニ比較スレバ大ナル榮譽ナルガ如シ而シテ權利上、下等国ニ位置シ少クトモ類似ノ半主国ニ位置スルハムシロ旧条約ノ恥ル所ニ非ザル歟土耳格支那ト位列スルト埃及ト位列スルハ何レカ扱フベキ榮譽トスルコトヲ得ル乎

旧条約ハ不十分ナガラ又一種ノ交際法ニシテ我主權ニ對シテハ深害ナル毒分ヲ含有セザルモ新条約ハ此ニ反シ國ノ根本權利ヲ冒險賭博ノ一擲ニ委スル者ニハ非ザル歟

旧条約ハ固ヨリ継続スベキ者ニ非ズ但シ我國文武ノ政非常ノ勵精ニ由リ有形ノ實力ト無形ノ進歩ト俱ニ完全ナル獨立ヲ保ツニ足リ殊ニ法律完成ノ時ニ達シタランニハ欧州各國ト独リ形式上ノ親屬タルノミナラズ又事実上ノ友國タルニ至リ而シテ条約改正ノ期ハ求メズシテ自ラ至ルノ機會アラントス自今十五年ノ期限ハ却テ完全ナル改正ノ為ニ自由ナル自然ノ時機ヲ束縛スルノ閑日月ニハ非ザル歟

第三 上ニ列挙シタル事情及公法上ノ問題ノ外ニ更ニ又直接ニ憲法ト矛盾ヲナス者アリ請フ遂ニ閣下ノ為ニ之ヲ一言

凡ソ立憲ノ國ニ於テ内部立法ノ事ハ国会ヲシテ完全ナル自由ヲ以テ之ヲ討議スルコトヲ得セシメ然後君主之ヲ制可ス(大抵閉會ノ時ニ其制可ヲ宣告ス)然ルニ我が國ノ国会ハ自由討議テ有セズ我國ノ制可ハ自由ノ制可ニ非ザルナリ何トナレバ議院ノ多数議決ト君主ノ最高制裁トハ条約ノ為ニ束縛ヲ受ケ時アリテ其決議ト其制可トハ条約ニ對シ無効ニ歸ス可ケレバナリ此レ立憲ノ主義ニ於テ尤甚シキ矛盾ノ第三ナリ

此ノ三ツノ矛盾ハ憲法ノ本体ノ成分ニ關係スル者ナレバ到底調和兩立ノ方法アルコトナシ若シ巧造ノ文法ヲ用ヒテ此ノ矛盾ノ痕跡ヲ掩蔽シ能フトモ、掩耳盜鈴ノ類ニ均シク稍ヤ法理ヲ知ルノ内外人ノ為ニ一朝ニシテ摘發スル所トナリ仮粧憲法タルノ激烈ナル攻撃ヲ被ルニ至ルハ必然ナリ故ニ強テモ新条約ヲ履行セントナラバ憲法ハ暫ク之ヲ高閣ニ東ネ十五年ノ後ヲ待テ始メテ發布セラルベシ

凡ソ此等ノ論說ハ閣下ノ飽ク迄熟慮ヲ經ラレシ所ナルベキニ更ニ喋々ヲナスハ小官ノ尤恐縮スル所ニシテ唯閣下ノ明恕ヲ祈ルノミ

終リニ臨ミ又閣下ノ為ニ一言セザルコトヲ得ザル者アリ新条約案ハ当局者ノ予期スル所ノ外ニ不幸ニモ偶然ニ内治

スルコトヲ得ン

憲法ハ國家論ノ原則ニ從ヒ国土及國民ヲ以テ其兩大成分トスル者ナリ故ニ各國ノ憲法ハ首メニ国土ノ義ヲ掲ゲ次ニ國民ノ公權利及公義務ヲ揚グルヲ以テ体例トス而シテ國民ノ公權トハ即チ官吏ニ任ズルノ權、選舉被選舉ノ權ノ如キ皆内國人ノ專有スル所ノ本分ニシテ外國人ハ敢テ之ニ参与セザル者ナルコト前ニ既ニ述ル所ノ如シ我國若シ各國ノ憲法ニ倣ヒ此一大義ヲ明揚シタランニハ忽チ新条約ト矛盾ヲ生ズベシ若又除 外 例ノ文法ヲ用ヒテ之ヲ兩存センカ、即チ甲ノ事實ニ乙ノ空文ハ死去タルニ歸スベシ是レ除外例ニ依ルベカラズシテ抹殺例ニ依ルベキ者ナリ、是ヲ矛盾ノ一トス

各國ノ憲法ニ國民ハ其固有ノ裁判官ノ裁判ヲ受クベキコトヲ掲載セザルハナシ外國裁判官ハ國民ノ固有ノ裁判官ニ非ザルナリ故ニ獨逸ニ於テ外國人任用ヲ歸化トスルノ法アラシ若シ我が憲法ニ此一条ヲ除去スベシトセンニ此条ハ本來自然法ヨリ來ル所ノ國民ノ權利ニ屬スル者ナレバ反對ノ明文ヲ以テ此ノ權利ヲ剝奪スルニ非ザルヨリハ正条ナシト雖立憲國ノ通義ニ於テ此ノ權利ハ不文ノ間ニ存スルコトヲ認メザルベカラズ即チ新条約ト矛盾スルノ二ナリ

干涉ノ性質ヲ本体及全部ニ含有スル者ナリ故ニ全ク之ヲ破毀スルノ勇斷ヲ取ルニ非ザルヨリハ増補又ハ説明又ハ一一ノ削除修正ヲ以テ之ヲ補塞シ難ク縱令之ヲ補塞シテ以テ目前ノ議論ヲ免ル、コトヲ得ベキモ其國家ノ為ニ將來不測ノ危險ヲ冒險スルニ對シテハ決シテ安全ノ保障ヲザルナリ

且此条約ニシテ既ニ批准ヲ交換シタルノ後ニ至ラバ縱令之ヲ無効トナシテ以テ旧時ノ狀態ニ回復スルノ時機アラニニ各外國ハ左手ニ其ノ既得ノ權利ヲ保守シテ(内地雜居)右手ニ地外法權ノ必要ヲ主張スベキハ必然ナリ此ノ場合ニ迫ラバ幾ト勢力如何ト問フノ不幸アルベク当局者ノ困難ハ何等ノ極点ニ迄至ルベキヤ閣下若シ幸ニ此ノ大事ニ向テ國家ノ為ニ將來ノ困難ヲ感覺セラル、ナラバ必高明方寸ノ間ニ在テ臨時ニ一大局面ヲ變転スルノ神算アルハ小官ガ之ヲ十六年ノ往時ニ證明シテ疑ハザル所ナリ故ニ校正ノ方法ハ敢テ此ニ贅言セズ

右重大ノ機密ヲ憚ラズ尊嚴ヲ犯シテ妄ニ意見ヲ陳ブルハ極メテ多罪ニ涉ルコトヲ知ル但シ閣下ノ明察ヲ仰グ外敢テ他意アラサルナリ恐惶頓首

明治二十年七月十二日 井上 毅

附言千八百七十三年ニ於テ獨逸帝國ト波耳斯亜國トノ間ニ締結シタル條約ニ拠ルニ波耳斯亜國ニ在留スル獨逸人ノ間ニ起ル訴訟ハ總テ獨逸國法ニ從ヒ獨逸ノ官吏又ハ領事之ヲ裁判ス波耳斯亜國ニ於テ兩條約國民ノ間ニ起ル訴訟ハ波耳斯亜國裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス但シ獨逸ノ派出公使或ハ領事代理ノ訳官臨席發言ノ後ニ之ヲ裁決ス而シテ裁判ハ波耳斯亜國法慣習ニ從フベキコトヲ定メタリ 第十三條 波耳斯亜國ト波耳斯亜ノ外國人民事裁判法ハ全ク支那ノ會審ト同ナル者ニシテ立合人ハ仍裁判ノ權ヲ有セズ埃及ノ立合裁判ト相懸隔シ其主權ニ毀損スル所ナキ者ナリ波耳斯亜國ハ其文明遙ニ我國ノ下ニ在ルニ拘ラズ仍其主權ヲ保全シテ以テ内地通商ノ條約ヲ結ブコトヲ得タリ

四三 明治三年七月七日 井上毅意見覺書

奉呈總理大臣閣下意見覺書

條約改正ノ問題ハ單ニ法律上ノ問題ナルヤ又ハ法律ノ範圍ノミニ止マラザル一國主權上ノ問題ニシテ國家ノ為ニ重大ナル關係ヲ有スルヤ而シテ其關係ハ何等ノ点ニ迄至ルベ

ト左ノ如シ

(第四百四章) 各國ハ其組織及主權ノ法律^{即憲}ノ効力ニ依テ其固有ノ運動即他ノ各國ニ對シ專独殊別ナル運動ノ一個ノ区域ヲ有ス此ノ關係ニ於テハ各國ハ他ノ何人ニモ繫屬スルコトナク其獨力ヲ以テ其權利ノ保持及一般ノ獨立社会ニ必要ナル根本ノ基礎トシテ存立スル所ノ義務ノ遵守ニ供備スルコトヲ務ムベシ完全ナル主權ハ必然ニ無缺ノ獨立ヲ引帶スル者ナリ故ニ各國ハ第一ノ權利トシテ其固有ノ運命ノ充足ニ向テ不羈自由ニ進行スルコトノ權利ヲ有シ又均シク重要ナル義務トシテ他ノ邦國ノ主權及獨立ヲ承認尊敬スルコトノ義務ヲ有ス(下略)

(第五百五章) 各國ハ互ニ獨立タリ彼此殊別ナル一団體タルニ因リ正当ナリ結論トシテ各々其内部ノ國體ヲ制定シ組織スルコトノ無限ノ權利ヲ專有スルコトヲ認許セザルベカラズ(下略)

(第六百六章) 一國ノ完全主權ハ自然及必然ノ伴隨トシテ立法及司法ノ區域ニ於テ獨立ノ權ヲ有ス其政府ト自國ノ臣民ノ際ニ存立スル所ノ權利ノ關係ノ区域内ニ於テハ完全絶對ナル者ニシテ独他國ノ臣民トノ關係ニ就

キ乎ヲ知ルハ、唯万国公法ニ於テ内^{インテルワンション}治^治干^干渉^渉ノ解釈並ニ性質ヲ講究スルヲ以テ必要トス

内治干渉ヲ行フ國ニ於ケル權利ノ有無ハ公法家ノ議論種々ニシテ未ダ一点ニ歸着セズト雖内治干渉ヲ受ル國ノ其主權ヲ毀損セラル、コトノ見解ニ至テハ公法諸家ノ皆一致シテ異論ナキ所ノミナラズ條約ノ明文ヲ以テ外人ノ内治干渉ヲ承認スルニ於テハ其國ハ既ニ獨立ノ位地ニ非ザルハ亦公法上普通ノ論タルコト疑ナシ

茲ニ内治干渉ナル名義ニ付公法諸大家ノ論說ハ兩様ノ派別ヲ生ジタリ即チ其一ハ内治干渉トハ兵力又ハ強制干渉ニ限ルノ名稱ニシテ單純ナル交際上ノ干渉ハ内治干渉ノ類ニ非ズト云ヘルナリ

又其一ハ強制ト平和トヲ論セズ一國他國ノ内治ニ干渉スルニ於テハ同一ニ其干渉ヲ受ル國ノ主權ヲ毀損スル者ナルニ因リ内治干渉ノ名義及性質ハ其方法形式ニ依テ異ナルコトナシト云

第二ノ說ハ既ハ現時ニ勝ヲ占ムル者ナリ「シヤル、カルヅ」氏ノ千八百八十年ノ出版ナル公法書ハ諸家ノ說ヲ類挙シテ最後ニ其結局ノ判斷ヲ下シタリ今其要領ヲ抄訳スル

テノミ制限スル所アリ、此ノ他國ノ臣民トノ關係ハ一積ノ特別ナル性質ヲ成シ或ハ交際私法^{交際法}ニ於テ人依リ裁判スルノ類ヲ云フ 或ハ公法ニ依テ定メタル特別^例地^外法^權ヲ生ズ彼ノ公法ニ公使ノ特權トシテ司法ノ分割ナル地^外法^權ヲ認メタルハ此ノ關係ニ由レルナリ(下略)

内治干渉トハ一國他ノ國ノ内外ノ事件ニ干渉シ外國ノ意志ヲシテ本國ノ意志ノ上ニ優勝セシムル為ニ施行ス所ノ運動ヲ云

内治干渉ノ種々ノ形式ノ差異ニ依テ各種ノ類別ヲ為ス第一ニ好^ホ意^イ干^干渉^渉ハ其干渉ヲ為ス國ノ公使ヨリ文書又ハ口^コ陳^チニ由テ干渉ヲ行フノ謂ニシテ又之ヲ交^デ際^ロ上^マノ干^干渉^渉トモ謂フ第二ニ公然ノ干渉トハ公衆ニ領布スル文書ニ由テ干渉ヲ行フヲ謂フ第三ニ和^パ平^シノ干^干渉^渉又ハ仲裁ノ干渉トハ概ネ列國會議ニ於テ商議スル干渉ヲ謂フ第四ニ兵力ノ干渉トハ或ハ一國ノ自由ナル運動ヲ妨ゲル為ニ兵力ヲ示ス所ノ脅迫ニ依リ或ハ実力ヲ用キテ外國ノ土地ヲ占領スルニ依リテ行フ所ノ干渉ヲ謂フ

或ル論者ハ第四ノ場合ノ外ハ内治干涉ノ名前ヲ付セズ其説ニ云他國ノ事ニ於ケル一國ノ干涉ニシテ強制ニ出ズシテ平和ニ由リ純然ニ勸告ニ止マル者ハ即チ好誼上又ハ仲介ノ交渉ニシテ内治干涉ト同カラスト此説ハ誤テ成効ヲ以テ事實ヲ混ズル者ナリ内治干涉ヲ行フ所ノ方法形式ハ從テ其性質ヲ變ズルコト無シ内治干涉ハ實際上ノ手續ニ由テ之ヲ行フ為ニ其内治干涉タルコトヲ妨グルコトナシ即チ多少直接ナル及多少隱蔽ナルタル干涉ニシテ又大抵兵力干涉ノ前表タラザルハナシ云々「カルヴァ」氏ノ説ハ「ヘフテル」氏ニ淵源シタルガ如シ「ヘフテル」氏第四十四章云

何レノ國モ外國ノ内事ニ向テ交渉スルノ權ヲ有セザルハ明白ナリ故ニ如何ニ弱少ナルニモセヨ一ノ獨立國ニ向テ何レノ國モ別段ノ國憲ヲ教令シ其改革ヲ求メ及其改革ニ對抗シ並ニ主權ノ條件ヲ規定スルコトヲ得ズ何レノ國モ一ノ獨立國ニ向テ其進行及統治ノ條則ヲ示命シ或ル制^{インスチテ}度ヲ教令シ及其制度ヲ廢止セシムルコトヲ得ズ何レノ國ノ一ノ獨立ノ君主ニ向テ政事上ノ線路ヲ指面センコトヲ欲望スルコトヲ得ズ故ニ内治ニ干涉セザルノ原則ハ純一ノ真理ナリ此ニ反シテ干涉ノ原則

涉トナル者ナリ

立合裁判ノ事ハ姑ク之ヲ措キ條約ノ明文ニ於テ我が政治又ハ法律ハ何々ノ主義ニ依リ制定スベク何々ノ主義ヲ用ヒ制定セザルベシトノ予約ヲ掲載スルハ其之ヲ通知スルノ手續如何ハ拘ラズ條約ノ性質ニ於テ既ニ外國ノ内治干涉ヲ承認スル者ナルニ非ズヤ

他國ノ内治干涉ヲ承認スルハ公法ニ於テ半主國ノ資格トシテ論定スル所ナルヲ令此ノ一條ノ掲載アルガ為ニ即チ此條約ノ性質ハ内治干涉ノ約束ナリト斷言スルハ大早計ニ非ザルヤノ疑アラン左ニ次第ニ論叙シテ此ノ内治干涉ヲ含有スル可否ヲ仔細ニ解剖スルコトヲ試ミン

第一 此ノ一條ヲ以テ内部ノ法律ノ總則トスルニ於テハ其理趣ノ当否ハ姑ク置テ論ゼズ決シテ主權ニ關係アル患害ヲ有スルノ語ニハ非ザルベシ然ルニ此ヲ以テ内外ノ條約トスルトキハ條約ノ各條ハ彼此双方ノ際ニ權利ト義務ヲ生ズルヲ以テ目的トセザルハナキガ故ニ此條ハ即我が内部ノ立法事務ニ向テ一定經界ノ内ニ範圍ヲ限ル為ニ保證ヲ立ル者ニシテ我レニ在テ束縛ノ義務ヲ生ジ彼ニ在テ監督ノ權利ヲ生ズル者ナリ

若又此條ハ唯條約ヲ改正スルノ時機ニ達シタルノ意義

ハ特別ノ道理ニ由テ存立スル所ノ異常ノ權利タルノミ而シテ其特別ノ道理ハ各國ノ實際ニ在テ或ハ正當ナル道理ニ非ズシテ大抵自己ノ利欲ヨリ外ニ他ノ起因ヲ有セザル者タリ列國法ニ於テハ正義ニ起因シタル道理ノ外ハ之ヲ承認スルコト無シ内河干涉ノ目的ヲ精密ニ論ズルトキハ一國ノ國體事件ノ干涉ト政府ノ事務ノ干涉トヲ區別シ而シテ政事ノ干涉ニハ各政府ノ際ノ政略上ノ混雜ヲ包含ス

干涉ノ方法^{ホルム}ニ於テハ更ニ之ヲ區別スルニ左ノ如シ本然ノ辭義ニ於ケル干涉即チ一國他國ノ内事ニ主張干涉シ兵力ヲ以テ自己ノ意思ヲ強行スルコトヲ求ムルヲ謂フ他國ノ内事ニ由リ一ノ政府又ハ一ノ党派ヲ援助スル事アリ

又將來ノ危險ヲ避クル為ニ純然クル好誼ノ交渉ヲナスコトアリ
此ノ種々ノ処分ハ總テ皆其目的ハ他國ノ内事ニ向テ冀望スル所ノ變化ヲ教唆スルニ歸着スル者ナリト

此ノ公法家ノ解釋ニ從ヘバ他國ノ内事ニ干涉スルハ其勢力ヲ用ユルト否トヲ問ハズ總テ内治干涉ノ類タルコト明白ニシテ而シテ好誼ノ干涉ハ實際ニ於テ往々一變シテ勢力ノ干

ヲ表明シ現在ノ事務ヲ宣告シタル者ニシテ彼レノ為ニ監督ノ義務ヲ生ズルコトナシト謂ハン歟此ノ如キ言語ハ是ヲ政府ノ往復公文ニ載スベクシテ之ヲ條約ノ正條ニ置クベカラズ而シテ其公文ニ載スルニモセヨ予約ノ義務ヲ有スル正條ノ性質ヲ曖昧ノ間ニ帶ビシムベキニ非ザルハ勿論ナリ

第二 若此條ノ立言ニシテ「ヒューマニティー」又ハ「デヤスチス」ノ原則ニ基キ云々ト謂ハシメバ其「ヒューマニティー」又ハ「デヤスチス」ニ合ヘルト合ハザルトヲ判斷スルハ猶我が立法者ニ在リト説明スルコトヲ得クベクシテ之ヲ條約ニ掲載ルハ到底爭議ノ地ヲ遺ス者タルコトヲ免レザルニモセヨ干涉ノ性質ハ猶淺少ナルコトヲ得ベシ然ルニ直接ニ泰西ノ原則ナル文字ヲ用ユルニ至テハ更ニ本條ノ意義ヲ一転シテ條約者ノ一方ニ監督ノ權利ヲ委託スルノ解釋ヲ為サザルコトヲ得ズ何トナレバ泰西國人ニ向テ泰西ノ原則ヲ予約スルハ即チ其原則ノ出處淵源ナル泰西國人ノ鑑定ヲ仰グノ意味ヲ含蓄シ將來ノ立法果シテ泰西ノ原則ニ合當スル乎否ヤヲ判斷スルハ專泰西國人ノ論定ニ在ルベク少クトモ八分ノ勢力ハ泰西國人ニ在ルベク彼レ若或ハ條項ノ泰西原則ニ合ハザルコトヲ抗言センニ我が自由ナル判定ヲ

以テ立法ノ泰西原則ニ合ヘルコトヲ主張スルニハ必反對ノ證據ヲ提出シ始メテ彼ノ爭議ヲ破ルコトヲ得ベキノ負担ヲ荷フベクレバナリ此レ乃チ内治干涉ハ此條ノ自認スル所ナリ

第三 若一ノ法律ノ條項ニシテ條約中ノ一國又ハ數國ノ其泰西ノ原則ニ合ハザルコトヲ抗言スト假定センニ本條ノ結果ハ何等ノ点ニ於テ終結スベキ乎即チ左ノ三様ニ過ギザルベシ

甲 條約ヲ無効ニ歸シ双方ノ交際ヲ絶ツ

乙 條約ヲ無効ニ歸シ治外法權ノ旧約ニ恢復シ併セテ内地雜居ノ既得權ヲ主張ス

丙 交際上ノ會議ヲ以テ紛争ヲ決シ何レカノ一方ノ譲与ヲ以テ結局トス

甲ハ必無ノ事ナルベク乙ハ我レノ為ニ不利ノ極度ナレバ當局者多分ハ丙ノ辨理方法ヲ取ルナルベシ

然ルニ此ノ丙ノ方法コソ外形ハ穩和ナルニ以テ正ニ内治干涉ノ事實ニ直接ニ適當スル者ナリトス何トナレバ此ノ法律ハ即チ我が内部ノ法律ニシテ交際上ノ事件ニ非ズ既ニ内閣議院ニ於テ議決シ王室ノ制可ヲ經タルニ外國ノ異議アルガ為ニ之ヲ各國公使ノ會議ニ付シ若各國公使會議ノ判決ニ

第四 若又我が政府ニ於テ各國公使ノ同意見ヲ採用セズ

シテ我が固有ノ立法權ヲ主張スルコトアランニ公法ニ從ヘバ此レ固ヨリ獨立自主ノ權ニ屬スベキ者ナルニ拘ラズ各國公使ハ此ノ條約ニ依準シテ何等ノ処置ヲナスベキ乎各國聯合シテ以テ我が為ニ非常ニ不利益ナル要求ヲナス歟或ハ寧ロ強制手段ヲ用ヒテ以テ我が法律ノ廢止又ハ改正ヲ勸告スベシ此ノ時ニ當テ若シ我が國ノ政党ニ外國ノ政府ニ同議ノ甲党アリ又反對ノ乙党アリテ互ニ相軋轢スト假定センニ各國ハ必直接又ハ間接ニ甲党ヲ援助シテ以テ自己ノ利益ト名譽トヲ保護スルコトヲ務ムベシ此ニ至テ即チ「カルヴ」氏ノ所謂好誼ノ干涉ト強制ノ干涉トハ殊別ノ性質ニ非ズトノ説ヲ事實ニ證明スルニ至ラン

以上陳述スル所ニ依リ左ノ結論ヲ得タリ即チ

- 一 兵力ヲ用ヒザル交際上ノ干涉モ亦均シク内治干涉ナリ
- 二 内治干涉ハ國ノ獨立主權ヲ毀損スル者ナリ
- 三 條約ニ於テ自國ノ立法上ノ区域ヲ制限シテ各國ニ保證ノ約束ヲナスハ條約上内治干涉ヲ承認スル者ナリ
- 四 内治干涉ヲ承認スルノ條約ハ必然ニ後來、強制手段ノ干涉ヲ招クベキ者ナリ

五 故ニ比ノ條約案ハ單純ナル法律ノ問題ニ非ズシテ即チ

於テ其異議ヲ採用シタランニハ我が國ハ此ノ法律ノ執行ヲ廢止シ又ハ更ニ之ヲ改正セザルコトヲ得ズ此レ即チ立法ノ獨立ヲ失ヒ内治干涉ヲ甘受スルノ所作ニ相違ナク此ノ事實ヲ以テ之ヲ公法家干涉ノ解釈ニ照スハ密接ニ吻合セザルコトナシ故ニ何等ノ強弁ト雖モ此事ノ内治干涉ニ非ズ即チ立法ノ獨立ヲ毀損シタルニ非ザルコトヲ答弁スルコト能ハザルベシ

蓋内國ノ法律ノ外人ニ適セザルヲ以テ甲又ハ乙ニ出此ノ法律ヲ以テ外人ヲ制御セザルニ止マルハ仍干涉ノ類ニ非ザルナリ此ノ法律ノ外人ニ適セザルヲ以テ遂ニ内國ノ立法權ヲ束縛シ併セテ内國人ニモ之ヲ施行セザラシムルハ(丙)即チ内治干涉ノ真景ナリ立法上獨立主權ヲ失ヘル證據ナリ

或ハ是レ列國會議ノ為ニ一歩ヲ讓ル者ナルガ故ニ公法ノ通義ト謂フノ説アラン歟此レ謬見ノ甚シキ者ト謂ハザルコトヲ得ズ何トナレバ内外關係ノ事件ヲ列國會議ニ付スルハ公法ノ通義ナルベキモ元來内部ノ事務ナル立法ノ当否ヲ以テ之ヲ列國會議ノ判定ニ任ズルハ即チ一國ノ干涉ヲ受ルト十六國ノ干涉ヲ受ルト毫モ公法上ニ差異アルヲ見ズ却テ干涉ノ勢力ヲ強大ナラシムルノ効果アルノミ

國ノ獨立主權ノ危迫ナル問題ナリ

蓋國ノ獨立主權ニ係ル問題ハ戰敗ノ余城下ノ盟ニ由テ生ズルヲ以テ通例トス

公法家ノ説ニ從ヘバ地外法權ハ交際上一種ノ變例ニシテ(即チ公使ノ職掌ニ付テハ各國ノ際ニ之ヲ行ヘリ)獨立權ニ關係スル切迫ナル問題ニハ非ザルナリ即チ「ヘフテル」氏ガ耶蘇教外ノ邦國トノ交際ハ政略ト道德ノ需要ニ從フト謂ヘルガ如シ然ルニ内治干涉ハ比ニ反シテ明カニ獨立主權ヲ毀損スル者ナリ地外法權ハ譬ヘバ手足ノ病ナリ内治干涉ハ即チ肺腑ノ病ナリ手足ノ病ト肺腑ノ病トハ其生命ニ關係スルコト何レガ尤急促ナルベキ乎

明治二十年七月十七日草

井、上 毅 頓首

四四 明治三年七月

伊藤總理大臣意見書

呈外務大臣

本條約案ヲ反覆熟閱スルニ文義明瞭ヲ缺キ注意ノ疑義ニ渉ルモノアリ又明ニ我ニ害有リテ利ナキモノアリト

雖モ悉ク討論弁スルノ邊ナキヲ以テ専ラ要綱ニ付其大略ヲ質ス勿々筆ヲ下シ文意ノ萬一ヲ尽サズト雖モ姑ク記シテ以テ照考ニ便ス其ノ細節ニ至テハ本大臣幸ニ面晤ヲ得テ敲議スル所アラントス

明治二十年七月 日

内閣總理大臣 伊 藤 博文

第四條

本條ニ「日本帝國政府ハ泰西ノ主義ニ從ヒ且本條約ノ約款ニ依リ帝國司法組織及左ノ諸法典ヲ制定スルコトヲ約定ス下略」トアリ而シテ此泰西ノ主義トハ如何ナルモノヲ指稱スルカ按ズルニ泰西各國ニ於テ行ハル主義ニアラザレバ歐洲近代文明ノ主義ト云フノ意ナラン若シ第一ノ解ラシテ當レリトセバ独ニアリテ仏ニナク仏ニアリテ独ニナキガ如ク文明各國ノ間ニ互ニ異同アルモノハ之ヲ採用スルヲ要セザルベシ何トナレバ其國ノ法律、其國ノ制度其ノ國ノ習慣ハ其目的トスル所ニアラザルヲ以テナリ試ニ政法家ノ意見ヲ以テセバ一國ニアリテ一國ニナキ特種ノ制度ハ所謂歐洲普通ノ主義ナリト云フベカラザルナリ然レドモ本條ノ意ハ必ラズシモ然ラザランカ第二ノ解釈乃チ歐洲近代ノ文明主義ナリトセバ唯ク學術上ノ是

ヨリ推ス時ハ勢ヒ茲ニ論及セザルベカラザラ奈何セン是レ兩公使ノ提案ハ一方ニ關シ本案ハ兩方ニ關シ然カモ其ノ所係ノ重大ニシテ甚隔アルヲ知ルニ足ルベシ故ニ深く意ヲ此ニ注ギ歐洲普通主義ノ我ニ適用スベキモノヲ取テ之レヲ制定スベシトノ意味ニ變易スルヲ要ス若シ然ラズシテ他日此條約ヲ公布スルニ至ラバ我臣民ハ自己ノ頭上ニ布カル、法律ハ皆專ラ泰西ノ主義ニ從ヒ我國ノ沿革慣習ヲ攷ヘズ我國ノ風俗人情ヲ察セザルモノナラント疑訝スベシ

本條中尙ホ一ノ疑点アリ即チ末項ノ「警察ニ關スル現行ノ法律規則ハ可成丈輯集類別スベシ」トアル是レナリ其ノ字面ヨリ云ヘバ素ヨリ警察ノ一事ニ止マルハ敢テ弁ヲ待タズト雖モ本條約中一言ノ他ノ行政諸規則ニ及ブモノ無キヨリ考察セバ恐ラクハ自余ノ行政規則モ亦此項中ニ包括スルナラント雖モ獨風ハ措テ論ゼズ英流ノ解釈ニ依レバ決シテ此ノ末項ノ警察云々中ニ安寧秩序ニ關スルモノ、他租稅其他ニ關スル諸般ノ行政ニ至ルマデ拳テ悉ク之ヲ包含ストハ解スル能ハズ然レドモ果シテ本文ノ意此ニアラバ宜ク其ノ要目ヲ挙ゲテ詳記スルヲ要ス又輯集類別トハ第一項ノ諸法典ノ如ク大成スルノ意カ將タ是マデ

認スル所ニシテ未タ實地ニ施行セザルモノヲモ包含スルトセンカ豈然ル理アランヤ要スルニ本案ノ意ハ唯ク泰西普通主義ト云フニ在リテ敢テ精考ヲ費スヲ要セザルガ如シト雖モ凡ソ一國ノ五大法典ヲ制定スルニ當リ其ノ國ノ慣習沿革風俗人情等ヲ斟酌セザルモノナキヲ以テ宜ク本條ハ泰西普通ノ主義ニ從ヒ我國ノ風俗人情等ニ適應シテ其移シ得ベキモノヲ採用スルノ意ニ改正セザルベカラズ曾テ英獨兩公使ノ提出シタル案ヲ見ルニ兩公使モ亦之ニ慮ル所アルモノ、如シ其文ニ日本帝國政府ハ泰西ノ主義ニ從ヒ云々トアルハ唯タ帝國ノ司法組織ニノミ關シ決シテ他ノ諸法典ノ制度ニ及ブニアラズ（別冊本案ノ竈頭ニ示ス訳文ヲ參觀スベシ）兩公使ノ提案ヲ翫味スルニ裁判所構成ノ如キハ司法上ノ機關ニ止マルヲ以テ特ニ沿革ヲ考ヘ風俗人情ヲ察スルヲ要セズ單ニ善美良好ノ機關ヲ移用スベシト云フニアラン、夫レ刑法民法訴訟法商法ノ類ハ一國ノ大法ニシテ各其ノ國特種ノ沿革慣習ヲ攷ヘ風俗人情ヲ察セザルモノアルナシ然ルニ悉ク泰西ノ主義ニ從ヒテ制定スルトセバ既ニ國ノ國タルノ實ヲ失フナリ寧ロ他ノ法律ヲ翻譯シテ之レヲ施クノ勝レルニ如カザラン素ヨリ實地ニ此ノ如キ事アルベキナシト雖モ本案ノ字義

散逸シタルヲ輯集類別シテ觀閱ニ便スルニ過ギザルカ若シ之レヲ大成シテ一ノ法典トセバ乃チ「コデファイケーシヨン」トシテ新ニ公布セザルベカラズト雖モ、歐洲各國中未タ行政ニ關スル法律規則ヲ一括シテ民法商法等ノ如ク「コデファイ」シタルノ例アルヲ聞カズ而シテ其ノ大体ノ利害ニ至テハ次條ニ移リ更ニ論述スベシ

第五條

「上略前條ニ列挙シタル諸法律及諸法典ヲ頒布スベシ中略少ナクトモ八箇月前ニ中略其英文正本ヲ某國政府ニ送付スベキコトヲ約定ス中略右ノ法律ニ改正ヲ加ヘントスルトキハ其改正ヲ實施スル八箇月前ニ右同様之レヲ某國政府ニ通知スルコトヲ約定ス」トアリ抑モ行政諸規則ヲ以テ第四條ニ依リ政府ノ制定スベキ典章ノ内ニ加ハラズトセバ本條ノ場合ニ於テモ亦一定ノ期限間ニ豫報スルノ限リニアラサルベシト雖モ本文頒布ノ義務ヲ指定スルニ前條列挙シタル諸法律及ビ諸規則ヲ頒布スベシ云々トアルニ依レバ此文字中前條ノ警察ニ關スル法律規則ヲモ包含スルモノト解セザルヲ得ズ殊ニ其輯集類別ヲモ再ビ頒布スベキモノトシテ定メラレタルニ於テハ更ニ之ヲ包含スルノ意ヲ明ニシタルモノナリ而シテ其ノ改正ヲ經ル毎

ニ少ナクトモ實施ノ八箇月前ニ其國ノ政府ニ通報スルハ實際ニ行ハルベキコトニアラズ蓋シ刑法治罪法ノ如キ又民法商法訴訟法ノ如キ一國ノ大法ト稱スベキモノハ容易ニ動スベキモノニアラズト雖モ夫ノ行政諸規則ニ至テハ時勢ノ變易ニ依リ國家ノ須要ニ依リ民度ノ消長ニ依リ僅々タル年月ノ間ニ數次ノ改正ヲ要スルコトハ開明ノ途轍ニ日進スル政治上ノ景況ニ於テ蓋シ免ルベカラザルノ常觀トス況ヤ我國ノ如キハ百般ノ制度改正ヲ要シ時機ノ到ル毎ニ改正増補スルニ急ナルニ於テヤ然ルモ實施八箇月ノ前ニ於テ其國政府ニ通報スルコトヲ約サバ一改正ノ通報ト共ニ第二回ノ改正ヲモ通報セザルベカラザルガ如キノ感ヲ免レズ若シ又行政諸規則ヲモ五法ノ如ク容易ニ改正スベカラズトセンカ將來我國行政上ノ働キハ死水ト一般ナランノミ本案ノ期スル所素ヨリ此ノ如クナラザルベシト雖モ前後相照シテ文義ヨリ觀察スルトキハ遂ニ此疑ニ陥ルヲ奈何セン若シ果シテ然ラズトセバ宜ク本文ヲ改メテ五法ノミ此期間ニ通報スルヲ約定シ時々變更ヲ要スル行政諸規則マデモ八箇月ノ前ニ通報スルヲ約シテ豈ニ徒ラニ手足ヲ緊束セラレテ困倒スル如キ愚ニ陥ルベケンヤ

ヲ異ニスルノミト云ハバ何ゾ同一ノ文字ヲ用ヒテ徒ラニ他ノ疑ヲ延クコトヲセンヤ又本條「同意スルコトヲ得ベキモノニ限り」ノ字總當ナラズ特種ノ法律規則中ニハ領事裁判所ノ必ズ同意スルコトヲ得ザルモノアリト云フノ意ヲ示スニ外ナラズ例ヘバ新聞條例ハ英米ノ居留人民ヘ施スコトヲ得ズト雖モ他ノ行政規則ハ別ニ成案ノ上ニ不都合ナキトキハ之ヲ實施スルモ妨グズト云ハシガ如シ果シテ然ラバ日本ノ行政法又ハ行政規則ハ彼ノ認可ヲ待テ始メテ實施ノ効力ヲ有スルモノト云ハザルベカラズ是レ豈ニ正當ノ道理ナランヤ本條ニ領事裁判所ノ行政規則ヲ施行スト云フハ日本ノ行政規則トシテ施行スルカ又之ヲ移シテ彼國ノ行政規則トシテ施行スルノ意カ本條ノ明文ニ依レバ唯タ施行スベシトノミアリテ畢竟彼等ハ其ノ施行官ニ止マリ立法權ハ一ニ皆我ニ存スルモノ、如シ姑ク疑フ記シテ質ス

第七條

本條上略「一名若シクハ數名某國民若クハ人民ニ交渉セル民事又ハ刑事の訴訟云々」トアルハ日本人ト某外國人ノ交渉事件ヲ指スモノナリト雖モ若シ外國人ノ交渉事件アラバ如何本條約中之ガ規定ヲ見ズ。然リト雖モ封土法

第六條

本條ニアル警察及行政ノ規則ハ第四條ノ警察ニ關スル法律及規則トアルト別異ナルカ本條ニ於テハ故サラニ行政ノ字ヲ加ヘ其第四條ニ於テ之ヲ省キタルハ何等ノ理由存スルカ若シ果シテ行政法以外別ニ警察ノ法律規則アラバ第四條ニ於テハ單ニ警察ニ關スルコトノミヲ云ヒ其以外一般ノ行政ハ同條ノ拘束スル所ニアラザルハ勿論ナレバ素ヨリ泰西ノ主義ニ從フヲ要セズトノ意カ。然ラザレバ第五條ノ通知ノ制限ヲ此ニ加ヘザルハ解スベカラザルナリ此事前第四條第五條ト相關係スルヲ以テ已ムヲ得ズ復ビ此ニ一言スルニ至レリ殊ニ本條ニハ規則トノミアリテ法律ノ字ナシ是レ亦兩條ノ旨意ト異ナルニ由ルカ若シ果シテ異同アリトセバ本條領事裁判ノ權ハ條約締結後僅ニ三箇年間其ノ効ヲ有スルニ過ぎザレバ彼此同一視スベカラズトノ見解ノ起ルナラント雖モ苟モ一國ノ行政法タル以上ハ決シテ其性質ヲ變易スベキモノニアラズ前第四條ヨリ本條ニ至ル間其名ヲ異ニシテ一方ニハ法律規則トアリ一方ニハ單ニ規則トノミアリ前後其輕重アルヲ見ルベシ蓋シ法律ハ領事裁判所ノ同意シ得ベキノ限ニアラズト云フノ意カ若シ然ラズシテ其ノ実ハ相同ジキモ其ノ名

ジユリスチカシヨシ
權ノ原理ヨリ推究セバ假令英仏兩國人ノ交渉ニセヨ其ノ我國内ニ生ジタル事件ナラバ其裁判權ハ我ニ存スベシ惟フニ此規定ナキハ我政府自ラ其權利ヲ請求スルノ意ナキニ出ヅルカ

第一項上略「裁判官ノ多數ハ外國屬籍ノ者タルベシ」以下數條ニ於テモ亦外國屬籍ノ判事又ハ外國判事トアルハ恰カモ外國政府ノ任ヲ受ケテ日本裁判所ニ派遣セラレタルカノ疑ヲ引クノ恐アリテ總當ナラズト信ズ殊ニ其ノ職務上ニ付頗ル細微ニ渉リ愈々之ヲ疑ハシムルニ至ルト雖モ本案精神ハ全オ之ニ異ナリ其裁判官ナルモノハ何國ヲモ代表スルニアラズ何國人タルニ拘ハラズ適格者ヲ聘用シ純乎タル我裁判官トシテ法廷ニ臨マシムルナレバ宜シク名実相協ヒ分義共ニ明ナラシムベシ故ニ本條以下ノ外國屬籍又ハ外國判事トアルヲ皆外國ヨリ聘用シタル裁判官ト更ムベシ此ノ如クセバ何等ノ外國人ヲ聘用スルカラ疑フ者アラント雖モ既ニ其適格ノ定マルアレバ敢テ茲ニ明文ヲ掲グルノ要ナカルベシ
又多數ノ字ハ一案件ヲ審理スルニ當リ會議裁判ノ制ニ於テ外國ヨリ聘用シタル裁判官其ノ多數ヲ占ムベシト云フ

ノ意ナルカ將タ各裁判所ノ判事総員ノ上ニ於テ多數ヲ占ムベシト云フノ意ナルカ。第一項ノ明文ニ就テ云フトキハ第二ノ解釈ヲ以テ當レリト為サザルベカラズ豈此理アラシヤ

第七項第二第三ハ既ニ第一項ノ部ニ於テ略説スルガ如ク服務ノ細微ニ涉リ本條約ニ掲グベキ必要ナシ營ニ必要ナキノミナラズ却テ之レアルガ為ニ外国ヨリ聘用シタル判事モ其国政府ノ欽命ヲ帶ビタル立会裁判官ナラント誤解ヲ来スベシ故ニ此般ノ服務ニ關スル細事ハ總テ條約中ヨリ削除スルヲ妥當トス

第八項第二ニ「不定金額若クハ物価ヲ有セザル物件」ノ詞訴訟上ニシテ「其総額百円ヲ超過セルモノハ云々」ハ何ニ依テ算定スルヲ得ベキカ潛思沈考シテ其果シテ不定金額又ハ不定價格タルノ所以ヲ解スル能ハザルナリ

第十一項「帝國検査官ノ職務ハ外国屬籍官吏ヲシテ云云」トアルモ、既ニ本條ノ首メニ於テ論ジタル理由アレバ判事ノ修正ニ倣ヒ亦外國タリ聘用シタル検査官ト改ムルヲ穩當トス

第十二項ハ必ズシモ條約ヲ以テ約束スベキ事項ニアラズ明條ハ載セテ現行ノ治罪法ニアリ若シ刑法治罪法ノ要綱

ニ屬セザル場合ニ於テハ一同ノ叶議ヲ以テ他ノ歐洲語ヲ換用スルコト（ヘ）項ニ明條ヲ設ケ特ニ之ヲ許スニ非ズヤ然ラバ則其裁判官中枉ゲテ其議ニ從ヒ一同ノ叶議ヲ經タル國語ニ通曉セザル者アルトキハ必ラズ通弁官ヲ用ヒザルベカラズ又英米ノ國籍ニ屬セザル他國人ノ英語ヲ解セズ自國ノ語ヲ以テ供述センコトヲ願フモノアルトキハ法廷ニ於テモ亦勢ヒ之ヲ許サルヲ得ズ歐洲ノ訴訟法中ニハ特ニ明條ヲ設ケテ聲啞ト雖モ審理ニ關スルモノハ通弁ヲ用ヒ或ハ文字ヲ解スルモノナルトキハ筆記ヲ用ヒ之レヲ審札スルナリ況ヤ聲啞ニアラザル具備ノ人ニシテ不幸ニモ法廷ノ公用語ヲ解セザルモノノ如キニ於テヤヤ然リト雖モ此等ニ已ムヲ得ザル事情ニ出デ法廷モ亦一時ノ便宜ニ從ヒ之ヲ措弁スルハ可ナリ之ヲ條約上約束ヨリ生ジ一國ノ上ニ負担スベキ義務トシテ各國ノ通弁官及翻譯官ヲ備ヘ四六時中其用ヲ缺クナカラシメンコト本條約ヲ實施スル日ニ於テ豈ニ至難ノ地ニ陥ルコトヲ免レザランヤ以上ハ裁判所ト訴訟人トノ關係ニ於ケルコソ或ハ原案ニ載スル如キ必要アルベシト雖モ甲乙ノ裁判所ノ間ニ往復スベキ文書ニ至ルマデ英語ヲ用フベシト云フ事項ヲ條約上ノ義務トナスハ最モ穩ナラズ倘シ万止ムヲ得

ニ關スルモノヲ悉ク挙テ列記スベシト云ハバ本條案中ニ載スル所頗ル遺憾ナシトセズ細大漏サズ纖毫遺サズ之レヲ條約中ニ掲グベシトセンカ、復タ別ニ第四條ニ掲グル如ク五大法ノ制定頒布通知ニ關スル如キ約束ヲ設クルヲ要セザルナリ

第十三條ノ明文ニ依レバ日本語ヲ以テ公用トナシ英語ヲ以テ公用外國語ト為ス既ニ公用外國語ヲ特定スル以上ハ外國人交渉ノ案件ヲ審理スベキ各法廷ニハ其ノ公用外國語ニ通曉スル通弁官及翻譯官ヲ備ヘ能ク實地ノ需用ニ応ジテ毫モ不便ヲ感ズルコトナカラシメザルベカラズ此英和兩國ノ通弁官及翻譯官ヲ備フル一事ノミニテハ既ニ我政府ノ本條ニ依リテ負担スベキ所重且大ナリ然ルニ（八）ノ項ニ依レバ自余ノ外國語ト雖モ裁判所ノ書類並ニ往復文書等ニ用ユルコトヲ許スニ於テハ独リ英語ノ通弁官及翻譯官ノミナラズ他ノ國語ニ通曉スル者ヲ悉ク備ヘザルベカラズ果シテ外國ノ通弁及翻譯ニ便ナラシメント欲セバ何ゾ始メヨリ英語ヲ以テ公用外國語ト定ムルノ要アラシヤ論者或ハ云ハン口頭ノ言語ハ專ラ英語ニ限リ他國語ヲ用ユルコトヲ得ズト是レ英語ヲ以テ公用語ト定ムル所以ナリト是レ決シテ然ラズ裁判官訴訟人共ニ英米ノ國籍

ザル必要アラバ裁判所ノ規程ニ就テ之ヲ指定シテ可ナリ苟クモ我國裁判所ノ間ニ往復スル文書ノ用語ニ至ルマデ條約上ノ牽制ヲ受クルニ至テハ其害實ニ煩雜ヲ滋スノミニ止ラズ復タ國家ノ体面ニ關スル最モ大ナリト云ハザルヲ得ザルナリ

第十四項ニ「裁判所用ノ國語ニ熟達シタル日本代言人ヲ附スベシ」トアルハ按ズルニ日本語ト英語ニ熟練スル代言人ヲ指稱スルナラン而テ横浜、函館、新潟、神戸、京都、山口、長崎、名古屋ノ八箇所ヘ是等ノ完全ナル日本代言人ヲ附スルコトヲ約シ若シ適當ノ人ヲ得ザレバ莫大ノ金ヲ費シテ此約束ヲ履ムカ或ハ高給ヲ払フテ附屬代言人ヲ設クルノ已ムヲ得ザルニ至ラン東京、横浜ノ如キハ此ノ如キ不都合ヲ見ザルベシト雖モ、他ノ各地ニ至テハ一旦ニ實施スルハ至難ナリトス

同上別項モ亦本節ト異ナラサル困難アルベシ

第十七項ニ「陪審ヲ許シタル裁判所ヲ設置スル場合ニハ」云々トアリ未來ヲ妄想シ未來ヲ假定シテ約束スルハ頗ル其謂レナキニ似タリ云々ノ事ヲ為シタランニハ云々スベシト云フガ如キハ會議録ノ上ニ相互承認ノ意ヲ表明スルトモ別ニ本條約ニ明條ヲ設ケ之ヲ特約スルノ事由ナ

シ宜シク削ルベシ

第八條

第二項(一)ニ「外国属籍裁判官檢察官其本国ニ於テ裁判官檢察官若シクハ代言人タリシ者タルヲ要ス」トアリ。若シ此ノ明文ノ如ク果シテ既ニ其ノ職ニアリタル者ニアラザレバ適格ナラズトセバ彼地ニテ大学ヲ卒業シ或ハ学士称号ヲ有スルモ未タ曾テ其職ニ就キタル者ニ非ザレバ其技倆ノ如何ニ拘ハラズ本條ノ明文ニ照ラシ聘用スルヲ得ザルベシ然ルニ彼ノ国ニ於テ名望アリ經驗アリテ相当ノ地位ニアルモノハ決シテ其ノ郷土ヲ去テ聘ニ応ズルコトナカラン偶々之レアルモ其要求スル所ノ俸給ハ極メテ多額ナリトス苟モ實際條約ヲ履踐スルニ当リ左支右梧スルコトナカランコトヲ欲セバ宜シク實地奉行ノ便否如何ニ注目シテ外国法律家ヲ聘用スルノ道ヲシテ徒ニ狹隘ナラシムベカラズ是ヲ以テ從前其業務ニ從事セザル者ト雖モ適格ナラバ聘用スルヲ得ト修正スベシ

同上(二)以下(五)ニ至ルマデ皆服務ニ関シ其聘用セラルベキ人ト日本政府ノ間ニ存スル事柄ニ過ギズ畢竟此ノ如ク細微ニ涉リ外国ノ干渉其度ニ過ルガ如キ外觀ヲ示スハ愈々後日ニ至リ事實ヲ構造セシムルガ如キ虞ナシト

第十二條

既ニ一國ト特約ヲ設ケテ別段ノ取極ヲ為シタルコトモ他國ノ之ヲ請求スルニ於テハ即時ニ且何等ノ報酬ヲ要求スルコトナク片務ノ義務トシテ之ヲ許スガ如キ讓与モ亦甚タシト云フベシ此事普通政治上ノ法理ニ於テ許スベカラザル事ナリ

附録第二款

本款ニ載スル各項ノ意義甚タ明瞭ナラズ苟モ一方ノ法廷ニ於テ申渡又ハ宣告シタル判決ニシテ他國法廷ノ承認ヲ經ザレバ其ノ効力ヲ有セズト云フ如キニ至テハ司法ノ通義ニ照シテ解スルニ苦シム所ナリ故ニ姑ク疑義ヲ存シテ各項ノ立言ニ就キ精緻ノ辨明ヲ得、愈推敲討究ヲ加ヘ而テ後其是非得失ヲ詳論スル所アラントス

同上第二項「外国若クハ領事裁判所」トアリ外国裁判所トハ我版圖以外ニ在ル外国裁判所ヲ云フ歟將來外国即チ領事裁判所ノ意ナル歟前文ノ意義ニ付一定ノ解釈ヲ得ザレバ其ノ執レヲ指ス歟ヲ辨知スルニ由ナシ

第三款

第二款ニ「他國ノ裁判所」トハ他國ノ領事裁判ヲ指ス歟前款ニ於テ既ニ一條ノ疑問ニ屬セリ逐條同一ノ名称ヲ用

セズ寧ロ初メヨリ條約上ニ各國ト約束スベキ事項ニ屬セズト認ムルニ如カザルナリ

第九條

上略「此ノ方法ニ變更ヲ加ヘントスルトキハ予メ某國政府ノ承諾ヲ得ルヲ要ス」トアリテ恰モ一方ノ意ニ出テ一方ハ之レヲ承諾スル如キノ感アリ然レドモ約束ハ双方ノ合意ニ成ルヲ以テ其ノ便不便モ亦共ニ双方ノ感ズル所ニシテ彼我ノ別アルコトナシ或ヒハ彼ヨリ發言スルトキヲ保スベカラズ故ニ我ヨリ求メテ彼ノ承認ヲ待ツガ如キハ頗ル約束ノ義ニ戾ルヲ以テ宜シク双方ノ合意ニ成ルベキヲ明晰ニセザルベカラザルナリ

第十條

本條「身分ニ關スル」云々トハ民法上ノ人權ニ涉ル事項ヲ云フ乎果シテ然ラバ外國人ト我國人トノ交渉案件ニ於ケルモ苟モ外國人ノ人權ニ涉ル事項ニ付テハ永遠無窮ニ領事裁判ノ制ヲ存シテ我法權ニ服從セシメザラントスルノ意ヲ益々確認スルモノト云ハザルベカラズ本條ノ文意頗ル漠然政法家ノ執筆ニ出デタルモノト思ハレズ判然タル明解ヲ得テ更ニ詳論スル所アラン今姑ク疑團ヲ表シテ不同意ノ一斑ヲ示スノミ

ヒテ徒ニ紛雜ヲ極メテ其實ヲ誤ラシムルコト勿レ

四五 明治三十年九月十日 井上外務大臣ヨリ
スチブンス宛

外交會議延期善後策処置方ニ關スル使命訓令

Strictly confidential

Private Instructions

to

Mr. Stevens.

Foreign Office,

Tokio, Sept. 10th, 1887.

In proceeding your post at Washington, you are hereby instructed to engage in a special service, which you will prosecute side by side with your other duties, and in connection with which you will strictly observe the following points:—

1. You will in all cases use discretion and observe secrecy. Our Minister will be thoroughly apprised of the charge entrusted to you, but it is important that other members of the legation should remain ignorant of it.

2. On your arrival at Washington, you will report to our Minister the cause which led to the suspension of the Conference. It is particularly desirable that any feeling of disappointment which the Government of the United States may entertain on the subject, should be allayed; and from your knowledge of the whole development of the negotiations, you will be best able to furnish our Minister with good and strong reasons to compass the desired object. Nothing could be more unfortunate than that the United States Government should believe the decision taken by us to have arisen from retrograde policy on our part. On the contrary, we intend to push on with all our might to be received as a member of the great family of nations, but we will not rest satisfied unless we are received on a footing of equality with others. Toward this goal of our aspiration the proposed revision of our laws and reorganization of our courts will be a great step.

3. You will also give our Minister at Washington a full account of what has passed since 1882, and of the gradual development and present issue of the Revision question.

such telegrams will be depayed by the legation.

7. You will always act in concert with our Minister at Washington, and at the same time you will keep the Minister of Foreign Affairs constantly informed of your proceedings.

四六 明治三年九月(カ) 後藤象二郎建白書

敬聖文武 皇帝陛下 先帝幕府ノ政ヲ失フテ内憂外患交モ起リ我邦ノ日ニ危殆ナルヲ憂慮シ赫然威怒ヲ奮ヒ中興ノ業ヲ建テントシ時期未ダ到ラズ中道ニシテ升遐シ給ヒシハ天下人民ノ痛悼惋歎スル処ナリ

陛下 先帝ノ誠志ヲ継ギ天下敵愾ノ氣ヲ鼓シ内憂外患ヲ排除シ遂ニ維新ノ事業ヲ成就シ以テ 先帝在天ノ靈ニ報答シ給ヘリ。當時臣ノ不似ナルモ中興諸臣ノ後ニ從フテ國事ニ奔走シ 陛下ノ眷寵ヲ蒙リ叨ニ大政ニ參シ身ヲ以テ之ニ酬ユルコトヲ期セシニ一日一同僚ト意見ノ合ハザアルニ因リ内閣ヲ退キ爾來民間ニ在テ國家内政外交ノ狀勢ヲ觀察シ竊カニ痛歎ニ堪ヘザル者アリ 陛下ノ為メニ愚衷ヲ述ベント欲スル者幾回ナルヲ知ラザリシガ未ダ時宜ヲ得ザルヲ以

追捕 井上外務大臣國書 四六

4. According to the orders of the Minister of Foreign Affairs, you will establish connection with the press and with suitable persons all over the United States, with a view to exercise influence over the press and literature; and you will report on the best manner of organizing such connection.

5. You will, moreover, endeavor to find opportunities to exchange views, privately and on your own account, with influential statesmen and officials on the subject of Japanese politics, on all important questions connected with our policy, and especially on questions relating to the Revision of Treaties. You will avail yourself of such opportunities to explain the real circumstances, and will try to win the views of men you speak with as much as possible in our favor. You will report the conversations held on such, occasions both to the Minister of Foreign Affairs and to our Minister at Washington; and you will also report all matter of importance that may come to your notice through the press.

6. If, at any time, there should be risk in delaying to send any communication, you may telegraph to the Minister of Foreign Affairs in cipher. The costs of

テ遷延シテ今日ニ至レリ今ヤ外交ノ一大失策已ニ発露シテ復ク隠蔽ス可カラス内憂外患方サニ目前ニ迫レリ臣復タ默ストシテ國家ノ危難ヲ傍觀スル能ハズ因ツテ時事ノ最急ナル者ヲ陳述シ以テ 陛下乙夜ノ覽ニ供セント欲スルナリ蓋シ近日内閣ノ内政外交ハ多ク其目的ヲ誤リ全ク内外ノ信用ヲ失フニ至レリ臣今必ラズシモ一々之ヲ挙グルコトヲ須ヒズ独リ今回條約改正會議ノ始末ノ如キハ我日本帝國ノ独立ヲ妨害シ上ハ 陛下ノ威徳ヲ損シ下ハ人民ノ困難ヲ醸セシコト實ニ鮮少ナラズ然リ而シテ内閣大臣等ハ職ヲ辭シ罪ヲ謝スルコトヲ為サズ觀然トシテ政府ニ立チ内外並ニ信用ナキノ身ヲ以テ愈々切迫シテ愈々困難ナル内外事務ノ衝ニ当ラントス。禍乱ノ機實ニ此ニ萌芽セリ是レ臣ノ慷慨涕涕シテ 陛下ニ告ゲント欲スル所ノ一大要件ナリ

夫レ條約改正ハ現内閣ノ素ヨリ全力ヲ出シテ經營セシ所ニシテ 陛下モ亦タ此ヲ以テ其能否ヲトスルコトヲ得ベキナリ。惟フニ大臣等ハ其初當ニ 陛下ニ告グルニ此ヲ以テ我國ノ獨立ヲ維持シ我邦ノ名譽ヲ發揚スルコトヲ以テシタルナルベシ然リ而シテ其結果タル外国全權委員ノ為メニ要求セラレ遂ニ一國獨立ニ大關係アル立法司法ノ二大權ヲ挙ゲテ之ヲ外人ノ干涉ニ附スルコトヲ承諾スルニ至レリ國ノ光

米ヲ虧キ民ノ損害ヲ招クコト之ヨリ甚ダシキハ無シ然リ而シテ大臣等ハ之ヲ 陛下ニ告グズ之ヲ人民ニ示サズ一朝其會議ノ始末ヲ知ル外臣ノ為メニ其失策ヲ指斥セラレ之ニ因ツテ一二ノ異論ヲ騰グル者アリシカ為メニ急遽狼狽シテ俄カニ會議ヲ中止セリ。陛下ノ信用ニ負キ帝國ノ体面ヲ汚スコト一ニ此ニ至ル尙ホ何ヲ以テ外人ハ輕蔑ヲ受ケザルヲ得ン哉何ヲ以テ國人ノ憤怒ヲ激セザルヲ得ン哉

蓋シ国家多事ノ際ニ在テ、鞠躬力ヲ尽ス者ト雖モ或ハ時ニ錯誤ナキコト能ハズ。而シテ事体ノ瑣ニシテ且ツ一時ノ誤リニ出ヅル者ハ陛下固ヨリ之ヲ寛容ス可ク、内外國人モ固ヨリ之ヲ宥恕ス可シ條約改正ノ如キニ至テハ果シテ瑣事ト謂フコトヲ得可キ乎是レ直ニ国家安危興衰ノ機ノ決スル処ニアラズ乎而テ今此ノ如シ内閣大臣タル者 陛下ニ對シ人民ニ對シ一日モ其職ニ在ルコトヲ得ベキニ非ザルナリ然レドモ臣ノ視ル所ヲ以テスルニ内閣大臣力此ノ如クニシテ國ノ大事ヲ誤リタルハ決シテ一時偶然ノ故ニ非ザルナリ近歲以來天下ニ表白シタル内政外交ノ近況ヲ察スルトキハ其漸ク以テ此ヲ馴致スルニ至リタルハ勢ノ已ムベカラザル所ナリ内閣大臣ハ内外ノ政策ニ於テ素ヨリ一定ノ目的アルコト無ク、事ヲ拳グル毎ニ専ラ模稜糊塗ヲ務メ外人ノ輕蔑

ヲシテ意見ヲ九重ノ上ニ達スルコトヲ得ザラシムルガ如キハ正ニ夫ノ萬機公論ニ決スベシノ 御誓ニ違背スル者ニシテ今日天下ノ有識ノ士ノ深ク憤慨スル処ナリ 陛下聴叡固ヨリ已ニ明知シ給フベクレバ臣今一々縷述スルコトヲ須キザルナリ財政ニ関スル処置ノ如キニ至テハ決シテ之ヲ黙々ニ付ス可カラザル者アリ

陛下明治十年ニ當リ人民ヲ休養スルノ 聖意ニ因リ詔ヲ下シテ地租ヲ減省シ給ヒシハ人民ノ今ニ至ルマデ盛徳ヲ歌誦スル処ナリ。其後民間生活ノ状況ハ益々悲慘ノ境ニ沈淪スルヲ見ル而シテ内閣大臣等ハ種々ノ口実ヲ設ケテ各種ノ租稅ヲ賦課シ近ク數年ノ間ニ於テ殆ンド二千萬円額ヲ増加シ遂ニ 陛下ノ赤子ヲシテ所謂公売処分ニ遇ヒ流離困頓スル者年々十萬戸ニ下ラザラシムルニ至ル

陛下ノ聰明慈仁ナル必ズ夙ニ聞知シテ深ク 聖德ヲ惱シ給フナラン蓋シ今日宇内ノ大勢ヲ察スルトキハ陸海軍等ヲ擴張スルハ固ヨリ已ム可カラザル処ニシテ一國ノ資力ヲ拵ゲテ之ヲ充ツルモ亦不可ナキナリ顧フニ内閣大臣ハ必ズ此ヲ以テ口ヲ藉キ以テ 陛下ニ上奏シテ租稅ヲ増加スルノ政略ヲ斷行セシナラン然ルニ内閣大臣等ハ此租入ヲ以テ不急ノ土木ヲ起シ無用ノ觀瞻ヲ張リ為メ年々國庫ノ空乏ヲ告ゲ

ヲ招キ國民ノ憤怒ヲ起サザルハナシ、然ラバ則チ條約改正ノ如キ重大ナル事件ニ至リテハ固ヨリ現内閣大臣ノ能ク當ル処ニ非ズシテ其着々敗ヲ取りシハ初メヨリ恠ムニ足ラザルノミ。臣今試ニ 陛下ノ為メニ一二其最明白ナル事實ヲ挙ゲン。其外交ニ在テハ前ニ朝鮮ノ事件ニ干渉シテ清國ト競争ヲ試ミントシ一タビ小事變ニ逢フニ及ビ遽ニ自ラ沮喪シ朝鮮ヲ放棄シテ取テ復タ興ラズ清國ノ專横跋扈ニ一任スルニ至レリ遠大ノ計畫ナク反復姑息ノ処置ヲ施シテ以テ隣國ノ輕侮ヲ招キシハ是レ其失策ノ一ナリ。弱小ノ邦ヲ以テ強大ノ國ト交ルニハ往來酬接ノ際及ビ自家經國ノ術並ニ一種出色ノ処有リテ始メテ自ラ樹立スルコトヲ得ルナリ若シ然ラズシテ依倚齷齪以テ歲月ヲ玩過スルトキハ竟ニ自ラ廢尽スルニ帰センノミ維新ノ初國家ノ政略實ニ茲ニ慮ル有リキ然ルニ内閣大臣ハ卑々トシテ専ラ一ニ強國ニ諛諂シ其欲心ヲ買フコトヲ求メ却テ其輕蔑ヲ受ケシノミナラズ因ツテ以テ他ノ列國ノ嗤笑ヲ招キ外交政策ニ於テ異常ノ困難ヲ貽スニ至リシハ是レ其失策ノ二ナリ。其内政ニ在テハ凡内閣ノ処置ヲ誤マリシ者ハ殆ンド枚舉スルニ遑アラズ言論集會ノ規律ヲ苛ニシテ憂國ノ志士ヲシテ内政外交ノ得失ヲ論ズルコトヲ得ザラシメ上書請願ノ條例ヲ嚴ニシ 陛下ノ赤子

年々租稅ノ増加ヲ見ルニ至レリ天下萬民何ゾ内閣ノ処置ニ於テ憤激セザルヲ得ン哉。臣ノ尤モ痛歎ニ堪ヘザル処ハ夫ノ國防費ノ獻納ヲ以テ豪戸ヲ誘導セシ一事ナリ夫レ賞ヲ懸ケテ金ヲ募ルハ旧幕府弊政ノ一ナリ故ニ 陛下ハ維新ノ初メニ於テ斷然之ヲ禁止シ給ヘリ蓋シ國家非常ノ難アルニ當リ人民ノ自ラ奮フテ財ヲ政府ニ納ムルハ其讚美スベキコト固ヨリ言フ俟タザルナリ夫ノ旧幕府ノ所謂御用金ト同一ノ形ヲ呈スル者ニ至テハ佞令ヒ強迫ノ迹ナキモ決シテ政治上適當ノ計ニ非ズシテ要スルニ外人ノ為メニ文適半開ヲ以テ侮蔑セラルル東洋諸國ニ行ハル所ノ者ノミ故ニ近時歐洲文明ノ諸國ニ在テハ一旦寇敵都城ニ逼ルニ至ルニ遭フモ此ノ如キ拙劣ナル処置ヲ為スコトハ決シテ無キ所ナリ然リ而シテ今國家無事ノ時ニ於テ此汚下策ヲ行ヘリ國ノ体面ヲ傷害スル之ヲ何トカ謂ハン且ツ夫レ官宅ヲ營ミ宴會ヲ盛ンニスル等無用不急ノ用度ニ在テハ租稅ヲ増加シ公然給フ國庫ニ取リテ憚ル所無クシテ國ノ独立ヲ固ムル処ノ正當ナル軍事費用ハ反テ此非計ニ循フカ如キハ措置ノ際其顛倒錯亂セシコト實ニ言フニ忍ビザル者ト謂フベキ也夫レ此ノ如クシテ内閣大臣ノ其ノ内外ノ政ニ於テ着々措置ヲ誤リタル所以ノ者ハ他ナシ素トヨリ大臣ノ器ニ非ズシテ既ニ 陛下ニ忠

ナラズ又國民ニ仁ナラズ姑息卑劣ノ手段ニ因リテ専ラ身ヲ容レ位ヲ保ツコトヲ求ムルノ致ス所ニシテ其ノ條約改正ノ會議ニ於テ振拔スルコト能ハズ諸強國委員ノ為メニ玩弄セラレ一國ノ面目ヲ傷害シテ殆ンド國害百年ノ計ヲ誤マラントセシハ心ズシモ意外ノ事ニハ非ルナリ夫レ内閣ノ失策タル已ニ天下ニ曝セシコト此ノ如シ

陛下ノ宏量ナルヲ如ク海ノ如ク務メテ群臣ノ過失ヲ寛容シ給フトモ雖モ内外ニ信用ナキ大臣ヲシテ復タ一日モ其職ニ在ラシム可ラザルナリ且ツ往ニ國家歐洲立憲政體ノ諸國ニ倣ヒ凡ソ重要ナル内政外交ニ關シテ各大臣皆連帶ノ責任ヲ負フニ至リタルコトハ内外人民ノ明認スル所ニシテ即チ明治十八年十二月三條太政大臣ノ奏議ニ於テ内閣ノ組織ヲ論ズルヤ各部宰臣均シク其責ニ任ズルノ言アリ而シテ陛下之下ヲ嘉納シ給ヒ以テ現内閣ヲ組成セリ然ルニ現内閣ハ國家ノ大事ニ關シ一大失策アルニ及ビ專ラ責ヲ一大臣ニ帰シテ已ハ則チ靦然トシテ其職ヲ守レリ是レ條理ニ於テ決シテ許ス可カラザル処ナリ假令ヒ全權委員ニ於テ一二專施ノ述アリシモ其會議ハ遠ク万里ノ外ニ在テ舉行セシ所ニ非ズシテ一切談判ノ記事ハ即日内閣ニ呈出シテ各大臣ノ檢閱ニ供セシナラン果シテ然ラバ一省ノ雇人タル外臣ノ忠告ニ因ツ

ハ是マデ現内閣ノ政策ニ就テ常ニ不平ヲ懷ケリ今ヤ條約改正會議ノ始末ヲ伝聞スルニ及ンデハ慷慨切齒セザル者ナク全國一時ニ激動スルノ勢アリ此ノ如ク民心ヲ失ヒタル諸大臣ヲシテ猶ホ職ニ在ラシメ以テ内治ノ績ヲ挙グルコトヲ望ムコト是レ亦臣ノ決シテ信ズル能ハザル所ナリ陛下猶覺悟セズ現内閣大臣ニ委任シテ疑ハザルトキハ彼輩ノ後來ニ施設スル所ノ者知ルベキノミ。外ハ卑姑屈息ノ計ニ循ヒ務メテ外國ニ諂諛シ我國ノ体面ヲ汚損シ、我國ノ獨立ヲ失亡スルヲ顧ミズ内ハ陛下ノ威權ニ憑藉シテ専ラ人民ヲ抑圧シ其憤怒ヲ激シテ已ハ則チ遊移糊塗シテ専ラ天下ノ攻撃ヲ避クルコトヲ求メン為彼輩職ニ抛リ祿ヲ利スルノミニテ復タ他策ナケレバナリ。此ノ如クナレバ之ヲ外ニシテ諸強國ノ強迫ヲ受ケ、之ヲ内ニシテ民心ノ瓦解ヲ致シ、凡ソ陛下ガ先帝ノ遺志ヲ継ギ成就シ給ヘル中興ノ大業ハ遂ニ湮滅ニ歸スルニ至ラン 祖宗三千余年ノ社稷ヲ如何ニセン故ニ臣ハ今日内閣ノ易置ヲ除キ他ニ國家ノ危急ヲ濟フノ道無キヲ見ルナリ惟フニ現内閣大臣等ハ内閣ノ易置ヲ以テ國家ノ秩序ヲ變更スル革命ト同一視シ、其言ヲ誇大ニシテ以テ陛下ヲ熒惑スルナラン然レドモ内閣ノ易置ハ決シテ此ノ如キ危險ノ計ニ非ズ且ツ陛下ノ与ニ安危ヲ共ニスル所ハ内

テ初メテ其專斷失策ヲ覺リタルト謂フガ如キハ是レ直チニ國ノ大事ヲ廢外ニ置キタルコトヲ證スル者ニシテ茲々以テ衆大臣放慢ノ罪ヲ重クスルニ過ギザルノミ、若シ枉ゲテ一步ヲ譲リ他ノ大臣ハ各部ヲ分担スルニ因リ外交上ニ關シ直チニ責ヲ受クルコトナキヲ以テ口実ト為スモ兼チ中外ノ機務ニ當リ全局ノ平衡ヲ保持スルヲ以テ職掌ト為ス所ノ總理大臣ニ至テハ

陛下ニ對シ國民ニ對シ凡ソ條約會議ニ係ル処ノ失策ニ於テ決シテ其實ヲ免ル能ハザルナリ臣ノ聞ク所ニ用レバ近時歐米諸國ニ在テハ凡ソ内外ノ政ニ於テ一タビ誤リ有ルトキハ其事未ダ必ラズシモ國家ノ安危ニ繫ルニ至ラザルモ内閣大臣ハ皆自カラ咎ヲ引キ責ヲ負ヒ一時共ニ其職ヲ退クコト是レ其ノ常例ナリ此ノ如クナラザレバ以テ交際諸國ノ信ヲ得可カラズ以テ人民ノ憤ヲ洩ラスベカラザルヲ以テナリ今我が内閣大臣ノ國家ノ大計ヲ錯マリ外人ノ信用ヲ失ヒタル所前述ブル所ノ如クナルヲ以テ新ニ内閣ヲ置キ別ニ人物ヲ得テ以テ再ビ談判ヲ開クモ尙ホ後國ノ困難ニシテ容易ニ我國權ヲ擴張スベカラザルヲ憂フ然ルニ一タビ処分ヲ誤リタル現内閣大臣ヲシテ再ビ外交ノ衝ニ當ラシメ以テ効ヲ奏スルコトヲ望ムコトハ臣ノ決シテ信ズル能ハザル所ナリ我國民

閣ニ在リト為ス乎將ク國民ニ在リト為ス乎

陛下枉ゲテ現内閣ヲ保チテ以テ國民ノ憤怒ヲ實フトキハ是レ正ニ危險ノ計ナリ 陛下一タビ聖衷ヨリ斷ジ、現今朝ニ在ルト野ニ在ルトヲ向ハズ素ヨリ幹識ノ名有リテ陛下ノ信用シ給フ者一人ヲ宮中ニ召シ、命ズルニ内閣組織ヲ以テスルトキハ政治ノ面目ヲ一新スルコト特ニ一朝タノ業ニ過ギザルノミ此ノ如クシテ始メテ現内閣ノ失敗ヲ匡正シテ再ビ條約改正ノ會議ヲ開設スルヲ得ベク始メテ天下ニ磅礴スル不平ノ氣ヲ開散シテ穩カニ内政ヲ整頓スルヲ得ン苟クモ然ラザレバ我日本帝國異日潰決橫流シテ或ハ禍ヲ皇室ニ延クニ至ルモ未ダ知ル可カラズ臣何ゾ尊嚴ヲ冒カシ流涕シテ之ヲ陛下ニ上奏セザルヲ得ンヤ

然レドモ内閣大臣等ハ一身ノ利害ニ惑フテ國家ノ大計ヲ忘レ臣ノ此ノ言アルヲ聞ケバ必ラズ百方口実ヲ設ケ自ラ弁解シ臣ヲ以テ安リニ現内閣ヲ讒認スル者ト為サン 陛下若シ曲直ノ在ル所ヲ疑ヒ給ハバ幸ニ在廷ノ群臣、肯テ交ヲ内閣大臣ニ通セズシテ夙ニ忠懇ノ聞ヘアル者ヲ御前ニ召シテ之ニ質スニ臣ノ言ヲ以テシ給ヘ 陛下必ラズ臣ガ言ノ安ナラザルヲ察セン 陛下尙猶ホ疑ヒ給フ所有ラバ試ニ詔ヲ下シテ大ニ天下ノ忠言ヲ求メ給ヘ其内閣大臣ヲ駁撃ス

ルノ上書ハ玉案ノ上ニ堆積スルニ至ラン。然レドモ 陛下ノ聖明ナル豈ニ此ニ察スルコト無カラシヤ臣固ヨリ 陛下ノ疾クニ内閣大臣ノ其職ニ堪エザルコトヲ知り方サニ英断ヲ出シ給フコトヲ知ルナリ

臣ハ終リニ臨ンデ更ニ一言セザルベカラザルモノアリ現内閣大臣ハ大率維新ノ前後ニ於テ臣ト俱ニ国事ニ奔走シテ若シクハ同ジク廟堂ノ上ニ立チタル者ニシテ臣今 陛下ニ向ツテ公然其咎ヲ責ムルニ於テハ私情実ニ忍ビ難キ者アリ。然レドモ彼輩既ニ輿論ノ攻撃ヲ蒙リ猶ホ其職ヲ守ルトキハ奮ク天下ヲ誤ルノミナラズ、災必ラズ其身ニ逮ハン故ニ今ニ及ンデハ之ヲ閑地ニ居キ自ラ洗磨スル事ヲ得セシムハ亦タ 陛下大臣ヲ優待スルノ道ヲ得タリト為ス所以ナリ。臣何ゾ尽言ヲ憚カラシヤ臣ハ内外ノ政務ニ就キ 陛下ニ陳述セント欲スル所此ニ止マラズ但シ今日国家ノ大事ト称ス可キ者ハ條約改正會議ノ始末ニ過グルハナク今日 陛下ノ英断ヲ要スル者ハ内閣ノ易置ヨリ急ナルハ莫シ。故ニ狂愚ヲ憚ラズ敢テ贅言ヲ上ツルコト此ノ如シ 臣象二郎誠恐誠惶頓首

を奉て之を公衆に委ねるが如きことあらば帝王主権の存する所果して何くにか在る乎此れ即ち我が国立憲の主義に於て断じて之を拒否せざることを得ず此れ亦各員の宜しく之を体知して人民の為に方嚮を指示すべき所なり。

其他政府は総て聖詔に欽遵し凡そ立憲設備の要務に属する者は逐次挙行することを怠らず百般の事益整肅着実の路に就き以て行政の機関をして弛緩敗壞の弊失なからしめんことを期せんとす。各員に在て亦心聖明の盛旨を奉体し従前既定の針路を誤らず始あり終あり以て分憂の責に對へ以て中興の大業を垂成の際に翼賛するの光榮を完くすることを怠らざるべし。

明治二十年九月二十八日

内閣総理大臣

(伊藤博文伝)

四八 明治三年三月二十九日

河瀬真孝意見書取

呈伊藤総理大臣

御清穆奉賀候陳者先々黒田大臣ノ官邸ニテ鄙見陳述致候ニ付小牧秘書官招誘陳述ヲ書取ニシ送示致候所其意

追捕 井上外務大臣関係 四八

四七 明治三年九月二六日 伊藤総理大臣訓示

内外行政ニ関シ地方長官ニ与ヘタル訓示

(前略)

第三、四年岩倉大使を派遣せられし以来我が條約改正の目的は一定して動かす屢時機を以て結果を得んことを試みたり。曩に訂盟各国と各委員を命じ商議せしも未だ局を結ぶに至らずして我が政府より延期を宣告したるは不幸にして彼此所見未だ一致の点に帰せざる者あるに由る。蓋し條約の事は国の内外に於て重要な關係を有するを以て政府は之を反覆慎重し以て将来国運の為に追ふべからざるの悔を遺すことを避けざるべからず。但だ現行治外法権の約款を改めて新に列国の間に平衡の交際を結び彼我の便益を増進せんとするの目的に至ては仍一定不變の軌道を執り而して將來に之を遂行せんとするは偏に我が国内治法律の進歩完成に倚賴せざるを得ず此れ即ち前後緩急の間操縦宜きに従ふの止むを得ざるに出る者なり。若し乃外交の事を以て之を人民の公議に付せんとするの説あるに至ては凡そ立憲王国に於て断じて取らざる所なり。蓋し兵馬及び交際の大権は皆帝王の躬親ら総攬する所にして或る場合を除く外肯て之を臣民の公議に謀るものにあらず。若し宣戰講和盟約の權

義ニ多少ノ差ヲ發見候ノミナラズ小生自己ノ陳述モ語ヲ不尽所不少候故更ニ委纏ヲ細記シ別冊ヲ成シ本日小牧ニ廻送仕候旁御疏読ヲ御願度写書一冊高誦ニ供候付テハ老台ニハ右陳述之節御出席無之故写書一冊呈送致候段黒田大臣へ可御断呉様小牧へ委頼致置候間是又御承知可被下候

右ニ付山口へノ出發遲延ニ及ト存候明後三十一日發程ノ覺悟ニ有之追テ帰房之上高意相伺度其内時下御自重ヲ祈候勿々 敬具

十二月二十九日

河瀬真孝

伊藤老台

予ニ所見アリテ内閣諸公ニ之ヲ達セント希望セシモ各員ニ就テ各個ニ演レバ時日ノ前後場所ノ不同自ラ事ニ齟齬ノ患アリ記述セントスレバ心竊カニ嫌忌スル所アリ遲疑ノ際本タ諸公列席ノ場ニ於テ其胸臆ヲ吐露スルノ幸ヲ得タリ予ノ歛悅何事乎之ニ如カン請フ是ヨリ暫時諸公ノ清聴ヲ煩ハサン抑予ノ演ベント欲スル所即所見ノ要目ハ條約改正ノ中止ヲ改メテ廢止トナラン事ヲ希望スルニアリ其之ヲ希望スル所以ノ理ハ以下追次ニ陳弁セン

夫レ我國ノ極東清國ノ東島ニ位スル哉歐米諸人曾テ其國

状ヲ知ル者少ナク英國人中良モスレバ問フ者アリ云日本ハ清ニ屬スル乎漢ニ屬スル乎將印度付庸國中ノ一ナル乎ト然ルニ近來俄ニ其情ヲ一變シ何モ日本彼モ日本ト云フニ至リ特ニ工業社会ニテハ我美術ニ模倣ヲ力メ商店ノ其大小盛否ヲ問ハズ我國品多少ノ陳列ヲナサザレバ來客ノ榮ヲナサズト云ヒ一般社会ニ有テハ日本品ナクテハ其坐席ノ修飾ニ欠乏アルノ感ヲ生ジ或ハ談話ニ或ハ記述ニ喋々説テ止ムコトナク遂ニ東洋ニ新英國ヲ生ゼリト云フニ至レリ

何故前ニハ之ヲ蔑視シ後ニハ俄ニ注目ノ厚キヲ致ス乎ヲ細視スルニ職トシテ條約改正之ガ因ヲナス夫レ我條約改正ハ明治十三年ノ交ヨリ特ニ我政府ノ勤勉努力スル所トナリ百難ニ當ルニ不撓ト堅忍ヲ以テシ各國使臣ト談判ヲ開クヤ討論統論心力ノ限リヲ尽シ一意裁判權ノ恢復ニ汲々カリシカバ茲ニ及ンデ始メテ關係諸政府並ビニ民人等ハ何ノ故ヲ以テ日本政府ハ然カク裁判權ヲ要スル乎如何ナル備ヘ有テ事茲ニ及ブ乎ヲ疑フ哉勢ノ然ラシムル所彼等ヲシテ我國情ニ注目セザルヲ得ザラシメタリ

明治ノ初メヨリ今日ニ至ル迄國事千百ノ變遷アリシガ為メニ現地ニ有テハ其ノ經過ニ疑惑アル可シト雖異邦外境ヨリ之ガ全体ニ就テ觀察ヲ下ダセバ段々落々皆其進歩ノ階梯

其ノ中央政府ノ組織權限ヨリ万短北米合衆國ニ倣ラヒ之ヲ調成セシガ為メニ体面ノ美ハ實ニ美ナリト雖其施行適用上ニ至テハ兎戯ニ比シキヲ致ス無學無能ノ黑奴如何ゾ能ク他ノ外面ニ擬似ノ事ヲ為シ知能學才ニ卓絶ナル白質人種ノ得失利害ヲ明識スルノ為ニ追隨スルヲ得ン然レバ日本ノ法律亦松茸世界ヲ現出スルモノニアラザルヤト狐疑セシニ其結果タル意想外ニ出デ機關理ニ從テ運轉シ施行年ヲ追フテ熱ス飯令ヒ法文ノ檢束ニ制セラレ活用ノ妙ニ達スルヲ得ザルモ法ヲ法トシテ真実ヲ尽シ丹心以テ事ニ從ヒ真信ノ斷ニ依テ事ヲ裁スルヲ知ル然ルニ他ノ一方ニ軋ジテ日本政府ノ復權ヲ熱望スル外國領事ニ關スル裁判上ノ情如何ヲ見ルニ領事ノ事ニ長ズル者ハ自ラ法律ニ疎トシ現ニ橫濱ニ駐在セシ古英領事ロバートソンノ如キ裁判執行ヲ要スレドモ成短ノ學識ナクテハ法律上之ニ法權ヲ与フルヲ許サザルガ故ニ半ケ年間ノ休暇ヲ得テ倫敦イノスコートニ赴キ試驗要用ノ部分ヲ學ビ僅カニ名譽法官ノ稱ヲ得テ法權ヲ得同人ノ死後ハ後任者ヲ發見スルニ苦シムト云英國ノ富饒英國ノ多能尙且ツ斯ノ如シ其他ノ諸國甚シキハ商業ヲ以テ本務トスルノ人ヲシテ領事ノ職ヲ執行セシムルガ如キ者ニ至テハ如何シテ其本國ノ法律ニ學識アラン又如何シテ其要用ナル經驗ニ富

ヲナシ恰モ先見卓識有テ之ガ透導ヲナシタルガ如キノ状アリ不爾其進歩ヤ日ヲ經ルニ從テ速度ヲ加ヘ其知能ヤ月ヲ追テ境界ヲ擴張ス飯令バ文部ノ教育ハ其報告ノ外國ニ流布スルモノト異邦人ノ之ヲ現地ニ目撃シテ報道スル所ト又新着留學生等既收ノ學量前者ニ超越スル等年一年ト其跡ヲ改ムルアリ駅遞事務ノ如キ最初ハ之ニ信ヲ置キ兼ネシモ、實際ノ經驗上其事務執行ノ真実ニシテ勤勉又精力ヲ極メ飯令尙ホ未ダ尽サザル所アルモ其實為サザルニアラズ勢ヒ止ムヲ得ザルガ為ナルヲ真信スルニ至レリ

裁判上ノ事ニハ刑法治罪法ノ名律アリテ如何ナル博識ノ歐米法學者モ其全体上ニ於テ非難ヲ容ルル能ハズ抑該法案ハボアソナードノ起草ニ係リ同人非常ノ勉力ト卓絶ノ學識ヲ以テ此法律ヲ組織セシニヨル其功勞厚ク同人ニ謝セザル可カラズ現ニ右二法アルガ為メニ今後調成サル可キ數多ノ法律モ必ズ前二者ト其組織ノ美ヲ異ニセザル可キヲ信ゼザルヲ得ザルニ至レリ然レデモ一軋シテ之ヲ見レバ法律規則ハ他國ノ成文ニヨリテ模シ得可ク其編纂ハ外國特學ノ人ニ依テ成ス可シト雖之ヲ応用實施スルニ至テハ克ク法官諸人ノ其當ヲ得ルアルニアラザレバ能ハザルコトナリ飯令バ南北米間ハイタイ島國ノ共和政治ニ於ケルガ如シ彼ノ國ハ

ヲ得ン万有ル可カラザルノ理ナリト雖飯令ニ諸領事ヲ見テ法律經驗ニ熟セル者トスルモ各港互ニ利害並ニ法律規則ヲ異ニシ其施行上各自特權ヲ以テ之ヲ左右スルノ十六七裁判官即チ十六七ノ獨立權併立ノ場合ニ於テ全國ノ法律ハ差置キ一港ノ矩約モ如何シテ之ガ施行ヲ得ン如此キ法官ヲ以テ日本裁判官ト得失ヲ爭フ果シテ如何ン元ヨリ日本裁判官ノ有様ハ改良日淺ク未ダ經驗ニ富マザルノ欠アリト雖モ誠実ノ心竟ヲ以テ事ニ從ヒ理ノアル所智ノ及ブ限リハ法理ト事實ニ就テ之ガ執行ヲ一律ノ下ニ奉ズルモノト豈日ヲ同ウシテ語ル可ケン

我工業就中美術品ハ諸外國ニ高名ヲ博シ陶漆品ニ至テハ歐洲諸國之ヲ珍重セザルノ地ナク日本人此特技殊能ヲ以テ目下ノ勤勉ヲ繼續セバ其結果知ル可カラザルモノアリ又顧ミテ一方ヲ見レバ貿易ノ進歩著シク僅々數年前迄ハ輸出入五六千萬円ノ金額ヲ昇降セシガ昨今遂ニ一億萬円ノ數ニ達シ目下ノ輸出重要品生糸ノ如キハ其最上品ニ至テハ伊仏ノ同等品ト殆等差ナキニ至レリ航海事業亦太シキ麥急ヲ生ジ西洋形船舶増加ノ數並ニ航手運用ノ技術等皆彼等豫想ノ外ニ出ヅ

貿易上外國人ノ尤注目要視セシ紙幣ト正貨ノ差ヲ同價ニ

復シタルノ速カナル萬國古今比類稀ナリ米合衆國ノ如キスヲ十余年前迄ハ兩側ノ間非常ノ差アリ伊國ノ復讐モ七八年前漸ヤクニシテ決行セリ魯埃兩強國ノ如キハ數十年來之ガ恢復ニ丹心ヲ注クモ今ニ至リ尙之ヲ如何トモスル事能ハズ然ルニ我東洋ノ一孤島即數年前迄歐米諸人等其位報ヲ見認スルニ苦シミタル日本新國ニシテ文明諸大國ノ困迫シ或ハ尙其困迫中ニアルニ際シテ独リ此ノ事ヲ決行シ得テ勢ヒ益々壯ナルヲ致セリ

我陸海軍ノ事ハ特ニ歐洲諸強國ノ注目スル所ナルガ知ル人其進歩ニ驚愕セザル者ナク軍人中實況目撃者ノ著述報文ハ僅少ノ數ニ止マラザルガ就中英國砲兵士官カーネルノレイナル者六七年前我國ニ來リ親シク諸陣營諸軍校ヲ巡覽シタル末記述セシ書中大ニ其全体ヲ稱揚シ就中我砲兵ノ事ヲ賞セリ夫レ砲兵ハ軍隊中尤重要ノモノナリ假令バ英國ノ印度ニ於ケル其二億ノ民衆ヲ統御シ其數千里ノ國境ヲ保護スルニ十八萬ノ兵ヲ以テシ内凡十二萬人ハ之ヲ土人ニ徴シ然シテ之ヲ銃隊ニ用ヒ残リ六萬許ノ英兵中ヨリ砲兵ヲ組織シ嘗テ土人ニ委スルニ此技ヲ以テセズ蓋シ其意ニ云、銃ハ卒ハ假令反乱スル事アルモ之ガ鎮壓ヲナス哉太ダ難カラズト雖砲兵ハ之ニ異ナリト夫レ我陸軍ニシテ此砲兵ニ稱揚ヲ得

ヲ設ケ兩殖民地ニハ自禦ノ備ヲナサシメ王領諸島嶼ノ樞要地ニハ砲台ヲ設ケテ一時ノ急ニ応ゼシメントスルニ至レリ夫レ其勢ヒ斯ノ如シ故ニ我東極ノ地ニ於テ艦船ノ増加ヲナスヤ一隻ト雖彼ニ於テハ關スル所小ナラズ清國ハ艦備已ニ英國ノ東洋艦隊ニ勝レルニ至レリト雖一朝事アリ雇用ノ外人跡ヲ絶タバ又必ズ福州騒動ヲ再演セント信ゼリ然ルニ彼等ノ我ヲ見ルヤ之ニ異ナリ云ク日本人ハ独力能ク耕戦ノ技料ヲ收ム萬一不幸ニシテ戰ヒ利ヲ失フ事アルモ其兵ハ又事ニ死スルヲ厭ハザル者ナリト

夫レ我海軍ニ注目スルハ英仏獨露ニ之レアリト雖就中英國ハ尤モ心ヲ傾ムクル所アリ何トナレバ一旦英露ノ間ニ事アル日ニ臨ミ日本ノ去就如何ハ一大重要ノ關係ヲ生ズレバナリ

我新聞誌ノ如キ其記事論說モ亦前日ノ比ニアラザルモノアリ(近來英國大新誌中之ヲ訳出スル事屢ナリ)又軋ジテ一方ヲ見レバ工業ノ進歩技術ノ上達人ヲシテ愕然タラシム以上ハ皆歐洲諸人ノ喋々スル所ニシテ諸新誌之ヲ掲ゲ諸雜誌亦之ヲ記ス(本年英國ノ議事中愛蘭難問上困迫ノ末或ル政府党中ノ一議員ハ我國地勢狀法ノ善美ナルアリト聞キタルヤ其法方委纒ヲ質問ノ為メ態ト我使館ニ來訪セシ事ア

ル豈賀ス可カラザランヤ然シテ爾後六七年来陸軍ノ進歩又更ニ一層ノ多キヲ加フルヲ聞ク

海軍ニ至テハ其精細ノ審査ヲナスニ容易ナルヤ陸軍ノ比ニアナズ現ニ我海軍學生ノ英國グリーニツチ大學校ニアル者其秘密部分即外國學生ニ入場ヲ許サルノ房ニ入ルノ奇會ヲ得シ折我各艦船ノ圖書ヨリ乘員ノ多少築造ノ如何架砲ノ細練蓄炭、速力ノ云々等悉皆之ヲ明記シ一目瞭然ノ備ヘアルヲ見テ驚愕シテ云ク本邦ニ在テ知了シ得可カラザルノ事ト思ヘル我諸軍艦ノ枢機概要ヲ列挙シテ残サズ其搜索討求ノ周キヲ見ルヤ不思心悚然タリト艦船互ニ相往來アルノ際之ニ接スル哉元ヨリ容易ニシテ艦内ノ如何ヲ觀察スル亦軍營ノ狀況ヲ測度スルノ難キガ如クナラズ然ルニ其我海軍ノ漸次擴張進歩スルヲ見ル哉心竊カニ之ヲ介ス抑時ノ平戰ヲ問ハズ歐洲諸國ハ交互其本國有事ノ豫備ニ間ナク英國ノ艦力他ノ最強國ニ比シ遠ク之ニ超乘スルト雖然レドモ尙有事ニ臨ミ東洋ニ派出ス可キ十分ノ艦船ナク至原鋼鉄ヲ以テ築造セル巨艦ニ架スルニ最大ノ砲ヲ以テスルモノ十有余隻ニ及ブト雖尙未ダ其近洋ニ備フルニ足ラザルノ訴ヘアリ故ニ近年以來加奈陀並ニ埃西太利重ヨリ廻艦ノ請求迫切ナリシモ遂ニ之ニ応ズルヲ得ズ其末止ムヲ得ズシテ一種ノ方法

リ)夫レ其情況斯クノ如シ歐米人ノ才能學識ヲ以テ事ヲ広ク他ノ諸國ニ比較シ依テ我人文ノ發達ヲ測度シ其実ニ世界中長歩ノ一國タルヲ信ズルニ至レリ故ニ商利ニ銳敏ナル英國人ハ其未ダ後レザルニ及デ恩ヲ沽リ利ヲ占メント謀リ竊カニ條約改正ノ成就セン事ヲ熱望シタリ何トナレバ假令英國ニシテ我ニ法權ノ復スルヲ肯ゼザラントスルモ日本ニテハ條約中ノ文意「一ヶ年ノ豫告ヲ以テ之ヲ改正又ハ廢棄スルヲ得」ルノ條項ニ由リ正理ヲ押シテ獨裁スルノ權アルヲ知レバナリ已ニ此權ヲ有スルヲ確知シ其安全至便ノ國ニ依リ以テ長大無前ノ進歩ヲナスヲ見ル英國ノ新情ヲ生ズルヤ亦勢ヒノ自然ナリ

前英公使ブランケツトハ最初我國就任ノ際ヨリ十分我為ニ尽力スルノ心得ニテ、爾來更ニ之ヲ變ズル事ナカリシヲ信ズ然レドモ時同カラザレバ事異ナリ初メ同氏ノ我國ニ就任スルヤバークスノ後ヲ受ケタルガ故ニ事ヲ皆同氏ノ行為ニ比較シ以テ寛容ノ方ヲ取リ橫濱商賈ノ意向ヲ量リ以テ事ニ從ヒシニ就任以來四カ年ノ久シキ其本國變遷ノ情況ヲ測度スル事能ハズ自ラ事ニ逕庭ヲ生ゼリ其本國ニ復歸スルヤ小事ヲ争ヒシガ為メニ大事ヲ破レリトノ評ヲ得國情ノ變遷ヲ目撃シテ自ラ愕然タルノ末言ヘルアリ云使臣タル者ハ長

ク外国ニ置ク可キモノニアラズ自國ノ情ニ明カナナラザレバ大ニ其行為ヲ過ルノ恐レアリト

全体英外務省ニテハ出来ル丈クハ日本政府ノ望ニ同意シテ改正ノ事ヲ成就セシメントスルノ口氣アリシモ同國ノ慣習トシテ大概ハ其使臣ニ委任スル事ナルガ故ニ該件モプラシケツトニ任セ置タルガ為メニ事情自ラ同カラザルヲ致セリ

意フニ條約改正ノ中止ハ主トシテ裁判權ニ関シ谷並ニボワソナードノ説ニ因レルヲ信ズルガ故今改メテ問フヲ要セズ其實ニ問フ可キモノハボワソナードノ異見ナリ予ハ實ニ何ノ為メニ同氏此説ヲナセシヤヲ解スル能ハズ何トナレバ改正議事中英獨公使ノ提出ニ係リ我政府ノ採用スル所トナリタル案件ハ實ニ明治十三四年ノ比我政府ノ起草セシモノニシテボワソナードハ當時之ニ關係セリト聞知ス然ルニ同氏前ニ之ヲ贊助シ後却テ攻撃ヲナス何ゾ夫レ自己撞着ノ太ダシキ同氏ノ議論ハ其表面太ダ重大ノ事ノ如シト雖モ其實ハ裁判官ノ雇ヒ入レトカ新法通知ノ手續キトカ獨立國ノ体面ヲ汚辱スルモノトカ皆事ノ端末瑣事ニ係ル何トナレバ其國体ヲ全フス可キ對等ノ約ニ改正セン事ハ最初ヨリ断念ノ件ニシテ法官ノ雇ヒ入レ又ハ新法通知手續其他百般ノ不

リ法官雇用新法通知ノ事ノ如キ氏ノ抗議ヲ待タズ主任者ハ初メ既ニ其不可ヲ知レリ不可ヲ知ルモ尙之ガ成ヲ勉力シテ止マザルモノ他ナシ改正條約中十余年後全ク真ノ獨立專權ヲ收得ス可キノ明條アレバナリ百千忍ブ可カラザルノ事ヲ忍ビ耐ユ可カラザルノ事ニ勝ヘント決シタレバナリ定期ノ歲月ヲ經過スル為メハ一心不乱事ニ從テ又願ル所ナカラント断定シタレバナリ難艱ニ入ル一日ヲ急ニスレバ安樂ヲ得ル一日ノ速カナルヲ致スヲ信ジタレバナリ如何ゾ吏員ノ雇用法律ノ通知等瑣末ノ事項ヲ強テ顧ミルノ暇アラン斯ク論ジ來レバ予ハ目下ノ改正ニ全ク不同意ナキガ如シト雖其實ハ太ダ然ラズ何トナレバ予ハ其改正ニ直誠對等ノ權ノ復シ得可キヲ深信スレバナリ外國人ニ不動產ヲ与フルノ一大危險タルヲ疑フ者ニアラザレバナリ今日ノ國歩未ダ外人ヲシテ内地ニ起業セシム可キノ時ニアラザルヲ知レバナリ請フ試ニ之ヲ説カン

其改正ニ對等權收得ノ理ハ前條既ニ之ヲ縷述セシガ英國ニ在テハ前ノ改正議事ニ於テ關係十余國ノ協同一致ノ得難キヲ見諸國互ニ猜疑私心ヲ以テ事ニ從ヒ紛争安定スル所ナキヲ知り我政府ノ現行條約ヲ棄却スベキヲ説ク者アリ英米獨ノ三ヶ國ト先ヅ要望ノ約ヲ成シ他ノ諸國ヲシテ之ニ屈服

都合ハ皆年所ノ定限アルヲ以テ目的トシテ之ヲ強忍シタルモノナレバナリ抑其條約改正ヲ要セシ基因如何ヲ見レバ各港十余ノ領事法權ヲ專有シ自國人ヲ偏庇シ自國權ヲ恣張シ法矩アルモ之ヲ等一スル所ナク定制アルモ確拠ス可カラズ奸徒ノ智巧ナル始下憚ル所ヲ知ラザルニ至リ所謂弱肉強食ノ勢ヒヲ成セリ就中外國公使互ニ專橫ヲ極メ某公使ノ如キハ我内外人ヲ利スル為メニ設ケシ衛生法ヲ蹂躪スルニ戰艦ヲ以テシ又某公使ニ至テハ言フ可カラザルノ言行ヲ用ヒ暴戾殆為サザルノ事ナカリシカバ我堅忍強從ナルモ終ニ之ヲ勝フル能ハザルヲ致シ其極領事ノ專有スル法權ヲ挽回シ税関ノ政令ヲ復收シ其獨立國タルノ權利幾分ヲ伸張セン為メ全國ヲ洞開シ不動產所有ノ利ヲ与ヘ地方ノ行政ニ多少關与スルヲ得ルノ特惠ヲ許ス等ヲ以テ之ニ代ヘント要望スルニ至レリ是蓋シ當時我廟堂ノ共ニ決スル所ナリ之ヲ遂ゲント欲シテ努力セシ事殆前後十星霜ヲ經タルモノナリボワソナードハ從來其事ヲ与リ知ラザル者ニアラザルナリ然ルニ予ハ嘗テ氏ノ本件ニ抗議セシヲ聞カズ蓋シ氏ハ之ヲ以テ獨立ノ國体全キヲ得ルモノトセシ乎或ハ未ダ以テ汚辱ノ域ニ入ラザルモノトセシ乎氏若シ以テ二者ノ一ニ出デズトセバ歐米諸國中例ヲ何レニ取ル乎予未ダ之ヲ知ラザルナ

セシム可シト云フ者アリ意フニ今日ニ於テ我其現約ヲ棄却スルモ歐洲ノ多事ナル彼等容易ニ戈干恐迫ノ断ヲ取ルコト能ハズ殊ニ北米合衆國ノアルアリテ我此傾向ヲ取ルヲ贊成ス夫レ北米合衆國ハ英ト雖亦獨露填伊ト雖皆為メニ一步ヲ讓ル至大ノ勢力ヲ有スルモノナリ我東隣最近ノ國ナリ此國ニシテ此贊成ヲ為ス如何ゾ歐洲諸國之ヲ顧慮セザルヲ得ン且目下ノ歐洲ノ形勢ヲ以テ之ヲ押セバ諸大國ノ共同ハ望ム可カラザルノ事ナリ就中我東方ニ關シテ英露ノ利害ハ互ニ相反ス何ゾ其武力ヲ合シテ我ニ迫マルヲ得ン事若シ茲ニ出デズシテ英タレ仏タレ獨力ヲ以テ我ニ臨マントセバ必ズ此國ノ之ニ抗スル者ヲ生ゼン然レバ已ニ今日ト雖之ガ棄却ヲナシ得可キガ如シト雖是レ全ク内ニ頼ムベキノ美有テ然ルニアラズ只ニ他ノ備ヘノ周カラザルニ乘ズルノ危道ヲ取ルモノナリ國家無窮ノ生命ヲ負担スル者豈又輕々如此所為アル可ケン。為サント欲スル事アラバ必ラズ我ニ頼ムベキモノ有ルノ後ニ於テセザル可カラズ抑々外交ハ左右兩腕ノ働ヲ要シ一方ニハ正面ノ交際法ヲ取り一方ニハ陸海軍備ノ他ヲシテ憚カラシムルモノ無カル可カラズ我國勢ニテハ特ニ海軍ノ威力ヲ要ス其物タル島國ノ長足通商ノ護手ニシテ國家榮辱ノ係ハル所生異窮通ノ分ルノ所ナリ苟モ我ニシテ之

ニ十分擴張ノ功ヲ奏セバ條約事件ノ如キニ至テハ意ヲ勞セズシテ專行ハルルニ至ルベシ近頃英國軍人中現政府ノ執權者時トシテ軍備擴張論ヲ喋々スルニ殆シ總理兼外務大臣ソースバレー侯ハ上院ニ於テ演說シテ云我限リアルノ艦船ヲ以テ世界到所ニ所領ヲ有シ宇内ノ通商貿易ニ從事スルノ國民ヲ保護スル為メ至要ノ艦隊ヲ分遣セシ後隣邦一帯ノ海ニ接スル仏國ニシテ不意ニ十萬ノ兵ヲ以テ來襲スル事アラバ我備禦ノ薄弱ナル何ニ依テ之ニ応ズルヲ得ント云者アリト雖モ我艦力ハ歐洲最強ノ二國ニ對シテ余リアリ且海軍擴張ニ五ヶ年ノ計ヲナシタルノ残余尙二ヶ年ヲ存スルノ間常費ノ外艦船構造並ニ砲器調成ノ為メ年々凡二百萬磅ヲ費スヲ得如何ゾ之ヲ以テ因循苟且ニ歲月ヲ經過スルモノト云フノ理アラシヤ不爾如何ナル接近ノ國ト雖故ナキニ渡兵ノ率ヲナシ得ベキモノニアラズ其之ヲ為スヤ必ズ為スベキノ因由アリ戰闘開結ノ專タル陸海二軍ノ殊權ニアラザルナリ、之ガ緩急ヲ取捨シ寬嚴時ニ応ズルハ外務大臣ノ本務ナリ予苟モ此重任ヲ荷フ心安ゼザル所アラバ諸君ノ勸告ヲ待ツ者ニアラザルナリト此語ヤ實ニ格言ナリ外交ト軍備ト相俟テ其用全キヲ致スノ理アルヲ説得テ妙ナリト云フベシ

「夫レ英國凡五百萬磅ノ価額ナル艦船ヲ備フルモ尙仏艦

ラズ直誠獨立ノ結約ヲナシ文明對等ノ地位ニ達セン事疑ヲ存セザルナリ理亦疑フ可キモノアルヲ見ズ」

夫レ現行ノ條約ハ嘉永安政ノ間ニ成リ明治ノ政府ハ其政權ト共ニ之レガ責任ヲ繼續スルニ止マルモノナリ然ルニ今ニ於テ一ニ強國ノ顧看ヲ哀請シ、他諸國ノ怨怒ヲ來タシ他ノ許サザルヲ許シ人ノ与ヘザルヲ与ヘ屈辱汚慚以テ自國ノ束縛ヲ取ル片條約ナル改正ヲ成サバ後世子孫將タ之ヲ何トカ云ハン元ヨリ國家ノ重任ヲ負フ者ハ事ヲ一身ノ快ニ取テ止ム可キモノニアラザレバ事ニ勢ニ依テハ耐ユ可カラザルニ勝ヘ忍ブ可カラザルヲ忍ブヲ要スト雖本件ノ如キハ之ニ異ナリ我已ニ收ム可キノ資ヲ有シ他亦之ニ応ゼントス何ノ憚ル所アリテ為サザルノ理アラシヤ領事ニ仮スニ數年間ノ法權ヲ以テスルハ心元ヨリ懽ヨカラズト雖然レドモ其威權タル我國勢ノ張弛ニ依テ反對ノ運動ヲナスノ理アリ我國力ノ伸張スルヲ見バ彼等勢ヒ縮少セザルヲ得ズ（假令バ萬國公法ノ如キ正理公論ノ定マル所アリト雖其之ヲ執行スルニ至テハ用法結果共ニ国力ノ如何ニ依テ異ナルヲ致ス前日ノ領事必シモ今日ノモノト同ジカラズ今日ノ領事又他日ト異ナラザルヲ得ズ）左レバ其數年ヲ假スモノ未ダ必シモ太ダシク患フ可カラズ其實ニ患フ可キハ改正ニ依テ不動產ノ所

ノ千五百萬磅ニ越ヘザルノ価額ヲ有スルヲ憚リ伊國ノ海軍近頃特ニ名アリト雖モ其全価額千四百萬磅ニ止マル西班牙ノ新ニ諸大強國ノ伍中ニ入リシモノ其摂政後ノ賢德ト内治少シク緒ニ就キシト且國土ノ位地等相待テ然リト雖其實ニ之ヲシテ然ラシメシモノハ三ヶ年前其官有土地価額一千萬磅ニ當ルモノヲ売却シ其全額ニヨリ九ヶ年ヲ期シテ海軍ヲ擴張スベシトノ議ヲ決シ爾後レニ依テ事ヲ經營スノモノ尤以テ原因ヲナセリ」

我國ノ近來文明進取ノ名ヲ博スルヤ實ニ陸海二軍ノ伸張与テ大ニカアリ何トナレバ二軍ハ國家ノ背骨ナリ其健否ハ金土萬般ノ消長ニ係ル目下尙未ダ太ダ幼稚タルノ名実ヲ免レズト雖過去ノ經歷ニ依テ將來ヲ推セバ殆偵視ス可カラザルモノアレバナリ

夫レ海軍擴張ハ實ニ國家ノ一大事業ナリ朝ニ求メテタニ得ベキモノニアラザルナリ我目下ノ形勢之ヲ短ニスルモ十ヶ年ヲ期セザルベカラズ如何ナル巨額ノ金円ヲ消費スルモ實ニ臨デ急ニ其求ヲ辨ジ得ベキモノニアラズ我能ク今ニ及ンデ長年大成ノ榮ヲ取り一定動ス可カラザルノ決行ヲナサバ未ダ其終期ニ達スル數年ノ前ニ於テ現今ノ苦難ナル條約改正ハ必ズ成功スルヲ得ン且雷ニ之ヲ改正シ得ベキノミナ

有權ヲ与フルニアリ抑外諸國ノ我條約改正ヲ竊カニ熱望スル所ノモノ内地ノ洞開ニ依テ貿易ノ利ヲ伸張スルニアリト雖其主眼トスル所ハ礦山ノ業ハ多クハ甚ダ巨大ノ拳ニシテ少ナキモ數百人多キハ數千人ヲ使用シ其地域狹少ナルモ數町ニ跋リ、巨大ナルハ數里ニ及ブ然ルニ我礦山ハ諸府県ニ周ク既ニ發見ノ數夥多ナリト雖今後顯出ス可キモノ幾百千ナルカラ知ル可カラズ。若シ外人ヲシテ其巨大ノ資金ト卓絶ノ技術ヲ以テ事ニ之ニ從ハシムルニ至ラバ我幼稚ノ技料ト薄弱ノ元資ニ依ル者如何シテ之ト相抗スルヲ得ン其相抗スルヲ得ザルヤ衰廢ノ勢ヒ自ラ怨恨ヲ生ジ、人種ノ異ナル言語ノ同ジカラザル亦其禍ヲ助ケ成シテ終ニ外國政府ノ関涉ヲ來タスニ至ラン萬一不幸此事アラバ其患タル推測ノ及バザルモノアラシヤ既ニ我ノ小弱ナル對等ノ政略ヲ取ル能ハザルガ為ニ諸國交互ノ條約上ニ許サザルノ不動產所有權ヲ与フベキヲ約シ、外人ニ許スニ此危險煩難ノ事ヲ以テシ些々タル領事法權ノ復收ニ代ヘントセバ予ハ其利ノアル所ヲ知ラザルナリ

諸典並ニ西班牙ハ共ニ礦山上外國人ノ為メニ苦情アリ西班牙ニ至テハ尤モ太ダシ諸典西班牙ノ諸國ハ條約上ニ依テ不動產所有權ヲ外人ニ許シタルモノニアラズ各人ノ請求ニ依リ或

ハ其国法ヲ以テ特ニ之ヲ許可シタルニ止マルモノナリト雖
然レドモ尙之レ至大ノ困迫ヲナス豈深ク鑑ミザル可ケンヤ
又仮令ヒ之ヲ許スコトアルモ是等ハ主權ノ特惠ニ付シ又ハ
内国ノ法規ヲ以テ施行ス可キノ事ナリ決シテ他国ト相結ブ
可キ條約中ニ加フ可キモノニアラザルナリ

目下ノ條約必ズ今ニ及ンデ之ヲ改正セザル可カラズト云
フガ如キ切迫ノ実アルヲ見ズ改正シテ前陳ノ如キ不利益ア
ランヨリハ寧シロ現行ノ儘ニテ之ヲ忍ビ暫ク十分ノ心力ヲ
海軍擴張ニ尽シ國勢ノ伸長ヲ待テ真ニ獨立對等ノ完全ナル
條約ノ調印アラン事ヲ欲ス是レ今日ノ條約改正ノ中止ヲ改
メテ廢止トナサン事ヲ切望スル所以ナリ

四九 明治三年二月 尾崎三良覺書

呈伊藤總理大臣外交政略ニ関スル覺書
別紙外交政略ニ関スル意見書ハ三良先年露国ヨリ帰朝
ノ途次筆記セシモノニシテ當時ノ外務卿ニ進呈セント
欲セリ然ルニ當時外務卿ハ銳意條約改正ノ事ニ從事シ
他ヲ顧ルノ邊ナキガ如シ。三良謂ヘラク今当局者ノ銳
意類ノ如シ必ズ数年ヲ出デズシテ満足ノ結果ヲ得ベシ

又近時安南緬甸ノ例アリ歐洲競争ノ勢漸ク將ニ東洋ニ
盛シナラントス豈寒心セザルベケンヤ然ラバ則之ヲ如
何シテカ即可ナランヤ昔シ北米ノ人民英國ノ羈絆ヲ脱
セントスルヤ華盛頓自ラ烏合ノ衆ヲ率テ英國ノ正兵
三萬ニ抗ス此時ニ当テヤ北米人民僅ニ三百萬兵器糧食
ノ備具アルニアラズ徒手若クハ獵銃耒鋤ヲ取テ華盛頓
ノ旗下ニ雲集スルモノ萬余然レドモ皆紀律節制アルニ
アラズ且糧食屢々乏ク兵卒飢餓ニ瀕スルモノ數回然ル
ニ兵皆背クニ忍ビザルモノハ華盛頓主トシテ自己ノ財
産ヲ抛テ以テ一時ノ急ヲ救ヒ衆皆感奮農賈ノ財アルモ
ノハ皆争テ之ニ依ル兵卒亦飢寒ニ苦ム事アリトイヘド
モ敢テ逃走ヲ思フモノナシ是ヲ以テ人心一致能ク烏合
ノ衆ヲ將テ英國ノ紀律アル正兵ニ抗スル事始終七年終
ニ他国ノ感情ヲ喚起シ以テ獨立ノ大業ヲ為シ以テ今日
合衆邦ノ隆盛ヲ為スニ至レリ三良常ニ以為ク我國開港
ノ初既ニ獨立ノ権理ヲ失ス之ヲ恢復スルハ宜ク北米ノ
獨立ヲ謀リシ先蹤ニ倣フベ即今日ノ政治皆悉ク其方針
ニ向テ外ニ向テハ即別紙意見書ノ主意ニ基キ漸次之ヲ
實際ニ施シ内ニ於テハ即凡百ノ事我獨立ヲ恢復スルニ
直接ノ要用アラザルモノハ皆之ヲ後ニシハニ官吏ヲ陶

強ヒニ局外者ヨリ意見ヲ述ルノ必要ナカルベシト刮目
以テ其成績ヲ歎ツ然ルニ頃日ニ至リ俄然其議ヲ中止セ
ラレタリ而シテ今日マデ銳意從事セラレタルノ成績ハ
大ニ朝野ノ注目スル所ト為リ公衆ノ嘗テ希望スル所ノ
モノトハ相副ハザルガ如シ再來益々別紙鄙見ノ外他ニ
求ムベキノ道ナキヲ信ズ是ヲ以テ今改メテ之ヲ淨写シ
以テ左右ニ呈ス。伏テ乞一読ヲ賜ヘ但其記スル所六年
前ニ係ルヲ以テ、統計上今日ノ事實ト少差ナキ能ハ
ズトイヘドモ其主旨ニ關係ナキヲ以テ今之ヲ改正スル
ニ及バス

抑方今外交政略ノ事益々切迫若シ今日ニ於テ確乎不拔
ノ国是ヲ定メズンバ國家ノ存亡亦知ルベカラズ蓋シ我
國開國ノ始ニ於テ既ニ已ニ獨立ノ権理ヲ毀損セラレタ
リ之ヲ恢復スルノ業固ヨリ當ニ容易ナラザルベシ但シ
之ヲ恢復セザレバ勢終ニ外國ノ奴隸ト為ラズンバ已マ
ズ三良會テ歐洲ニ往來スルノ途次屢々印度及マレー地
方ヲ經過シ其人民ノ欧米人ニ虐遇セラルノ情況ヲ見テ
以為ク凡ソ他國ノ屬民ト為ル程世ニ慘酸ナルモノハア
ラジト常ニ其人民ノ不幸ヲ慨歎セズンバアラザルナリ
是レ衆人ノ目撃耳聞スル所ニシテ三良ノ喋々ヲ待タズ

汰シ不急ノ事業ヲ廢シ他ノ政費ヲ節略シ民心ヲ養ヒ專
ラカヲ護國ノ用ニ供シ上下一致薪ニ臥シ膽ヲ嘗メ我
全然獨立ヲ得ルヲ以テ目的ト為スベシ抑我國現今ノ情
況ヲ以テ北米當時ノ情況ニ比スルニ人口ノ多寡兵備ノ
優劣同日ノ論ニアラス況ンヤ萬世一系ノ

聖天子上ニ在マス勢順ニシテ名正シ苟モ精神一ニ到ラ
バ成ラザル所ナケン誠ニ能ク此ノ如クナルトキハ豈嘗
ニ東洋ニ獨立ヲ全クスルノミナランヤ欧米諸國ヲ相凌
駕スルノ日モ亦期シテ望ムベシ其方法節目ニ到テハ又
自ラ説アリ先ヅ其國是ヲ此方針ニ定メラルル時ハ則隨
テ之ヲ講求スルモ亦以テ遲シト為サズ三良憂國ノ情默
止シガタク忌諱ヲ憚カラス聊爰ニ鄙見ヲ吐露シテ以テ
閣下ノ採択ニ供ス閣下其憂國ノ衷情ヲ諒トシ他事ナキ
ヲ察セバ幸甚 三良頓首再拜

明治二十年十二月

尾崎 三良 謹白

總理大臣 伊藤伯爵閣下

(別紙)

上内閣執政論外交略 (明治十四年十二月草)

尾崎三良謹テ書ヲ内閣執政閣下ニ呈ス三良伏惟ルニ外國

條約改正ノ事タルヤ先年我が改正セント欲スルノ意ヲ各國ニ通告シ爾來特命全權大使ヲ遣シ以テ各國ニ遊説セシメ或ハ理事官ヲ分派シ以テ制度法律ヲ研究シ兼テ民情風俗ヲ視察セシメ彼ノ長ヲ取り我が短ヲ補ヒ益々我法律制度ヲ改良シ百万條約改正ノ術ヲ尽ス事茲ニ十有餘年未ダ成ル所アラズ客年我英明ナル政府大ニ發奮勵精改正ノ主意ヲ定メ新クニ特命使臣ヲ各邦ニ派シ將ニ以テ大ニ為ス所アラントス是ニ於テ衆皆以為ク此事ヤ尋常旧套ノ舉ニアラズ有司ノ英邁博識ヲ以テ英仏ノ法律家ノ粹ヲ拔キ托スルニ專決熟達ノ使臣ヲ以テス其為スアルヤ必セリト刮目以テ俟ツ爾來曠日彌久未ダ其成敗ヲ知ラズ孰レカ之ヲ慨歎セザランヤ此舉ニシテ成ルナクンバ將タ何ノ時力之ヲ俟ンヤ退テ深ク之ヲ追究シ沈黙熟思之ヲ久フス一旦豁然トシテ悟ル所アルガゴトシ抑我改正ノ主意ハ則可ナリ其術ニ於テハ未ダ得ザル所アリ若シ其術ヲ得ズンバ假令ヘ蘇張ノ弁アリトイヘドモ而モ用ヲ為シガタシ荏苒更ニ十數年ヲ過ギバ治外法權ノ弊益々膏肓ニ浸入シ終ニ救済スベカラザルニ至ラントス誠ニ寒心セズンバアルベカラザル也、三良曾テ聞ク寡ヲ以テ能ク衆ニ敵スル者ハ其術敵勢ヲシテ分離セシムルニ在リト未ダ敵勢ヲシテ合從セシムルノ得策タルヲ聞ザル也在昔嬴秦ノ六國

ノ人民独リ内地雜居諸工營業ノ便ヲ得バ必外商ノ利ヲ專有スルニ至ラン然シテ他外國商売ノ其利ヲ競ハント欲スルモノ同等ノ便宜ナキヲ以テ相競爭スルヲ得ズ終ニ自ラ其治外法權ヲ拋棄シテ以テ内地雜居ノ准許ヲ得ント欲スルモノアラン、瑞西和蘭等ノ人民ノ如キ則是ナリ其他英仏独ノ如キ徒ラニ其強ヲ恃ミ其人民ヲシテ我法律ニ服從セシメザラント欲ストイヘドモ而モ其人民自ラ進テ治外法權ヲ拋棄シテ以テ其利ヲ競爭セント欲スルニ至リ利害去就ノ勢終ニ防グベカラズ其政府亦應サニ之ニ從ハザルヲ得ザルベシ是レ三晋先ヅ亡テ而シテ齊楚独リ其強ヲ保ツ能ハザルニ似タリ或ハ之ヲ難シテ曰各國條約皆優待國云々ノ條款アリ苟モ一國ニ准許スルノ條件ハ即之ヲ各國ニ准許セザルノ約ナリ是レ則各國ノ條約同時同一ノ改正ニアラザレバ之ヲ行フ能ハザル所以ナリ今若シ三國ノ人民ニ内地雜居ヲ准居セバ即同時ニ之ヲ各國人民ニ准許セザルヲ得ズト三良曰ク然リ彼レ前三國ノ例ニ由テ之ヲ謂ハバ乃我亦應サニ三國ノ例ニ准ジテ之ヲ許スベシ是レ我望ム所ノミ何ノ不可力之アラン彼レ將タ其治外法權ヲ維持シテ特ニ三國同一ノ權利ヲ得ント欲センカ是レ獨衆人ノ耶蘇聖刹ニ入ヲ見乃チ謂ク我モ亦同等ノ人民ナリト帽ヲ脱セズシテ之ニ入ラント欲スルガゴト

ニ於ルヤ常ニ其合從ヲ解クヲ以テ術ト為ス六國ハ即合從ヲ以テ利ト為ス故ニ合從スレバ則強秦トイヘドモ之ヲ如何トモスルコトナシ蓋シ之ヲ分離スルノ策惟其利害ヲシテ各々異ナラシムルニ在ルノミ利害之存スル所ハ乃チ去就ノ判ルル所是勢ノ常情ナリ異ナル哉我各國ニ對スルノ政略ヤ其策當ニ同一ノ方法ヲ以テ同時ニ攻擊ヲ各國ニ試ム是レ雷ニ彼レノ利害ヲシテ相因ラシムルノミナラズ益々其勢ヲ合從シテ以テ我ヲ待ツアルノミ既ニ衆寡難從ノ數ニ背キ又利害去就ノ勢ニ反ス区々タル公法獨立ノ理義ヲ説モ亦何カノ益カ之アラム苟モ此ニ由テ而シテ彼レヲ求ムハ猶木ニ縁テ魚ヲ求メ逆行シテ而シテ進ンコトヲ求ムルガ如シ百年ヲ待ツトイヘドモ恐クハ我獨立ノ寒効ヲ見ル能ハザランコトヲ

今我レ吾ガ寡ヲ以テ各國ノ衆ニ當ラント欲ス宜ク先ヅ其合從ヲ解クベシ其合從ヲ解カント欲セバ先ヅ各國ノ利害ヲシテ相依ラザラシムベシ其方乃チ各國中二三大国尤モ我レニ便ナルモノヲ選ビ之ニ謂テ曰ク貴國其領事裁判權ヲ棄テ貴國人民ヲシテ悉ク我法律ニ服從セシメバ則我レ貴國人民ニ許スニ内地雜居、釐山、諸工營業ノ便ヲ以テスベシト彼レ必ズ応ズル者アラン是レ我國治外法權ヲ廢スルノ初步也首トシテ應ズルモノハ乃チ魯米伊ノ三國ナラン。若シ三國

シ讐ヘバ猶衆人ノ覬刺スルヲ見乃チ謂ク我モ同等ノ人民ナリト網錢ヲ出サズシテ劇ヲ觀ント欲スルガ如シ孰レカ之ヲ可トセンヤ夫レ帽ヲ脱スルハ乃チ聖刹ニ入ルノ禮儀ナリ網錢ヲ出スハ乃チ劇ヲ見ルノ代価ナリ吾ガ法律ニ服從スルハ乃チ内地雜居ノ禮儀也代価也其礼ヲ行ハズ其価ヲ出サズシテ独リ其權利ヲ得ント欲ス安ニ非ンバ狂ナリ設シ此説ヲ以テ一理アリトセン乎往年吾樺太ヲ魯ニ与フガ如キ千島ハ即其代価也猶各國最優待國ノ條約ニ由リ樺太同一ヲ要求スルノ權利アリト云フガゴトシ西洋稗史アリ巧ニ強弱ヲ凌グノ情勢ヲ描出ス曰ク一日羸羊清波ノ下流ニ飲ス猛狼忽然來リ怒テ曰汝何ゾ我浴スル所ノ清水ヲ攪乱シテ汚泥ヲ揚ル乎ト羊戰慄出ル所ヲ知ラズ乃答テ曰ク小生下流ニ飲ス何ゾ汚泥ヲ上流ニ溯シテ大爺ノ浴ヲ防ゲンヤ寧ロ大爺ノ我飲水ヲ濁スルコトナカラシヤ然リトイヘドモ偶々以テ大爺ノ忌諱ニ触ル請幸ニ恕セヨト言辭甚慇懃ナリ狼益々怒テ曰汝何物ノ黠児カ敢テ大家ニ對シ喋々ヲ弁ズ我レハ只汝ノ肉ヲ欲スノミ汝猶弁ズル所アリヤト竟ニ之ヲ噬食ス斯ノ如ンバ則区々ノ理論慰懃ノ言辭何ノ益力之アラン偶々以テ其凌辱ヲ益スルニ足ル寧ロ初ヨリ其爪牙ヲ鋭クシ其咆哮ヲ壯ニシ以テ待ツアル耳況ンヤ未ダ各國中此ノ如キ暴論ヲ實際ニ主張ス

ルモノアルヲ聞ザルヲヤ其偶々之アル則一二術數ノ徒虚聲ヲ以テ合從ヲ維持セント欲スルノ方略ニ過ギザル耳世一二暴客如此モノアルヲ以テ聖刹ヲ閉デ劇ヲ演ゼザラント欲セバ孰レカ之ヲ嗤ハザル者アラシヤ

或ハ又難ズルモノアラン曰設令ヘ子ノ言ヲシテ行ハレシメバ乃其治外法權ヲ棄テ來ルモノ陸続トシテ之アラバ則何國人ヲ問ハズ皆内地雜居鉅山營業等ヲ准許セザルヲ得ズ然ルニ我人民資本ニ乏シク工業ニ慣レズ外國人ト競争スル能ハザルヤ必セリ到底我内地ノ產原悉ク外國人ノ專有スル所ト為ラン將タ何ゾ我富強ニ裨益スル所アランヤト三良曰是我富強ノミ抑我富強ヲシテ歐米各國ニ並立セシメント欲セバ乃チ彼レノ資本技術ヲ輸入シ以テ我天產ヲ開進スルニ在リ惟其速ナラザルヲ恨ムノミ三良ノ此說ヲ持スルヤ久シ今謹デ其說ヲ陳ヘン伏テ乞フ聴ヲ垂レヨ

夫レ魯國比得大帝ノ時ニ當リ其國車味舟車ノ利鉅山ノ業製作ノ工皆未ダ全ク開ケズ人民無智蒙昧歐洲各國ノ富強ニ劣ルコト嘗ニ今日我國ノ歐米ニ於ケルガ如キノミナラズ大帝不世出ノ資ニ憑リ英邁ノ謀圖ヲ以テ草昧ノ邦國ヲシテ一躍歐洲各國ニ並行セシメント欲ス大ニ外國人ヲ奨励シ其魯國ニ來テ營業スル者ハ乃チ殊遇特典ヲ与ヘ以テ之ヲ誘導シ

コロニ集ル是亦多クハ外國巨商豪賈ノ出ス所ニ係ルト云

抑我國土天產ノ富饒ナル魯國ノ比ニアラズ土地ノ広大口ノ多寡魯國ニ及バズトイヘドモ其人民ハ皆純粹ノ國民也而シテ其一般ノ教育ニ於ル魯國人民ニ優ルコト數等（魯國徵兵千八百六十年ニ於テ百人中字ヲ知ルモノ僅ニ二人アリ千八百七十年ニ於テハ乃チ十一人アリト云）顧ルニ其富強未ダ及ザルモノアリ何ゾヤ蓋シ國ノ富強ヲ進メント欲セバ須ク先ゾ其產原ヲ興起スベシ產原興起セバ則貿易隆盛也貿易隆盛ナレバ則歲入増殖セン海陸軍備隨テ充實スベシ是レ乃チ富強ノ實也蓋シ產原ヲ興起スル未ダ曾テ人工ニ由ラズンバアラズ其目夥多アリトイヘドモ其大ナルモノハ鐵道ヲ架シテ以テ運輸ノ便ヲ開キ鉅山ヲ開拓シ製鐵場ヲ設置スル等ノ數事ニ在リ此數事能ク興セバ則自余ノ產原隨テ繁殖スベキ也我政府此ニ見アリ夙ニ生徒ヲ歐米ニ遣シ以テ其技術ヲ伝習セシメ鐵道電線ヲ架シ以テ運輸通信ノ便ヲ圖リ技術家ヲ海外ニ聘招シ以テ製鐵場ヲ創設シ孜孜情ヲザル事此ニ十余年其効見ルベキモノアリ然リトイヘドモ惜ラクハ其規模未ダ十分ナラズ顧ミテ歐米各國ニ凌駕スルノ期ヲ望ム茫乎トシテ津涯ナキガ如シ蓋シ維新ノ政百事草創ニ屬ス其規模ヲ擴充セント欲シテ勢遽カニ為スベカラザルモノ

百方遠人ヲ懷柔シ國土ヲ開拓スルヲ以テ要務ト為ス嘗ニ曰遠人ヲ柔ゲ百工ヲ來ストハ大帝有焉子孫能ク厥ノ遺猷ヲ襲ギ祖訓ヲ墜サズ氣候ノ沍寒土地ノ僻鹵ニ係ハラズ未ダ百年ナラズシテ其都府ハ乃チ歐洲大都ノ一ニ居ル現今其景況ヲ目撃スルニ市街舖店ノ宏大ナル家屋宮殿ノ壯麗ナル鐵道車馬ノ浩繁ナル巨商豪賈ノ夥多ナル鉅業製作ノ隆盛ナル一トシテ目ヲ驚サザル者ナシ然リ而シテ其巨商豪賈ハ概ネ独逸人ニアラザレバ即仏人ナリ其製造所ノ大ナルモノ多クハ英人ノ所有ニ係ル其他鐵道航海ノ業鉅山鉄工ノ利魯人ノ從事スル所ノモノトイヘドモ過半ハ外人ノ資本ニ係ル乃其富ハ概ネ外國人ニ屬スルヲ以テ魯國ニ裨益スル所ナシト謂テ可ナラン乎決シテ然ラザル也彼レ皆魯ノ法律ニ服從スルコト魯人ニ異ル所ナシ巨商豪賈ノ產ハ則散ジテ輸出ノ貨物ト為リ鍾テ租稅ト為リ擬テ百萬ノ貔貅ト為リ延テ萬里ノ鐵道ト為リ城堡甲艦砲銃ト為ル然ラバ則外人ノ魯國ニアル營業ノ隆盛ナルハ即皆魯國ノ富強ヲ致ス所以ナリ蓋シ其人口我ニ二倍半（八千五百萬人）其歲入ハ乃チ我レニ十倍（無慮六億二千萬円）陸軍ノ強我ニ二十五倍（八十八萬）鐵道ノ長我ニ二百倍（萬五千英里）其他海軍鉄航砲銃等ノ具亦各々之ニ適ス其非常有事ノ時ニ際シ國債ヲ募ル乃チ數億萬金立

アリ

今夫レ歐米各國人工產製原ノ度我レニ超越スル事既ニ數等而シテ尙日々ニ益々進デ已マス我レ之ト並行シテ相凌駕セント欲ス宜ク何ヲ以テカ相競争スベキヤ不充分ノ資本ト僅々タル伝習生徒及聘招外人トニ由テ相競争セント欲ス嘗ニ追求スル能ハザルノミナラズ或ハ恐ル彼レノ進度我ヨリ速ナルヲ以テ吾等却テ逡巡之ヲ距ル益々遠カラシム事ヲ故ニ速ニ歐米ノ富強ニ凌駕セント欲セバ即魯國ノ例ニ倣ヒ海外ノ技術資本ヲ輸入シテ以テ我天產ヲ開進スルニ若カズ其方則彼レヲシテ自ラ其資本ヲ投ジ其技術ヲ施サシムルニ在リ彼レヲシテ自ラ其資本ヲ投ジ其技術ヲ施サシメント欲セバ則利ヲ以テ以テ之ヲ誘クニ在リ利ヲ以テ之ヲ誘カント欲セバ則彼レニ内地雜居諸工營業ノ便ヲ与フルニ在ル耳

今夫レ歐洲各國其本土ハ概ネ其技術智巧ヲ極メ天產ヲ尽シ資本流溢ス故ニ其利益ハ幾ト最小限ニ達スルモノアリ（英國ハ資本ノ利子年百分ノ三和蘭ハ百分ノ二・五）故ニ其人民ハ百方其技術資本需用ノ場所ヲ求メテ而テ行ント欲ス是レ西洋人ノ氣風進取ニ富ム所以ナリ我國土ハ乃チ天產ノ富國也而シテ未ダ人工ヲ經ザルモノ多シ今若シ彼レノ資本ヲ此ニ移シ彼レノ技術ヲ用キシメバ其利ハ乃チ本國ノ産業

ニ倍倍スルヤ必セン彼レ應サニ争テ之ニ赴クベシ是レ自然ノ勢ナリ故ニ日利ヲ以テ之ヲ誘クニ在リト誠ニ能ク斯ノ如クナレバ乃チ産原ノ繁殖期シテ而シテ埃ツベキ也産原繁殖セバ乃チ輸出盛大ナリ輸出盛大ナレバ其国貧且ツ弱ナラント欲ストイヘドモ可得乎

縱令ヘ外国人内地ニ侵入シ其利益ヲ占有スルモ我レ敢テ顧慮スル所ナキモノハ則我法権確立シ彼レヲシテ我人民ト同ク我レニ服從セシムル事猶独人仏人ノ魯ニ在ルガ如クナラシムルニ在リ若シ然ラスシテ妄リニ彼レヲシテ我ガ内地ノ利益ヲ占有セシメバ乃チ國中無數ノ小独立国ヲ生ズルガ如シ其富我富ニアラズ其強我強ニアラズ国憲紊亂終ニ我獨立ヲ保持スル能ハザルニ至ラン是レ亦深ク警察セズンバアルベカラザルナリ

今外国人ヲシテ治外法權ヲ去リ自ラ本国ノ資本技術ヲ移シテ之ヲ我内地ニ用キシメント欲セバ前陳ノ如ク宜ク先ヅ縮盟各國中我ニ便ナルモノヲ選ビ之ト約ヲ為シ彼レヲシテ其領事裁判權ヲ廢セシメ我レ彼レニ許スニ内地雜居諸工營業ノ便ヲ以テスベシ我政府及地方官モ亦須ク意ヲ加ヘ不公不理ノ所措ヲ謹ミ彼レヲシテ我内地ニ安堵セシムベシ是ノ如クナレバ乃チ他ノ外商亦其利アリ害ナキヲ見バ豈永ク其

ニ彼レト並肩セザレバ則其奴隸ト為ラズンバ已マズ殷鑑遠カラズ東洋ノ外交事情甚切迫之ヲ今日ニ救済セズンバ將ニ噬臍ノ悔ヒアラントス匹夫野人トイヘドモ苟モ我國民タル者豈独リ其災殃ヲ免ルヲ得ンヤ是レ上下薪ニ坐シ膽ヲ嘗ルノ秋ナリ伏テ顧クバ閣下其唐突ノ罪ヲ恕シ其衷情ヲ察シ採

利欲ヲ抑遏スルヲ得ンヤ必ズ陸統競テ以テ至ラン終ニ各港ノ領事裁判序モ亦自然ニ無用ニ歸スベシ(在外國人相互ノ民事ハ姑ク其領事等ニ委スルモ可ナリ是レ外國ニ於テモ類例アレバ我國權ヲ傷ル事ナシ)

是レ理論ヲ後ニシテ利ヲ以テ之ヲ誘導シ彼レヲシテ防グノ方ナカラシメ漸次以テ我目的ヲ達シ一面ハ乃チ我ガ尤惡ム所ノ治外法權ノ弊ヲ除キ一面ハ乃チ我ガ尤モ樂フ所ノ富強ノ利ヲ得真ニ一挙而得ノ策ナリ若シ又治外法權ノ拋棄セズシテ偏ヘニ内地雜居ヲ得ント欲スルモノアラバ乃チ棚錢ヲ出サズシテ劇ヲ觀ント欲シ千島ヲ讓ラズシテ樺太ヲ奪ハント欲スルノ徒ノミ我何ゾ其狂妄ヲ聽カン乎我レ惟我ガ地理ノ有ル所ニ立チ確乎トシテ動カザルノミ彼レ若シ之ニ繼グニ暴ヲ以テセントスル乎是レ我ヲ羸羊視スルノ豺狼也我惟吾瓜牙ヲ銳クシ我咆哮ヲ壯ニシテ以テ待ツアル耳何ゾ自ラ甘ンジテ羸羊ト為ルベケンヤ況ンヤ彼レ未必シモ豺狼タラザルニ於テヲヤ三良自責任アルニアラズ而シテ忌諱ヲ憚ラズ敢テ呶々此ニ及ブモノハ蓋シ近日内地鐵道敷設益々盛ニシテ我國東西兩端ノ往來一兩日ニ縮小シ其事情往日ノ日本ニアラザルベシ其時ニ當リ永ク外人居留地ノ制限ヲ維持セント欲スルモ勢得ベカラザラントス之ヲ要スルニ氣運既

扱スル所アラバ天下幸甚

明治十四年十二月

尾崎 三 良 謹白

(伊藤公秘書類纂)